

令和六年度使用小学校教科用図書選定会議

総括部会

# 報 告 書

令和5年7月3日

北九州市教育委員会  
教育長 田島 裕美 様

教科用図書選定会議総括部会

(有識者代表)  
副会長

飯田史也 印

令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について (報告)

このことについて、当選定会議において、北九州市教育委員会の依頼に対し、慎重に審議を重ねた結果、別紙のとおり報告します。

(PTA代表)

副会長

落野朝美 印

(国語)

部長

松中保明 印

(書写)

部長

東 由美 印

(社会)

部長

宮崎貴寛 印

(地図)

部長

針尾泰久 印

(算数)

部長

奥 浩太郎 印

(理科)

部長

南里幸一 印

(生活)

部長

新森勝貴 印

(音楽)

部長

酒井理寛 印

(図画工作)

部長

外山典子 印

(家庭)

部長

中尾みどり 印

(保健)

部長

三原達也 印

(英語)

部長

緒方 真奈美 印

(道徳)

部長

西村直美 印

副部長 小田口 順子 印

副部長 内村 健太郎 印

副部長 江藤 直子 印

副部長 泉 徳明 印

副部長 加藤 恵美 印

副部長 豊田 剛 印

副部長 春野 克俊 印

副部長 井上 紫穂里 印

副部長 伊東 保智 印

副部長 白井 由紀子 印

副部長 森田 元一郎 印

副部長 山田 百合子 印

副部長 島 利弘 印

発行者名		東京書籍
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の達成目標に結び付く内容になっている。</li> <li>・6年「どう立ち向かう？もしもの世界」では、多面的に検討するためにSNSの投稿を資料として取り入れられており、時代に即している。</li> <li>・1年入門期導入(ひらがなを学習する前)において、文が多くやや難易度が高く感じる。</li> <li>・事例が身近でないものがあり、児童によっては難易度がやや高いと考えられる。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「デジタルノートのつくり方」やローマ字のタイピング練習ができる二次元コード等がついており、ICTを活用した学習にも対応している。</li> <li>・「読むこと」の大切なポイントが分かりやすく、1年生では「場面」、4年生では「山場」など、早い段階で学習用語を使用している。</li> <li>・情報活用能力を高めるために、単元の配列を工夫しているところがよい。</li> <li>・全体的に事例が身近ではないものも多く、発達段階に即していないものがある。(1年上「さとうとしお」、2年下「あなのやくわり」等)</li> <li>・4年下「『和と洋新聞』を作ろう」は、書く内容が限定され、児童の関心・意欲につながりにくい場合がある。</li> <li>・5年「わたしの文章見本帳」は、内容が難しく、設定された時数で見本帳を作るのは、困難な児童がいることが想定される。</li> <li>・(学校)1年生では、MIM が取り入れられているのがよい。手を打つことによる音節の指導が継続して取り上げられているので指導しやすい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字が大きくて見やすいが、分量が詰まって見える。</li> <li>・(学校)文の量が多く、ページ内の情報量も多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の導入の扉が見開きになっている。挿絵が大きく児童の興味を高める。</li> <li>・身に付けたい「言葉の力」が明示されており、ねらいをとらえやすい。「学習の流れ」も載っているので見通しをもって学習に臨むことができる。</li> <li>・学習の流れが固定される懸念がある。(学習指導、ノート指導)。</li> <li>・読みの手順や内容が指定されており、児童の選択の余地が少ない。</li> <li>・(学校)絵や図、写真等の資料が多く、内容が理解しやすい。二次元コードから動画の説明を見ることができ、分かりやすい。</li> <li>・(市民)4年上「広告を読み比べよう」では、体温計について、2通りの広告を載せているが、2ページずつなので比べにくい。見開きにした方が分かりやすい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に緑を基調とした落ち着いた色合いで、目に優しい。</li> <li>・(学校)高学年の文字が小さく、読むことが苦手な児童にとっては、抵抗感があるかもしれない。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習過程が明確かつ統一されているのがよい。(見通す－取り組む－ふりかえる)</li> <li>・1年上「えにつきをかこう」では、モデル文にマス目と縦罫線の両方が取り上げられており、実態に合わせて指導することができる。</li> <li>・1年下「一年かんのおもいでブック」では、相手意識をもたせている。相手によって書く内容が変化するということが捉えやすくなっている。</li> <li>・2年上「はたらく人に話を聞こう」では、日常生活から考えを深めていくことができるようになっている。</li> <li>・5年の説明的な文章では、インターネットやロボット等の題材が扱われており、現代の課題や児童の興味・関心に合っている。</li> <li>・6年「伝えよう、感謝の気持ち」「成長をふり返って未来へ進もう」は、卒業を前にした児童にとって、学習のまとめとして取り組みやすく、中学校に向けて気持ちを高めることができる流れになっている。</li> <li>・2年上「かんざつしたことを書こう」では、メモが縦書きなのに対して、観察カードが横書きになっており、同じ教材で、縦横が混在していて分かりにくくなっている。</li> <li>・3年上「案内の手紙を書こう」では、あて名の書き方が、二次元コードを見ないと分からない状態になっている。</li> </ul>	

定 の 観 点	<p>紙面上にもあったほうが指導しやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年上「わたしの説明文を書こう」は、学年初めの児童の発達段階を考えると難しいのではないかと感じる。</li> <li>・5年「和の文化を受けつぐ」では、職人の思いを載せた資料はあるが、分量が多く、情報を重ね合わせて読むことがやや難しくなっている。</li> <li>・5年「世界でいちばんやかましい音」では、物語の山場を中心に扱っているが、登場人物の心情の変化や自分の気持ちや考えの変化については、やや捉えにくくなっている。</li> <li>・(学校)巻末に身に付けたい「言葉の力」が、領域ごとや系統ごとにまとめられており、その力を生かす場面が示されている。</li> <li>・(学校)おすすめの本が多く掲載されていて、本に親しみやすくなっている。</li> </ul>
------------------	---

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・5年「世界遺産 白神山地からの提言―意見文を書こう」では、資料1～7という様々な形態の資料が掲載されており、児童の発達段階や興味に沿って書くことができるようになっている。</li> <li>・発達段階に対して、全体的にやや難易度が高い。(1年下「スイミー」「お手紙」)</li> <li>・内容が難しい学年とそうでない学年があり、偏りが見られる。</li> <li>・5年「俳句・短歌のリズムにのせて」では、俳句と短歌を同時に学習するため、それぞれの魅力が理解しにくくなる可能性がある。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の説明文は2つの教材で構成され、1つ目が練習、2つ目がその力を生かして読むという流れになっている。</li> <li>・4年上「リーフレットでほうこく」は、例がごみしより工場になっており、社会科と関連させて学習に取り組めるものになっている。</li> <li>・「情報」が巻末の付録にまとめて掲載されており、学習の際に生かしづらく感じる。</li> <li>・1年上「たのしかったことをかこう」では、2学期初めの段階で、掲載されているモデル文と同程度の文章を書くことに困難を覚える児童がいることが予想される。</li> <li>・5年「漢字の成り立ち」は、挿絵が分かりにくく、学習に生かしづらくなっている。</li> <li>・(学校)巻頭の「〇年生で学ぶこと」に、単元とSDGsの関連性が明記されていてよい。</li> <li>・(学校)「ここが大事」の中に、大事なポイントが明確に示されていて分かりやすい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な分量は適切である。</li> <li>・(学校)「読むこと」の領域の分量がやや多く感じる。</li> <li>・(学校)1時間の学習内容が、多く感じるところがある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿し絵、写真など学習を進める上で、関連をもたせて用意されているとともに、資料が豊富で使いやすい。</li> <li>・二次元コードの種類や項目は分かりやすいがデータの読み込みに少し時間がかかる。</li> <li>・(学校)5、6年生も上下巻に分かれているため、年間の見通しをもたせにくくなっている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙質が良く、ページがめくりやすい。</li> <li>・(学校)写真やイラストが鮮明であり、迫力のある挿絵等を使っているため、児童が興味・関心をもって学ぶことができる。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」領域の単元の終わりに「見通しをもとう」のページがあり、児童が4つのステップに沿って、主体的に学習を進めていくことができるようになっている。</li> <li>・「読むこと」領域の単元の最後のページに「言葉」「言葉をふやそう」があり、語彙力を育てることにつながっている。</li> <li>・1年「みぶりでつたえる」(説明的な文章)では、ノンバーバルコミュニケーション(非言語によるコミュニケーション)の題材が意識されている。</li> <li>・2年上「生きものクイズ」でしらせよう』では、調べたことを「クイズ」と「答え」にすることで、大切なことを考えながら、まとめられるようになっている。</li> <li>・4年上「つないでつないで」は、学級初めのアイスブレイキングを兼ね、伝え合おうとする意欲を高めるものになっている。</li> <li>・4年上「いろいろな手紙」では、「おねがいの電子メール」が取り上げられており、手紙と電子メールのよさを比較し、相手や目的に合わせて選ぶようになっている。ICTを活用していく児童の実態に即している。</li> <li>・高学年の「書くこと」「話すこと・聞くこと」では、児童の興味・関心に即した教材の選定や学習課題の設定がなされている。学習の手助けとなる資料も豊富で、単元の流れも分かりやすく、取り組みやすくなっている。</li> <li>・1年下「おもい出のアルバム」では、書く分量が多く設定されているため、自力で書くことが困難な児童が見ら</li> </ul>	

れることが予想される。

- ・2年生の「読むこと」の学習では、文学的な文章が多く、説明的な文章とのバランスに偏りがあると感じられる。
- ・5年下「マンガの方法」では、筆者の考えが捉えにくく、事例とのつながりを考えたり、自分の考えをまとめたりすることが、やや難しくなっている。
- ・(学校)巻頭に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域で学ぶことが整理されて、示されていて分かりやすい。
- ・(市民)「津田梅子、未来をきりひらく」を取り上げていてよい。

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		光村図書出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の達成目標に結び付き、児童の発達段階に合う内容になっている。</li> <li>・6年「おすすめのパンフレットを作ろう」では、音楽を推薦する文章を書く活動が設定されていて、児童の実態や興味・関心に即している。</li> <li>・「読むこと」の教材において、動物や植物、乗り物等、児童にとって身近なものが多く取り上げられていてよい。</li> <li>・2年「紙コップ花火の作り方」において、児童の発達段階から考えると、「読むこと」から「書くこと」の単元へとつなげていくことが、やや難しく感じる。</li> <li>・(学校)「続けてみよう」の学習があり、年間を通じて取り組むことができるようになっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の指導事項の系統が単元名に意識されている。また1学期の説明的な文章では、練習教材と本教材があり、練習したことを生かせる単元設定となっている。</li> <li>・日常の具体的な場面から言葉に対する問いをもつて考える場が設定されていて、状況に応じた言葉の使い方を考える工夫がされており、児童が主体性を発揮しやすい。</li> <li>・1年上 入門期導入で、紙飛行機に乗る児童たちの挿絵から想像を広げようになっている。また、互いの違いを認め合う挿絵から、多様性への配慮や個別最適な学びへの意図を感じる。</li> <li>・単元の終わりに3観点で学習を振り返るような配慮がされている。児童がこの学習でどんな力を付けたかを自己評価することができ、学びの自覚を促す内容になっている。</li> <li>・「図を使って考えよう」や「情報」の教材が設定されており、学んだことを日常に活用することができるようになっている。</li> <li>・2年下「そうだんにのってください」では、題材の精選に配慮が必要である。</li> <li>・(学校)「学び方」が最初に示されているのがよい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・(学校)行間があるため、書き込みもしやすい。</li> <li>・(学校)「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」がバランスよく構成されている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭に「国語のまなびを見渡そう」があり、単元ごとに「見通しをもとう」がある。それらを合わせて活用すると、児童が主体的な「学び方」を身に付けることができるとともに、若年次教員にとっても授業づくりの手助けとなる。</li> <li>・学習内容が具体的に示されているところと児童の興味・関心などの実態に合った学びが選択できるところがあり、バランスがよい。</li> <li>・二次元コードの上に「写真」「動画」などが書かれており、使いやすい。</li> <li>・二次元コードを活用することで、学びの質を高めることができるようになっている。</li> <li>・(学校)単元ごとの印や学習を進める上での表示が見やすく、分かりやすい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真やイラストは鮮明で見やすく、文字の大きさや行間もちょうどよい。</li> <li>・紙の色味が黄色で、目に優しい。</li> <li>・「国語の学びを見わたそう」では、ページのサイズを縮小して、見やすく工夫されている点がよい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年間の系統性がよく整理されており、学習しやすい。</li> <li>・「言葉について考えよう」など、語彙力を育てるためのページが用意されている。</li> <li>・「読むこと」領域の手引きのページに「言葉に着目しよう」が提示されていて、児童にとって分かりやすい。</li> <li>・単元ごとに身に付けたい力が明記されており、児童・教師にとってねらいが分かりやすい。</li> <li>・「書くこと」において、取材カードのモデル、出来上がった文章のモデルが示されており、学習の展開が児童・教師にとって分かりやすい。</li> <li>・思考方法(自分と比べて考えるなど)の方策(具体例)が、児童が取り組みやすいものになっている。</li> <li>・2年「ロボット」(説明的な文)は、現代社会に対応した内容を取り上げている。</li> </ul>	

<p>定の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年上「もっと知りたい、友だちのこと」は、相手意識・目的意識が明確で、友達と関わりを深めながら、思考力を養う内容になっており、生活にもつながるものとなっている。</li> <li>・5年「もう一つの物語」では、既存の物語のサイドストーリーや別の結末を書くという活動が設定されている。5年『『児童未来科』で何をする』では、「自分たちで学ぶことを決められる教科」が設定されている。児童が主体的に、想像力豊かに考えたり、表現したりすることにつながる教材が取り上げられている。</li> <li>・6年「ぼくのブック・ウーマン」では、翻訳作品が取り上げられている。外国の様々な国や時代を舞台にした他の作品を読むことにつながっていくことが考えられる。</li> <li>・6年「卒業するみなさんへ」では、言語活動が具体的に示されていないため、経験の浅い教員は、指導にあたり、難易度が高く感じられことも考えられる。</li> <li>・(学校)日常生活における読書活動につながるような工夫がされている。</li> <li>・(市民)4 年下「ごんぎつね」の絵が、作者のきつねの優しさ、淋しさ、悲しさが伝わりにくい。絵の濃さなどが、作と合わない。</li> </ul>
-----------------------	---

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>目次に各学年で身に付けたい力が載っていてわかりやすい。</li> <li>3年生「曲がり」の指導や6年「配列(小筆)」などにおいて、児童の発達の段階を踏まえると難しいものがある。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入時の活動を促す指示が本時のねらいにつながる問いになっていたり、対話的な学習を促す設問が明記してあったりして、ねらいについて思考する言語活動になっている。</li> <li>左手で書く児童への配慮がされている。右手と同様に写真が示されているのでわかりやすい。</li> <li>2年「かんざつカードを書こう」では、観察カードの書き方が示されており、他教科との関連を図りながら学ぶことができる。</li> <li>3年「用具の準備」では、写真が小さく用意の仕方がやや理解しにくい。4年生と同じ内容になっているため、初めて書写を学習する学年への配慮がやや不足している。</li> <li>目次の上にある「おかしな～」の「おかしな」という言葉は配慮が不足している。</li> <li>(学校)書写で学んだことを他教科で生かすことができるように配慮されている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>コラムを除いて、どのページも同じ紙面構成で統一されているので、教師も児童も同じパターンで学習に取り組むことができるようになっている。</li> <li>教科書のサイズが、半紙と同じ縦横の比率のB5変型サイズになっているため、手本が活用しやすくなっている。</li> <li>学習事項を整理した「書写のかぎ」が発達段階に応じたわかりやすい言葉でまとめられている。また、巻末には、該当学年までの「書写のかぎ」が系統的に整理され、学習に生かすことができるようになっている。</li> <li>手本と書く欄が上下になっているので、左手で書く児童も手本と自分の文字が確認しやすくなっている。</li> <li>どの学年も始めのページに「点画」が大きく示されており、わかりやすく復習しやすい。</li> <li>二次元コードのみの表示であり、開いてみるまで内容がわからず、やや使用しにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用色が少なく、すっきりとしている。シンプルで見やすい。</li> </ul>
2 教科 ごと の選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活に広げよう」において、国語と連動させた言語活動を取り上げ、生活に役立てる態度を育てる内容になっている。</li> <li>入門期においては、身の回りの事象から文字へ興味関心を広げるように配慮している。</li> <li>1年では、「えんぴつでかいてみよう」で書いた自分の名前(4月)と、「できるようになったよ」で書いた名前(3月)を比べることのできる工夫があり、1年間の成長を確かめることができる。</li> <li>6年「文字の組み立て(湖)」の学習において、3つの部分が均等に示してあり、幅や高さが変わることは理解しにくい。</li> <li>(学校)2年生「れんらくちょうを書こう」で使用されている連絡帳は、本市の現状と合っていないため、生活に役立てるのが難しいと思われる。</li> <li>(学校)全体的に硬筆による書き込み欄が多く、①②③という学習の流れが明記してあり、書写の学びを硬筆に生かし、日常につながる授業構成になっている。</li> </ul>	

※ 「平成6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観 点		
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の達成目標に結び付く内容になっている。</li> <li>教材となる文字は、各単元の指導事項に適した字形をもつ文字であり、発達の段階に合っている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャラクターの台詞を使って、めあて達成のためのポイントを思考したり話し合ったりできるような問いを設定している。</li> <li>6年では、中学校での学習の見通しをもてるように、「はってん」として行書を紹介している。</li> <li>左手で書く児童への配慮がされている。写真や二次元コードで提示されている。</li> <li>(学校)本時における学習の「めあて」がはっきりしている。「ふりかえり」の観点も提示しており、見通しをもって1時間の学習を進めることができる。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> <li>(学校)1ページ当たりの情報量が多く、45分間の授業で終わる内容になっていない。単位時間内に学習する際、書くことに追われてしまう可能性がある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆順が明記しており、線と線のつながりが意識しやすくなっている。</li> <li>「はってん」のマークがついているところは、学習指導要領に示されていない内容であることがきちんと明記されていてわかりやすい。</li> <li>二次元コードに「動画」「資料」を示す記号が明記しており、どんな情報かがわかりやすい。</li> <li>縦書きと横書きが混じっているページがあったり、学習の流れがページをまたがって示してあったりして、紙面構成に統一感がなく、紙面構成上、内容がわかりにくく、使いづらいと思われる。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ページによっては、色が多く、どこがポイントなのかがややわかりにくい。</li> <li>目次ページは折り込みになっているため、閉じにくい。(3, 4年のみ)</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>目次の下に、「他の学習」や「生活」の中で生かす例が具体的に示されており、生活につながるように工夫されている。また、具体例の上に関連ページも示す配慮がある。</li> <li>文字環境、文字文化をテーマにした表紙裏の見開きページは、児童の興味をひくようになっている。</li> <li>「レッツトライ」において、国語や他教科と連動させた言語活動を取り上げ、生活に役立つ態度を育てる内容になっている。</li> <li>硬筆による「ためし書き」と、「まとめ書き」の書き込み欄が設定しており、1時間の中での学習の成果を自覚できるようになっている。</li> <li>1年の「えんぴつのもちかたあいことば」は擬音語を使用しており、わかりやすい。</li> <li>3年「はじめの学習」で、写真とイラストを効果的に用いて、「①毛筆用具の名前・扱い方→②よい姿勢・筆の持ち方→…→⑤あと片付け」の手順がていねいに示されている。</li> <li>3年の導入段階で毛筆と硬筆のつながりが示されており、毛筆学習の目的がわかりやすい。</li> <li>6年「リーフレット例」が魅力的で、国語科、総合的な学習の時間に活用しやすい。</li> <li>「書いて伝え合おう」が全学年にあり、手書きで書くよさを感じることができるようになっている。</li> <li>点画の種類のもつめが小さく、ややわかりづらい。(5, 6年)</li> <li>(学校)水書用紙に基本となる運筆練習ができるなぞり線があり、活用しやすい。</li> </ul>	

※ 「平成6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		光 村 図 書 出 版
観 点		
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科の達成目標に結び付く内容になっている。</li> <li>・ 教材となる文字は、各単元の指導事項に適した字形をもつ文字であり、発達の段階に合っている。</li> <li>・ (学校)指導事項が簡潔で分かりやすく、教師にとって教えやすい。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「考えよう」は、本時のねらい達成に向けて、どんなポイントに着目したらよいか、明確な視点をもって思考させる発問になっている。</li> <li>・ 6年では、中学校での学習の見直しをもてるように、行書を紹介している。</li> <li>・ 水書用紙に用意するものや枠などが印刷されており、活用しやすい。</li> <li>・ 二次元コードのアニメーションは興味をひくが、なくてもよい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・ 1ページあたりの情報が精選され、大切なことが一目でわかるすっきりとした紙面構成になっている。補足情報が必要な際は、二次元コード(動画等)に整理されている。</li> <li>・ 大切な情報は大きく、その他は小さく取り扱い、情報に軽重をつけている。</li> <li>・ 各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コラムを除いて、どのページも同じ紙面構成で統一されているので、教師も児童も同じパターンで学習に取り組むことができる。</li> <li>・ 教科書のサイズが、半紙と同じ縦横の比率の B5変型サイズになっているため、手本が活用しやすい。</li> <li>・ 「たいせつ」の部分では、文章による説明のみでなく、ポイントとなる文字の箇所も示されており、わかりやすい。</li> <li>・ 二次元コードに「動画」「写真」「アニメーション」「資料」と明記しており、どんな情報かがわかりやすい。また、タブレットを使う際の姿勢等も教科書内に示されている。左手で書く児童への配慮もされている。</li> <li>・ 「たいせつ」についている番号が何を示す番号かがわかりにくい。</li> <li>・ (学校)4年「SDGsブック」など、SDGsの視点が随所に明記されている点が良い。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用色が少なく、すっきりとしている。</li> <li>・ 書写ブックを取り外して活用できる。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年「えんぴつの持ち方」は、リズムがあって覚えやすい。</li> <li>・ 3年「小筆で書いてみよう」で、小筆の指導がいていねいにされている。</li> <li>・ 6年生の教科書には「書写ブック」として、1～6年の活用例がとじ込みにまとめられてあり、日常生活に生かすことができるようになっている。</li> <li>・ 「生かそう」では、毛筆で学習したことをもとに硬筆に生かせるように、補助線がある枠の中でなぞり書きができるようになっている。</li> <li>・ 3年「毛筆スタートブック」では、初めての毛筆の学習がわかりやすいようにいていねいにまとめられている。</li> <li>・ 生活の中の文字や、学年に応じた他教科での学習内容とつながるように配慮されている。</li> <li>・ 部分の組み立て方②(6年)部分同士の組み立て方の例がわかりやすい。</li> <li>・ 4年「文字の組み立て」は、林、雲と1文字になっており、ねらいが焦点化されている。</li> <li>・ 本時の導入時において、硬筆に触れていない教材がある。</li> <li>・ (学校)文字を正しく整えて書くことができるとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる内容になっている。</li> </ul>	

※ 「平成6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		東京書籍
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く適切な内容である。</li> <li>・内容の程度は学年の児童の発達の段階に適切している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前学年の「生活科で学んだこと」「3年生で学んだこと」や、「教科関連マーク」など、系統性を意識した内容となっている。</li> <li>・「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」などの問題解決的な学び方を意識した内容となっている。</li> <li>・「社会科の見方・考え方」において、児童がどのような視点をもてばよいか、キャラクターのイラストを使って示すなど配慮されている。</li> <li>・「ポスター」「図や表」「パンフレット」「4コマCM」「紙芝居」など、思考力・表現力を高めることを意識した言語活動が記載されている。</li> <li>・プレゼンテーションソフトを使ってまとめるところは、ICTの活用とも関連付ける内容となっている。</li> <li>・各単元で「ひろげる」が設定されており、児童の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるように配慮されている。児童の負担が過重にならないよう選択できるようになっている。</li> <li>・3年生では、2単元が終わってから「学習の進め方」の記載があり、1単元目で「学習の進め方」があることが、児童によってはやや分かりにくいと感じることも想定される。</li> <li>・(学校)キャラクターが入っていて、児童の関心を引きやすい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして図書の内容に適切に配分されている。</li> <li>・5年生と6年生が分冊になっている。6年生は2冊を交互に使用するため、やや使いづらい心配がある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツとして二次元コードがついており、動画やワークシートを活用することで学習の深まりに有効に働くように配置されている。</li> <li>・(学校)発展的な学習内容を取り上げる場合には、それ以外の内容と区別され、発展的な学習内容であることが明示されている。</li> <li>・(市民)二冊に分かれていて、(政治国際編と歴史編)一冊分が軽く、子供達にとって持ち運びが楽になり、よいと感じた。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の大きさ、字体、行間が適切である。</li> <li>・イラストのタッチにやや統一感がない。</li> <li>・余白・写真の選定・レイアウトにやや統一感がない。</li> <li>・土地の地図の配色が同系色で、やや読み取りづらいと思われる。</li> </ul>

2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な見方・考え方を働かせるために、キャラクターの吹き出しを使い、課題を追究できる内容になっている。</li> <li>・各学年ともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べる学習では、デジタルコンテンツが充実していて、詳しい資料を見ることができ、知識及び技能の資質・能力向上につながるような内容になっている。</li> <li>・「まなびのポイント」に、話し合うこと調べる事が明示してあり、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びにつなげる工夫がされている。</li> <li>・世界の国々との関わりや政治の働きへの関心を高めるような内容になっている。6年生の政治のしくみでは自分事として考えることができるような表現が充実している。</li> <li>・6年生「震災復興の願いを実現する政治」では、自然災害時における地方公共団体の働きについての説明や資料が充実しており、地域の人々の工夫・努力等について考えられる内容になっている。</li> <li>・5年生の「情報を生かす産業」では、コンビニエンスストアを取り上げ、身近で分かりやすい内容になっており、児童が主体的に学ぶことができる。</li> <li>・各学年において地図や地球儀、統計などの各種の資料を適切に活用し、我が国の47都道府県の名称と位置、世界の主な大陸と海洋の名称と位置を身に付けることができる内容になっている。</li> <li>・領土をめぐる問題については知識の定着は図れるが、地図や資料の読み取りがやや難しいと思われる。</li> <li>・3年生の「はたらく人とわたしたちの暮らし」の事例地は福岡市、「市のうつりかわり」の事例地は、兵庫県明石市、4年生の「県の特徴を捉える」事例地は、宮城県となっているため、本市の児童にとって、地域社会に対する誇りと愛情を養うことがやや難しいと思われる。</li> <li>・少子高齢化等による地域社会の変化や情報化に伴う生活や産業の変化については、6年生で「少子高齢化」の問題についての記載が不十分である。</li> <li>・「まとめる」のところは、まとめるポイントがやや分かりにくい。</li> <li>・(市民)食料自給率の話があり調べる課題として挙げていていいと思う。</li> </ul>
-----------------	--

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く適切な内容である。</li> <li>・内容の程度は学年の児童の発達の段階に適切している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つかむ・調べる・まとめる」という学習の流れの中で、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習が重視されているとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるように配慮されている。</li> <li>・性や国籍の違い、障害の有無に関わらず、多様な子どもが互いに学び合う様子が示されている。</li> <li>・「もっと知りたい」は読みもの資料として興味のある児童が進んで取り組むことのできる構成になっており、児童の負担が過重となったりすることがないように配慮されている。</li> <li>・前の学年とのつながりや、他の教科とのつながりが紹介されている。ただ、カリキュラムマネジメントを行う情報としては、やや具体性に欠ける。</li> <li>・「リーフレット」や「デジタル紙芝居」「ガイドマップ」など、思考力、判断力、表現力等の育成を目指した多様な言語活動が充実している。</li> <li>・(学校)「学びのてびき」により、資料の読み取りや活用、表現する方法や順序が示され、児童が学習内容を確実に身に付けることができるために有効である。</li> </ul>
	(3)分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして図書の内容に適切に配分されている。</li> <li>・各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> </ul>
	(4)使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料、イラスト、写真、図など、学習を進める上で関連をもたせて用意され、学習の深まりに有効に働くよう配置されている。</li> <li>・児童の問いに合わせて、写真、図、資料等を選択したり、関連付けたりできるよう配置されていて、学習の深まりに有効に働く内容になっている。</li> <li>・(市民)分かりやすい記述。写真や資料など見やすく子どもの学習意欲がわきやすい。</li> </ul>
	(5)印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で「社会科で使う見方・考え方」を紹介している。また、それぞれの単元では、キャラクターが吹き出して社会的な見方・考え方を働かせる例を示し、子どもたちが社会的な見方・考え方を働かせながら課題を追究できる内容になっている。</li> <li>・各学年に二次元コードが掲載され、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめることができる内容になっている。</li> <li>・各学年とも、社会的事象に関わる多様な人の工夫や努力が「〇〇さんの話」として多く紹介されており、先人に学びながらよりよい社会を考え、主体的に問題解決をしようとする態度を養う内容になっている。</li> <li>・4年生「わたしたちの県のまちづくり」の事例地では、福岡県内の特色ある地域として東峰村と太宰府市、岡垣町を取り上げている。また、5年生「自動車の生産にはげむ人々」の事例地では、福岡県荇田町の工場を取り上げている。これらは福岡県の子どもたちにとって、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことができる内容になっている。</li> <li>・5年生「国土の自然とともに生きる」では、多くの写真資料とWEBサイトにアクセスできる二次元コードが掲載されており、子ども自身が課題に沿って主体的に資料を選択しながら、自然災害時における地方公共団体の働きが分かる内容になっている。</li> <li>・各学年において地図や地球儀、統計などの各種の資料を適切に活用し、我が国の47都道府県の名称と位置、世界の主な大陸と海洋の名称と位置を身に付けることができる内容になっている。</li> <li>・「学びの手びき」や「社会科ガイド」があり、学び方が学べる内容になっている。ただ「社会科ガイド」は4～6年</li> </ul>	

生にはない。

- ・(学校)社会的な見方・考え方、学習の進め方がしっかりと示されているので、活用しやすい。
- ・(市民)国際協力というところで中村哲さんのアフガニスタンでの取り組みを大きく紹介しています。北九州市出身の中村さんのことが広く語られていることに誇りを持ちます。
- ・(市民)環境未来都市北九州市が載っていて、子どもたちが学びやすいと感じました。
- ・(市民)社会5年には、北九州の公害克服についてまとめた記述があり、いいと思います。
- ・(市民)表紙の裏には車椅子で学習している児童の姿もあり、共生社会や国際化も意識されている。学習するときは、何を学ぼうとするのかがはっきり示され、児童にとって利用しやすい教科書になっている。
- ・(市民)5年社会科には領土問題について「平和的解決に向けて粘り強く努力を続けていく必要」と平和的解決の大切さ絵を言っているところがいいと思います。

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		日本文教出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く適切な内容である。</li> <li>・内容の程度は学年の児童の発達の段階に適切している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科との連携が図られた内容や「〇年生に向かって」が全学年に掲載されており、各教科及び各学年相互間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるように配慮されている。</li> <li>・児童同士での交流場面設定の例が単元末に掲載されており、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語活動の充実が配慮されている。</li> <li>・47都道府県の書き込みワークなど、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習が重視されているとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるように配慮されている。</li> <li>・まとめ方の事例が豊富(ノート、デジタル新聞など)であり、児童が学習内容を確実に身に付けることができるように、個に応じた指導への配慮がされている。</li> <li>・発展的な学習内容を取り上げている場合には、学習指導要領の目標や内容の趣旨を逸脱したり、児童の負担が過重となったりすることがないように配慮されている。</li> <li>・体験活動などは、安全面についての記述が少ない。</li> </ul>
	(2) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして図書の内容に適切に配分されている。</li> <li>・各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> <li>・他と比較し、文章量が多い。(特に3年生)</li> </ul>
	(3) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を進める上で、ユニバーサルデザインに対応した色調や色を組み合わせた資料、イラスト、写真、図などが用意され、学習の深まりに有効に働くよう配置されている。</li> <li>・発展的な学習内容を取り上げる場合には、それ以外の内容と区別され、発展的な学習内容であることが明示されている。</li> <li>・視覚的資料の1つとして、動画などの二次元コードが学習の深まりに有効に働くように配置されている。</li> <li>・全学年にSDGsシールを活用する場面が設定されており、現代的な諸課題を自分事として捉えられる工夫がされている。</li> <li>・(市民)写真図が多く取り入れられ説明がわかりやすい。しかし、3年生の子供には少し細かすぎる。多くの県が取り上げられ日本各地の様子がよくわかります。</li> </ul>
	(4) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、製本の様式、材料などが適切である。</li> <li>・3年生の文字数が多く、児童によっては負担が大きいと感じる子どももいることが想定される。</li> <li>・(学校)字間が詰まっており、やや読みづらいと思われる。</li> </ul>

<p>2 教科 ご と の 選 定 の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「見方・考え方」が3つの視点(時間・空間・関係)に分けて随所に掲載されており、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究できる内容になっている。</li> <li>・掲載資料が最新のものを多く取り上げるなど、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会へのかかわり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりできる内容になっている。</li> <li>・公助・共助・自助の考え方に着目して災害時の取組について考えるなど、自然災害を自分事として考えることができるような話し合いの進め方が紹介されている。社会へのかかわり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりできる内容になっている。</li> <li>・政治を自分事として考えるワーク(人権問題、消費税率の引き上げ、選挙の投票率の低下について考えるワーク)があり、政治の働きへの関心を高めるような内容になっている。</li> <li>・自然災害時における各都道府県の取組事例が豊富に掲載されており、地方公共団体の働きや地域の人々の工夫・努力等が分かる内容になっている。</li> <li>・各学年において地図や地球儀、統計などの各種の資料を適切に活用し、我が国の47都道府県の名称と位置、世界の主な大陸と海洋の名称と位置を身に付けることができる内容になっている。</li> <li>・資料が比較対象になっていなかったり、見開きページ内に情報が多すぎたりして、情報を適切に調べまとめることができる内容になっていない箇所がある。</li> <li>・3年生、4年生において、福岡県の事例地が取り上げられていないため、本市の児童にとって、使用の便宜上、やや使いづらい。(3年生で地域の様子を捉える事例地・・・姫路市、市のうつりかわりの事例地・・・川越市、4年生の県の特色を捉える事例地・・・岡山県)</li> <li>・(学校)各学年の巻末にSDGsの目標シールがあり、多角的に捉えられるようになっている。</li> <li>・(市民)海を漂流して、砂浜に打ち上げられるプラスチックごみを題材にした記事を紹介。「プラスチックごみ」について子どもたちにも知らせ、これからの地球を守るため、大人も子どもも知らないといけない大きな問題である点から感心しました。</li> <li>・(市民)中村哲さんの功績を讃えている記事は評価できる。</li> <li>・(市民)写真付き、文字が大きい、学習のポイントが明らかにされているなど、改めて社会科の学習をしたいなど思いました。社会の仕組みや歴史をきちんと学ぶことは、人として重要なことだと思います。</li> <li>・(市民)日本の自衛隊は、日本の平和と安全を守るために仕事をしていると記されているが、国際平和のために外交の重要性なども記してほしい。</li> </ul>
---	---

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容の範囲及び程度はその学年の児童の発達の段階に適応しており、各学年で活用できる内容になっている。</li> <li>・ 自然災害に関する内容が巻末に見開きで掲載されており、幅広い学年で活用できる。</li> <li>・ 第3学年の学習内容との関連を考えると、内容的にやや難しい箇所がある。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都道府県と世界の主な国の統計が一覧になっていて分かりやすい。また、農業生産額の単位が統一されていて比べやすい。</li> <li>・ 歴史の舞台、建物も地図上に示してあり、分かりやすい。</li> <li>・ 児童の関心・意欲を高めることができるように、キャラクターを適宜掲載している。「首都東京」での、「昼夜の人口比」についての資料や、まちのイメージを簡略化したイラストやキャラクターなど、興味・関心をもたせやすい工夫をしている。</li> <li>・ 自発的な学習を促すように、「ホップ・ステップ・マップでジャンプ」を設け、レベルに分けて構成することで、地図帳を見る必要性を生み出し、児童の地図への興味・関心をもたせる工夫がされている。</li> <li>・ 発展的な学習内容の一部に児童の負担がやや大きいものもある。</li> <li>・ 地図記号の種類が多すぎて読み取りづらく、凡例、索引、縮尺などの用語の説明もやや難しいと思われる。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1ページあたりの情報がやや多く感じる。</li> <li>・ 地図のきまり、使い方などの字がやや小さく情報量が多い印象である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の自然災害について掲載しているページでは、一目で災害が多い国であると、視覚的に分かるように工夫されている。</li> <li>・ イラストの内容はその国の様子をよく表しており、国の中に配置されていることで分かりやすい。</li> <li>・ 日本と世界の自然（川・山・湖など）を同一ページで掲載しており、大小や長短、高低が分かりにくく感じる。</li> <li>・ 発展的な学習内容の解答が、地図帳内に明示されておらず、やや使いにくい印象である。</li> <li>・ (学校) 一ページに掲載されている内容が豊富であり、詳しく調べ、考える上で有効である一方、情報が多いと感じる児童もいると思われる。</li> <li>・ (学校) ルビが適切にうたれており、読み書きが苦手な子どもにとっても使いやすい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地名など、字体や文字色、太さ等を変えることで、情報量が多くても見やすくなるように工夫している。</li> <li>・ 写真資料は鮮やかで見やすく、豊富である。</li> <li>・ 県境が分かりやすい。</li> <li>・ 世界地図（見開き）の色合いははっきりしていてよい。</li> <li>・ 色合いのコントラストが少し弱く、地図の高低差がとらえづらく感じる。</li> <li>・ 光沢ページが多く、鉛筆や赤鉛筆で作業する際に発色が心配である。</li> </ul>

2 教科 ごとの 選定の 観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北方領土や竹島について記載されており、歴史教育へのつながりが図りやすい。</li> <li>・ 歴史年表と世界とのかかわりの資料は歴史学習で活用しやすい。</li> <li>・ 貿易相手国の変化や輸入品の変化などの内容が取り入れられているのがよい。</li> <li>・ キャラクターごとに色分けしたり、得意な分野を明確に設定したりするなど工夫をしている。</li> <li>・ 日本の自然（気候）のデータ各種が1981～2010年の平均値となっており、近年のデータがあまり反映されていない。</li> <li>・ 47都道府県の特産品や建造物や伝統文化等を「特産品＝緑」「建造物＝黄」のように色分けしているが、地方ごとの色分けと混同することも考えられる。</li> <li>・ 我が国とつながりの深い国について、選択して調べるには内容が足りないように感じる。</li> <li>・ 等高線の説明が、児童にとってやや分かりにくい。</li> <li>・ (学校) 地図や統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味や働きなどについて考え、調べたことや考えたことを表現することができる内容になっている。</li> </ul>
-----------------------------	--

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		帝国書院
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容の範囲及び程度はその学年の児童の発達の段階に適切しており、各学年で活用できる内容になっている。</li> <li>・ 歴史学習との関連内容が豊富である。</li> <li>・ 「方位」「地図記号」「索引の使い方」等の説明が丁寧で、情報量を減らした地図を掲載するなど、初めて使用する第3学年でも地図に親しみやすい。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「音楽のふたい」の記述や、英語に関するクイズ、SDGsの視点での資料があり、他教科との関連が図りやすい。</li> <li>・ 「地図マスターへの道」で、児童に興味・関心をもたせ、自発的な学習を促すことができるように配慮している。</li> <li>・ (学校) 統計資料の色、大きさ、内容量等が分かりやすく、児童が資料活用の技術を身につけることができる内容になっている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3学年でも十分に活用できるよう、分量や構成に配慮があり、バランスがよい。</li> <li>・ 総ページ132ページとなっており、資料や地図、地図指導などが充実した分量になっている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 凡例、索引、縮尺など大切な言葉がはっきりと分かるように太文字になっている。また大切な言葉の説明が文章中にあり、分かりやすい。</li> <li>・ 発展的な学習内容の解答が巻末に掲載されているため、使いやすい。</li> <li>・ 各種の自然災害とそれに対応する防災対策が並列で記載されており、結び付けて理解しやすい。</li> <li>・ 福岡市の拡大地図があり、学習内容とリンクしている。</li> <li>・ 索引が種類ごとに色分けされており、見やすく感じる。</li> <li>・ 二次元コードの内容が充実しており、地形・土地の使われ方・交通の様子など、分野ごとの地図が見られて活用しやすい。</li> <li>・ イラストの内容はその国の様子を表しているのかやや分かりにくいものや、海の中に配置されているものもあり、配慮がやや不足している。</li> <li>・ 日本の統計の農業生産額の単位は「円」と「万トン」が混在し、やや分かりにくい。</li> <li>・ (学校) 「広く見わたす地図」「都道府県の地図」「世界の地図」等、発達の段階に応じた学習しやすい配列になっている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体的に発色が鮮やかで見やすい。</li> <li>・ (学校) 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間などが適切である。</li> </ul>

2  
教科  
ごとの  
選定の  
観点

- ・ 47都道府県の伝統文化や特産品などの特色を、地方ごとに選択式のクイズにするなど、児童が興味をもって学べるよう工夫されている。
- ・ 世界地図のページには物語や音楽の舞台、日本へ伝わった言葉、スポーツと関連した内容等が記載されており、日本とつながりの深い国を調べるときに役立つ。
- ・ 農業のようすについて、イラストで示すことで、地理的環境の特色が分かりやすく記載されている。
- ・ 県特有の課題や特徴（例：「国際化が進む福岡市」）が記載され、県の特徴をつかみやすい構成になっている。
- ・ 歴史的な視点（奈良や京都の都、広島原爆地周辺、江戸時代に焦点化された内容など）が地図上に反映され、第6学年の歴史学習の内容との関連付けがあり、授業の中で活用しやすい。
- ・ おもな農産物・工業製品の都道府県ランキングが示されており、県の特色が見やすく社会的な事象の意味や働きが考えやすくなっている。
- ・ 「地形と主な農産物」では、鳥瞰図をもとに、果樹園・棚田などを解説し、理解しやすい構成になっている。
- ・ 交通網について、まとめられているページがない。
- ・ (学校) 比較・関連させて考察できる資料を多く配置しており、見方・考え方を働かせることのできる資料図・統計が取り入れられている。
- ・ (学校) 調べたり、考えたりする際にイラストが充実しているため、中学年の児童にとっても取り組みやすい。

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名 観 点		東 京 書 籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・内容の程度は、その学年の児童の発達に段階に適応している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの終末場面に学習の仕上げ(練習問題)として「たしかめよう」と「算数の目～大切な見方・考え方」のページに分けてあるため、言語活動の充実につながる。</li> <li>・「数と計算の領域」に関して、練習問題で大事な問題(式など)に色を付ける工夫がされている。例題と類似した問題、発展・補充問題など個に応じた指導がしやすい。</li> <li>・各学年の各章の導入では、問題解決的な学習が重視されると共に、イラストに加えて写真や動画で場面を提示しており児童の興味関心を高める教材になっている。</li> <li>・1年生は生活科や図画工作科と関連しており、本市の児童が課題をつかみやすい。</li> <li>・吹き出しに途中まで書き、思考を促すと共に見通しをもてるようにしている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が授業時数に照らし適切である。</li> <li>・基礎・基本問題及び発展的な問題が十分に設定してある。</li> <li>・(市民)1～4年生で2分冊しているのは、ランドセルの重さを和らげられる。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・GIGA 端末の活用ができるように二次元コードがページの下部に記載されている。それとともにDマークでコンテンツの使用場面を示しているが、Dマークと二次元コードを見る必要があり、混乱する児童も出てくる可能性が考えられる。</li> <li>・各章のはじめに前学年の復習ページがあるため、内容に入りやすい。</li> <li>・学校で使用されているGIGA 端末のカメラでは、本書に載っている二次元コードを読み取ることが難しいため、すぐに活用することができない。</li> <li>・1年生の始まりが別冊・中綴じで、ブロックを置いたり数字を書いたりしやすい。</li> <li>・(学校)紙質がつつつして書き込みにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。</li> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想の推進に向けて、デジタルコンテンツ「D」は動画やシミュレーション、他教科との連携ができる教材が豊富であり、学習内容を理解したり、深めたりすることにつながる。</li> <li>・単元末にある「学習のしあげ」では、数学的な見方・考え方の価値づけを行う「つなげていこう算数の目」を掲載することで自己の成長を実感させるようになっているが見開きになっており量が多く負担に感じる。</li> <li>・1年生は、挿絵にブロックを置くスペースがあり、思考の通りに操作がしやすい。</li> <li>・二次元コードから児童がGIGA 端末上で操作する場面が多い。低学年に時間がかかる操作(色を塗る・線をつなぐなど)が短時間でできる。</li> <li>・1年「かずをかこう」のマスが多く、授業時間で全てを練習することが難しい。</li> <li>・2年(上)で、長さを「ブロックの何個分」と「消しゴムの何個分」で測り、「数が違うのはどうしてかな。みんなで話し合ってみよう。」とあるが、その理由は明らかであり、児童の素朴な思考に沿っていない。</li> <li>・教科書の内容が1単位時間ごとに区切られていない所があるため、見づらく、使いにくい点も見られる。</li> <li>・(学校)他者では、プログラミング的思考のページを各学年に掲載しているが、そのようなページが第5学年にしか無いため、指導する際に別の教材を準備する必要がある。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名 観 点		大 日 本 図 書
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・内容の程度は、その学年の児童の発達の段階に適切している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元によっては既習事項(鍵マーク)を記載しているため、本市の児童が学習の見通しをもったり前の学年の内容とつないで考えたりすることができる。</li> <li>・練習問題では、学年に応じた発展的な問題「算数たまた箱・読み取ろうなど」があり弾力的な指導ができるように工夫されている。例題と類似した問題、発展問題、補充問題など個に応じた指導がしやすいようになっている。</li> <li>・各学年の各単元の導入では、日常生活や社会の事象から問題提起されているため、本市の児童の興味関心を高める教材になっている。1年生は生活科と関連している教材があり、マークもある。</li> <li>・授業以外などの学習としての巻末の「プラスワン」が設定されているが、解答が二次元コードを読み取って確認しないと見ることができないという手間がある。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。</li> <li>・基礎・基本問題及び発展的な問題が十分に設定してある。</li> <li>・(学校)1ページに載っている内容が多い。</li> <li>・(市民)1～4年生で2分冊でないため、本が重いのが気になる。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・目次や右ページの上段に、領域ごとに色を変えた表記がされ、関連が図りやすい。</li> <li>・二次元コードが小さく、読み取りにくい。学習のサポートは、欠席児童が家庭で授業内容を理解できるようになっている。</li> <li>・各章のはじめに前学年の復習ページがあるため、内容に入りやすい。</li> <li>・図形領域の付録はついていないが、その他の領域の学習で活用できる付録がない。</li> <li>・学校で使用されている GIGA 端末のカメラでは、本書に載っている二次元コードを読み取ることが難しいため、すぐに活用しづらいと思われる。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。</li> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・(学校)1年生の別冊が中綴じになっており、書き込みやブロック操作等がしやすい。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が疑問や問題を見出し、主体的に学習に取り組むことができるように、単元導入のアプローチページで、問題場面をアニメーションで見られるような工夫をしている。</li> <li>・単元末の「たしかめ問題」では、授業の進度や児童の習熟度に応じて柔軟な扱いができるように「しっかりチェック」など単元の中で学んだことを1ページの中で振り返ることができるようになっている。</li> <li>・2年(上)で、3人の子どもが「消しゴム3個分」で長さを測ることで、児童の思考のずれを生み、普遍単位を導入する必要感が生まれる内容となっている。</li> <li>・6年「3. 面積」が他の教科と違って、分数のかけ算・わり算の前に設定されているため、扇形の面積を求める際、<math>\times 1/4</math>を使うことができない。</li> <li>・4年「7. がい数」では、がい数に表す方法の示し方が、どのように処理しているのかやや分かりづらい。</li> <li>・6年「対称な図形」では、線対称と点対称の定義付けが導入時に同時に出ているためやや理解しづらい。</li> <li>・1年生「かずしらべ」では、花の色に視点が集まり、曜日ごとに整理することがやや難しい。</li> <li>・プログラミングが、内容的に難しかったりプログラミングを活用しなくて解決できたりするものがある。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名 観点		学校図書
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・内容の程度は、その学年の児童の発達に段階に適切している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考え方モンスターで数学的な見方・考え方が示されているため、言語活動の充実につなげやすい。</li> <li>・話し合う・比べる・説明するなどの場面があるため、言語活動の充実につながる。</li> <li>・各学年の各単元の導入では、単元導入材を提起するページが設定されており、そこから単元に入るように設定されている教材になっている。</li> <li>・単元末の復習問題の後に単元の振り返りが設定されている。(復習問題→振り返り)また、できるようになったこと(類似問題)、まなびをいかそう(発展的な問題)に分けて復習問題が設定されている。</li> <li>・単元の導入では、イラストや写真を掲載して児童の興味関心を高められているが、色や種類が多かったり、視覚的に刺激が強かったりして視点がぼやけることになる。</li> <li>・(学校)デジタルコンテンツが少なく、二次元コードの内容に関する説明が無いいためコンテンツの内容が分かりづらいと思われる。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。</li> <li>・基礎・基本問題及び発展的な問題が十分に設定してある。</li> <li>・(市民)1～4年生で2分冊しているのは、ランドセルの重さを和らげられる。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・デジタルコンテンツの中には、解き方や解答付きの練習問題のプリント(PDF)が盛り込まれているため、活用できる。</li> <li>・各章のはじめに前学年の復習ページがあるため、内容に入りやすい。</li> <li>・学校で使用されている GIGA 端末のカメラでは、本書に載っている二次元コードを読み取ることが難しいため、すぐに活用しづらいと思われる。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。</li> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決する上で、いろいろな「見方・考え方」を働かせていることを意識できるように、「考え方モンスター」として表している。児童が意欲的に算数を学んでいくことも期待している。</li> <li>・算数で学んだことが社会へと広がっていく力となることを実感できるように、SDGsのマークが示されたページを掲載している。算数と社会の関りを深めたいようなページ構成になっている。</li> <li>・GIGAスクール構想の推進に向けて、すべての学年に「プログラミングのプ」のページを掲載し、GIGA 端末などで実際に動かすことができるサイトに接続することでプログラミング的思考が身に付くように工夫している。</li> <li>・学習の終わりに「？」マークが配置されているため、次時へのつながりもちやすい。</li> <li>・第3学年「時ごとと時間」では、時間や時刻を求める際に筆算で求めるようになっており、児童によっては必要感をもった授業展開になりにくいことが予想される。</li> <li>・2年(上)で、長さの比べ方を話し合っているが、どちらが長いかは、直接比較ですぐに比べられるので、普遍単位を導入する必要性があまり感じられない。</li> <li>・「中学校へのかけ橋」が付いており、6年生で学んだ見方・考え方を振り返られるようになっている。</li> </ul>	

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・立式の際に使う関係図が、表のようなもので表記されていて特殊である。</li><li>・(学校)学年によっては学習内容がページごとに区切られていないが、ページの端に学習の流れが示されている。</li><li>・(市民)十の位は別の部屋として位取りが理解しやすい。</li><li>・(市民)筆算の学習の後に暗算があるため、もう少し後に学習したほうが良い。</li></ul> |
|---|

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名 観 点		教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・内容の程度は、その学年の児童の発達の段階に適切している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの視点が明確になるような「はてな」や「だったら」などの吹き出しや、考えを説明・比較する場面が設定されているため、言語活動の充実につながる。</li> <li>・単元末のたしかめ問題に入る前に、内容の確認・振り返り・まとめを行えるページ設定の工夫がされている。</li> <li>・(学校)各学年の各単元の導入では、児童にとって身近と感じる場面から問題を設定しているため、児童の興味関心を高める教材になっている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。</li> <li>・基礎・基本問題及び発展的な問題が十分に設定してある。</li> <li>・(市民)1～4年生で2分冊しているのは、ランドセルの重さを和らげられる。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・デジタルコンテンツの中には、解き方や解答付きの練習問題のプリント(PDF)が盛り込まれているため、活用できる。</li> <li>・各章のはじめに前学年の復習ページがあるため、内容に入りやすい。</li> <li>・モデルとなるノートのマス数がページごとに違うため、指導の際に困ることが予想される。(1・2年生)</li> <li>・学校で使用されている GIGA 端末のカメラでは、本書に載っている二次元コードを読み取ることが難しいため、すぐに活用することができない。</li> <li>・巻末の付録が少ないため、付録を活用した数学的活動が少なくなる。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。</li> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びに向けて、問題解決力を育てていくために、学年始めの単元1～3に、問題発見力、問題解決力、問題追究力に焦点を当てた授業モデルが掲載されている。毎時間の中でも、「はてな・なるほど・だったら」というように問いの連続を意識した構成となっている。</li> <li>・協働的な学びを実現するために、「伝え合い、学びあう学級」を目指すことを意識している。新学期の始めに、授業開きの特設ページを掲載し、児童の知的好奇心を高め、学習の進め方を共有できるように工夫している。</li> <li>・4年生「垂直・平行と四角形」では、写真と地図を見比べさせることで、道路(線)の交わり方へと意図的に着目させることができている。</li> <li>・5年生「単位量あたりの大きさ」では、1枚目と2枚目の挿絵につながりがなく、特に1枚目の挿絵では、単位量あたりの大きさに目を付けることがやや難しい。</li> <li>・6年「対称な図形」では、線対称や点対称の性質を調べる学習の際に、図形が方眼紙上に配置されているので、長さや交わり方が本市の児童にとって分かりやすい。</li> <li>・6年「対称な図形」では、線対称・点対称の対応する辺や角、頂点を調べる学習が1時間でまとめられているため、児童によっては理解しづらい可能性がある。</li> <li>・3年「時こくと時間」では、単元を通して日常生活に関わりのある問題場面を設定している。また、単元導入時の学習問題と、単元終末時の活用場面の問題に関連性が見られ、本市児童の学習意欲につながると</li> </ul>	

考える。

・2年(上)で、オンライン上でそれぞれ「消しゴム3個分」で長さを測ることで、児童の思考のずれを生み、普遍単位を導入する必要感が生まれる内容となっている。

・3年下「小数」の見開き1ページでは、はしたの量の処理のしかたを考えさせるが、あえて1L ますに目盛りは入れず、1L ますの縦を10cmにして載せるなど、本市児童の主体的な問題解決を促すものになっている。

・(学校)ステップアップやプログラミングに挑戦(高学年)・広がる算数といった自分で取り組むページがあり工夫が見える。

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名 観 点		啓 林 館
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・内容の程度は、その学年の児童の発達の段階に適切している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの視点が明確になるような吹き出しや考えを説明したり比較し合ったりする場面が設定されているため、言語活動の充実につながる。</li> <li>・単元末の復習問題では、学習内容と類似した問題→振り返り(見方・考え方)→発展問題(見方・考え方)の流れに統一して場面が設定されている。</li> <li>・各学年の各単元の導入では、数学的事象につなげるための問題設定がされている教材になっている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。</li> <li>・基礎・基本問題及び発展的な問題が十分に設定してある。</li> <li>・(市民)1～4年生で2分冊しているのは、ランドセルの重さを和らげられる。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・特に、基礎的な内容に十分指導時間がかかけられるように構成されている。</li> <li>・付録やデジタルコンテンツを活用して数学的活動ができる。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式などが適切である。</li> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・1年生の導入が別冊(中綴じ)になっており、書き込みやブロック操作がしやすい。</li> <li>・GIGA 端末の活用ができるように二次元コードと掲載されている内容が書かれており、自発的に活用しやすい。二次元コードが大きく読み取りやすい。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『めあて』と『まとめ』を掲載して学習のねらいや展開を分かりやすく示すとともに、「数学的な見方・考え方」を明確化し、価値付けるポイントがはっきりとわかるようにしていることで、経験年数にかかわらず一定の授業の質が保たれるように工夫している。</li> <li>・全国学力・学習状況調査等での結果や現場の指導者からの声を踏まえ、児童がつまずきやすいとされる内容にはデジタルコンテンツを配置して、確かな理解が図れるようにしている。</li> <li>・4年生折れ線グラフでは、一日の気温の変わり方が温度計を用いて表示されており、折れ線グラフへの導入として、生活とのつながりがより感じられる。</li> <li>・6年「場合を順序よく整理して」の展開が、「組み合わせ方」の後に「並べ方」を学ぶ展開になっており、日常とのつながりを意識した単元構成になっている。</li> <li>・4年「面積」では、学習指導要領解説で示されている求積方法を掲載することで、考えたり説明したりする活動時間を十分確保するとともに、精選した基礎的・基本的な内容の定着を目指している。</li> <li>・10のまとまりが色分けされ視覚的に捉えやすい。10が10個で100であることを量感として捉えやすい。</li> <li>・1年「かずとすうじ」で学んだ数の量感が視覚的に統一されている。(5と2で7のようなブロックの置き方)</li> <li>・2年(上)で、ウサギとリスが「こぶし何個分」で長さを比べることで、児童の思考のずれを生み、普遍単位を導入する必要感が生まれる内容となっている。</li> <li>・2年(上)に「直線のかき方」が記載されている部分で、打った始点から直線を書き始める際、(ものさしの端ではなく)ものさしの途中(10cmの位置)に設定されており、点を打ちやすい方法で示されている。</li> <li>・3年「わり算」では、分けるときに使うお皿の付録や、同様の活動が行えるデジタル教材が用意してあり、操作を通した意味理解につながるよう工夫している。</li> <li>・単元で扱った内容をプログラミングに取り入れており、思考が深まる。</li> </ul>	

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・(学校)道徳教育との関連、人権・ジェンダー・福祉の配慮の観点から、話し合いを通して学びを深めていく場面を設け、他者の考えを尊重したり、自分の考えを見直したりすることができるようにしている。</li><li>・(学校)1～2ページで1単位時間の学習が収まっており、区切りが児童も教師も使いやすい。</li><li>・(学校)数量の関係を関係図で表しており、それを見ることによって割合や基準量等を求めることができるようになっている。問題場面の把握や自力解決に役立てられる。</li><li>(市民)一の位、十の位の理解が難しいと感じた。</li><li>・(市民)筆算の学習の後に暗算があるため、もう少し後に学習したほうが良い。</li></ul> |
|---|

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名 観 点		日 本 文 教 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・内容の程度は、その学年の児童の発達に段階に適応している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面によって、話し合いの様子をイラストで表し、言語活動の充実につなげている。</li> <li>・各学年の各単元の導入前に既習の振り返りとしての練習問題が設定されているため、新たな単元でも入りやすくなっている。</li> <li>・各学年の各単元導入では、数学的事象につなげるための問題設定がされている教材になっている。</li> <li>・「学び合おう」では、問題解決的な学習の流れが分かりやすく示してあり、学習を進めやすい。また、話し合う活動や説明する活動など言語活動の設定もある。しかし、章ごとの設定ではない。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。</li> <li>・基礎・基本問題及び発展的な問題が十分に設定してある。</li> <li>・(学校)1ページに載っている内容量と文字数が多い場合がある。</li> <li>・(市民)1～4年生で2分冊しているのは、ランドセルの重さを和らげられる。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・学校で使用されている GIGA 端末のカメラでは、本書に載っている二次元コードを読み取ることが難しいため、すぐに活用することができない。</li> <li>・目次や右ページの上段に、領域ごとに色を変えた表記がされ、関連が図りやすい。</li> <li>・図形領域の付録が多く、数学的活動はできるが、その他領域の付録が少ない。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。</li> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・(学校)1年生の別冊が中綴じになっており、書き込みやブロック操作等がしやすい。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想の推進に向けてデジタルコンテンツが掲載されている。理解を深めるために見るだけでなく動かすコンテンツも充実している。</li> <li>・1年生では、幼児期とのつながりで就学前の活動を振り返り単元への導入を図る工夫がされている。</li> <li>・筋道を立てて考える力や表現力を育てるために、考えた過程や友達の考えなどを書き示した算数ノートモデルを掲載している。</li> <li>・つながりを大切にした単元構成を意識しており、各単元の導入前に「次の学習のために」という既習事項を確かめるページが設定されている。</li> <li>・5年「図形の合同と角」敷き詰め場面、巻末付録に3つの角ごとに印が付いており、3つの角が合わさって180°。つまり、三角形の内角の和が180°であることを捉えやすい。</li> <li>・4年生折れ線グラフでは、一日の気温の変わり方が温度計を用いて表示されており、折れ線グラフへの導入として、生活とのつながりがより感じられる。</li> <li>・6年「対称な図形」では、学習問題となっている図形が複雑である点は、児童によっては難易度が高いと思われる。</li> <li>・2年「長さ」で「ブロックの何個分」と「消しゴムの何個分」で測っていて、普遍単位を導入する必要感があまりない。</li> <li>・各学年にプログラミング的思考を育てる内容が掲載されているが、児童の身近な生活場面を題材にして</li> </ul>	

いるものの、単元の学習との関連があまりなく必要感がない。 ・(学校)算数で使いたい見方・考え方を巻末に示し、本文中に示すことで児童が意識しやすいようになっている。
--

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名 東京書籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・各領域に偏りがなく、調和がとれている。</li> <li>・単元によっては、本市の子どもの実態に照らして、やや難しい記述がある。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の学びが見渡せるように、4つの領域ごとに示しながら紹介されている。</li> <li>・5年生「流れる水の働き」では、何種類かの実験を同時に掲載しているところもあり、子どもが混乱しそうなどところもある。</li> <li>・「レッツトライ」では、子どもの体験活動や写真資料の提示などを工夫し、興味・関心を高め、問題を見出しやすい。</li> <li>・「学ぶ前に」「学んだ後に」というコーナーがあり、単元を学ぶ前後で、子どもが自分の成長を実感できる。</li> <li>・単元末に「ふりかえろう」と「たしかめよう」が設定されており、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」の観点で振り返り、学びを自覚することができる。</li> <li>・「理科の世界 たんけん部」では、学んだことが生活のどこに生かされているのかが分かりやすい内容となっている。</li> <li>・「広げよう 理科の発想」で、知識の活用や生活へのつながりに資すると考えられる。</li> <li>・コラムなど SDGs を意識したページがあり、配慮されている。</li> <li>・(学校) 生命の単元については、季節を考慮した単元構成ができています。</li> <li>・(学校) 植物や動物の種類が豊富に紹介されているページがある。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生の1学期の内容量が少なく、2、3学期の内容量が多い。</li> <li>・1ページ内の情報が多く、子どもにとって大切なところが分かりにくい。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学び方」の明記によって、子どもが学習の進め方を意識しやすくなっている。</li> <li>・単元の導入で子どもの興味・関心を高める工夫が見られる。</li> <li>・巻末に「理科の調べ方を身につけよう」というコーナーがあり、実験器具の使い方や安全面への配慮、ノートの使い方などが分かりやすく、子どもが学習を進めやすい。</li> <li>・二次元コードを読み取り、一人一人が GIGA 端末を活用して動画を見ることができると。</li> <li>・吹き出しの表記が子どもの思考のヒントになるものが多い。</li> <li>・巻末の「1年間振り返ろう」で、1年間の既習事項がまとめられており分かりやすい。</li> <li>・(学校) 観察カードの記述例があり、本市の子どもにとって分かりやすい。</li> <li>・(学校) 子どもが実際に実験を行っている様子の写真が掲載されており分かりやすい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・字も大きく見やすい。写真が全体的に大きく鮮明で、植物等の細部もよく分かる。</li> <li>・漢字にルビがうってあり、配慮されている。</li> <li>・単元の導入と実験部分が下地に色がついていて項目が見分けやすい。</li> <li>・実験で使う道具が、チェック枠と共に示され、使いやすくなっている。</li> <li>・文字のサイズや書体に配慮が不足している面があり、ページによっては、分かりにくさや読み取りづらさを感じることもある。</li> <li>・裏表紙に目次が書かれているので見にくい。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題をつかもう」→「問題」→「予想」→「計画」→「観察・実験」→「考えよう・考察しよう」→「まとめ」が視覚的に分かりやすく、子ども主体の問題解決学習が進めやすい。</li> <li>・5年生「生命単元シリーズ」→「防災(台風・流水)」となっており、学習の流れを通して指導しやすい。</li> <li>・1つの問題に対し、7つの二次元コンテンツがあり、子どもが主体的に問題解決を行うことを助けている。</li> <li>・キャラクターが、子どもの目線に立った思考を助ける言葉を使っているので、子どもが自ら「理科の見方・考え方」をはたらかせやすい。</li> <li>・5年生「ものの溶け方」では、溶けないもの(片栗粉)も提示しているので「溶ける」の意味が分かりやすい。</li> </ul>	

の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生「植物の結実」では、ヘチマで実験し、自家受粉の多いアサガオは別実験となっており、人やメダカと比較しやすい。</li> <li>・堆積のはたらきは区別して指導する流れは、子どもは理解しやすい</li> <li>・5年生の植物の発芽から成長までを同一の植物で行っており、学習が展開しやすい。</li> <li>・5年生「人のたんじょう」が「植物やメダカの学習」と時期が離れている</li> <li>・5年生「天気の変化」の学習は季節に関連した内容であるため、実施時期に検討の余地がある。</li> <li>・3年生「音の性質」の導入のトライアングル検証で、付箋が活用されているが、揺れ方の違いが分かりにくい。</li> <li>・(学校) 自然現象についての地震や噴火の変化(6年生)は、調査・考察が難しいと考える。</li> </ul>
-------------	--

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		大日本図書
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・内容が、本市子どもの発達の段階にあっており非常に見やすく、進めやすく感じる。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科室の使い方や道具の使い方が後ろにまとめられていてよい。</li> <li>・前学年や、次の学年の内容も書かれていて、予習復習ができる。</li> <li>・単元導入の「問題を見つけよう」のページには、見開きで大きく・見やすい自然事象の写真が2枚あり、比較することから問題を見いだせるように工夫されている。</li> <li>・結論の欄に、必要な用語等補足している。</li> <li>・予想、計画、考察の場面で子どもたちが話し合う様子が描かれているので、問題解決の過程を重視し、それぞれに話し合いを位置付けることの必要性が伝わってくる。</li> <li>・その学年で学んだことが最後の方に端的にまとめられている。さらに、次の学年で学習することも端的に書かれており、見通しがもてるようになっている。</li> <li>・観察カードの見本や観察のポイントが示されているので、自主学习など、個人の学びで活用しやすくなっている。</li> <li>・4月までに必要な植物の準備が示されており、栽培計画が立てやすい。</li> <li>・理科室や実験器具の使い方は巻末に分かりやすくまとまっており、使いやすい。</li> <li>・単元末の振り返るページに、導入の際の疑問に対して、説明を書く場面があり、自分が学んだことが分かりやすい。</li> <li>・「中学生になったら」を活用することで理解を深め、中学校への意欲向上へとつなぐことができるようになっている。</li> <li>・二次元コードについては、ページごとに資料名も明記され配置されており、実験動画や実験器具の使い方がとても分かりやすい。また、他学年、他単元も参照しやすくなっており、使いやすい。</li> <li>・実験結果の記録を子どもが実際に書いたノートの例を載せているので、記録のとり方をイメージしやすい。</li> <li>・SDGs や他教科との関連を図りながら学習ができるようにしている。</li> <li>・発展的な内容、理科の玉手箱で豆知識のようなものが書かれていて楽しい。</li> <li>・(学校) 確かめようの問題が、子どもの実態から難しいと考えられる。</li> <li>・(学校) 防災単元のページが増えており、現代的な課題への対応にふさわしい。</li> <li>・(学校) 巻末に学年の系統や他教科との関連付けもされている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・学習指導要領の内容や取扱いが、授業時数に照らして適切に配分されている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や図が多く見やすい。</li> <li>・考察のポイントが示されていて、分かりやすい。</li> <li>・結論のところの文字が大きめに書かれていて強調されている。</li> <li>・準備物が二次元コードになっているが、文字として明記したほうがよい。</li> <li>・実験器具の注意の文字が小さく見にくいので、注意が払いにくい。</li> <li>・巻末のまとめや安全上の留意点がチェックリストになっているので使いやすい。</li> <li>・問題、予想、考察などが、色分けされていて見やすい。</li> <li>・一人一台端末を活用できるように、二次元コードが多く掲載されている。</li> <li>・(学校) 問題解決の流れに沿った進め方やページ配置になっている。</li> <li>・(学校) ポイントが細かく書かれていて、実験の留意点がつかみやすい。</li> </ul>

	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真やイラストの配置が工夫されており、子どもの関心や問題を見出す上で使いやすい。</li> <li>・大きな写真がたくさん使われているので、分かりやすいし、関心も高められる。</li> <li>・写真や図が大きくてきれい。</li> <li>・文字が多すぎず、見やすい。</li> <li>・実験と結果の部分は下地に色がついていて分かりやすい。</li> <li>・ページ数が多い。</li> <li>・(学校) 余白が多くて見やすい。</li> <li>・(学校) 文字がUD フォントになっており、またふりがなも適切にふられていてよい。</li> </ul>
2 教科ごとの選定の観点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「理科の学び方」のページには、問題解決の過程だけでなく、各学年で重点的に指導する問題解決能力(資質・能力)を分かりやすく示しているため、子どもが自覚して学びを進めていきやすい。</li> <li>・「ココに注目」で、問題解決の過程のうち、どこで、どんな「理科の見方・考え方」を使うとよいかを、子どもの思考を助ける言葉で示してあるので、子どもが自ら「理科の見方・考え方」をはたらかせながら思考しやすい。</li> <li>・4年生単元「季節と生物」が7つ(春のはじまり、春、夏、夏の終わり、秋、冬、春のおとずれ)に別れているので、北九州市の気候にあっている。特に、「春のはじまりと春」ではサクラ、「夏と夏の終わり」ではツルレイシが扱われており、北九州市の地域性にあっている。</li> <li>・5年生の「台風の学習」が夏休み前にあり、現在の気象状況にあっている。</li> <li>・5年生の学習において、防災の取組についても詳しく紹介されている。(地下貯水池や改正があった災害レベルの紹介など)</li> <li>・5年生単元「植物の結実」では、アサガオは自家受粉なので、実験が難しく人やメダカとの比較がしにくい。</li> <li>・5年生単元「流れる水のはたらき」では、実験観察の視点多すぎて、理解しづらい。</li> <li>・(学校) 自然現象についての地震や噴火の変化(6年生)は、予想・実験・考察が分かりやすく掲載されている。</li> <li>・(学校) 学習の「コツ」は子どもの思考を助ける。初めの単元だけでなく、夏休み後の単元にもほしい。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点	発 行 者 名 学 校 図 書
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度 ・教科の目標達成に結び付く内容になっている。 ・単元の配列が北九州市スタンダードカリキュラムと違うので、年間計画を立てる際に配慮が必要である。
	(2) 内容に関する配慮事項 ・「ふりかえろう」の内容が、充実している。 ・問題解決の具体が示され、教師が意識して子どもに伝えられるようになっている。 ・単元のはじめに、身に付けたい力が明確に示され、既習内容も記載されている。 また、単元全体に関わる実験の注意事項が始めの部分に記載されている。 ・考察の際のポイントが明記されていて分かりやすい。 ・言語活動の支援のために、話型の例があり、参考にして話し合い活動ができるようになっている。 ・どの学年も教科書 P2、3「理科の世界をぼうけんしよう」において、領域ごとの見方を分かりやすい言葉で示しているところがよい。 ・子どもの問題意識に沿った単元展開になっていない部分も見られる。 ・吹き出しが多く、問題把握や考察などで視点を紹介しすぎている単元がある。 ・考察と分かったこと(まとめ)と一緒に扱われており、分かりにくい。 ・「理科の学び方」が最初にかかっているが、簡潔すぎて分かりにくい。 ・実験や観察の方法など、安全に配慮して記されている。 ・各単元ごとに、学習の進め方のヒントが記されている。 ・学習の手順が詳しすぎるので、子どもの思考が育ちにくい。 ・家庭で行う内容が多く記載されており、子どもまたは、その保護者の負担荷重となってしまうのではないかとと思われる。 ・一単元時間の流れ「問題、予想、観察、結果」が示されている。振り返ろうの学習で知識理解の確認をすることができる。 ・「考えよう、調べよう」コーナーがあつてよい。(ICT、ノートの使い方、まとめ方 など) ・「ふりかえろう」というページで、各学習単元のまとめやふりかえりを行うことができ、学力の定着を図ることができる。 ・(学校) 発展的な内容の資料が充実している。 ・(学校) 写真やイラスト、図等が充実しており子どものイメージを膨らませる教材となっている。
	(3) 分量 ・全体の分量は、授業時数から見て適切であるが、単元によって、時数の割り当てにやや差がある。 ・(学校) 1ページ内の情報が多く、子どもにとって大切なところが分かりにくい。
	(4) 使用上の便宜 ・二次元コードでは、実験器具の使い方や実験結果を動画で見ることができるとともに、ワークシートがダウンロードでき、取り組むことができるようになっている。 ・二次元コードの内容が明記されていない場合もあり、分かりにくい。 ・「流れる水のはたらき」においては、何種類かの実験を同時に掲載しているところもあり、子どもが混乱しそうなどところもある。 ・問題・予想とわかったこと・まとめが同じ見開きになっているところがある。 ・余白は十分にあるが、文字が少し小さいと感じる。 ・写真や資料には、実物大の大きさも示されていて、実際の大きさを感じやすい。 ・理科室のルールや巻末の器具の使い方が一覧化されており、教科書にチェックできるようになっているので、分かりやすい。 ・「注意」がフォントを変えて強調されて分かりやすい。 ・デジタル版「ふりかえろう」は子どもが解答したものを教師が確認できない。 ・目次が裏面にあり扱いにくい。 ・日常の身近なものから学習に入りやすいように工夫されている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備物のチェック欄があつてよい。</li> <li>・予想、結果など、見出しが小さく、少し見にくい。</li> <li>・ノートの例があるため、イメージしやすく子どもの思考の助けになる。</li> <li>・背表紙にSDGsについて書いているが、内容の記載がないため活用が難しい。</li> <li>・(学校) 導入のページの写真やレイアウトが見やすく子どもたちの興味を引きそうである。また、実験器具の使い方の説明が分かりやすい。</li> <li>・(学校) 各単元のはじめに、挿絵を使って分かりやすく説明している。</li> </ul>
(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物を顕微鏡で見た写真の画質がよく、分かりやすい。</li> <li>・写真などの資料が小さく、字が小さく、文が多いため子どもへの配慮が欠けている。見にくい。</li> <li>・(学校) 見出しの字が薄く、単調で読みづらい。</li> <li>・(学校) 重要などころの背景色が分かりにくい。単元でつけたい力をキャラクターで示して分かりやすく明示している。</li> <li>・(学校) 行間や挿絵の配置が窮屈に見える。</li> </ul>
2 教科 ごとの 選定の 観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生「雲と天気の変化」の学習に関連して、「冬から春へ」という内容があり、冬の天気を扱っているが、指導要領の内容との関連性からするとその必要性を感じにくい。</li> <li>・4年生「雨水の流れ」では、かたむきチェッカーを使っており、地面の傾きを調べやすい。</li> <li>・5年生「流れる水のはたらき」は観察の視点が絞られており、子どもが理解しやすい。</li> <li>・4年生「空気の温まり方」の学習で、空気をあたためる実験がビーカーをアルコールランプで直接、温める実験となっているが、ビーカーが割れる危険性があると考えられる。</li> <li>・4年生「雨水の流れ」の水のしみこみ方の実験で、植木鉢を使用しているので、土の粒の大きさと水のしみこみ方の関係が見えにくく、分かりにくい。</li> <li>・5年生植物の発芽の学習で、導入と実験で、取り扱う植物が変わるため、展開しにくい。</li> <li>・(学校) 6年生は、人体のつくりが詳細に書かれていて、分かりやすい。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・単元の配列が北九州市スタンダードカリキュラムと違うので、年間計画を立てる際に配慮が必要である。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの実験に必要な器具の一覧があり、教科書にチェックできるようになっているので準備がしやすい。</li> <li>・問題解決の過程が視覚的に分かりやすく、子ども主体の問題解決学習が進めやすい。</li> <li>・各学年で主に育てたい力が分かりやすく示されているので、常にその資質・能力を意識して教師も子どもも学習を進められる。</li> <li>・【比べる】や【関係付ける】などの話型を、教科書冒頭で例示しているため、子どもの言語活動で活用しやすく、発表の仕方やノートの書き方について、教師も指導しやすい。</li> <li>・教科書のイラストの子どもの吹き出しの言葉が、正解のようなイメージを受けてしまい、子どもが、自ら理科の見方・考え方をはたらかせて思考することが難しい。</li> <li>・コラム、資料のページが少なく、発展的な学びにつながりにくい。</li> <li>・SDGsに触れており、教科書を読む子どもたちへ問題提起を行っている。</li> <li>・身近な題材を取り上げており、子どもの経験から予想しやすい。</li> <li>・発展的な内容は少ないが、学習や実験の手順が明確で分かりやすい。</li> <li>・実験手順に沿ってイラストが記載されているため、子どもが具体的にイメージしやすい。</li> <li>・作って遊ぼうの内容は子どもの興味をかきたてる内容である。</li> <li>・(学校) 索引や重要事項が後半にまとめられているので、学習中も活用しやすい点が良い。</li> <li>・(学校) 学びリンクを活用することで、教科書と関連のあるコンテンツを紹介し、学びを深める工夫がされている。</li> <li>・(学校) 巻頭に、「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」、「学習の進め方」、「ノートの取り方」など明確に示しているため、視点が分かりやすく丁寧である。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1ページあたりの文字の分量が多く、文字の間隔が狭いので読みにくい。また、ページ数が多い。</li> <li>・各領域の内容に偏りがなく、調和がとれている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の見方・考え方を子どもに働かせる場面に、「見方のカギ」などのマークがついており、分かりやすい。</li> <li>・問題解決の場面ごとに色分けされており、分かりやすくなっている。</li> <li>・裏表紙と巻末の資料に当該学年で使用する実験器具の使い方や安全面への配慮などが分かりやすくまとめている。</li> <li>・活動の内容にタブレットやデジカメなどの ICT を主に活用する場面が取り上げられている。また、撮り方のコツも紹介されている。</li> <li>・巻末に索引があり、キーワードで学びを振り返ることができるようになっている。</li> <li>・単元全体に関わる実験の注意事項が始まりの部分に記載されている。</li> <li>・実験の方法が詳しく明記されており、危険のマークが分かりやすく示されている。</li> <li>・二次元コンテンツが少ない。</li> <li>・掲載されている写真の中には、学習内容との関連が薄いものや資料として不足しているものがみられる。</li> <li>・ページ一枚に情報量が多すぎる。また、手順も多く示しすぎているため、思考力が育たない。</li> <li>・安全の手引きを教科書の巻末に示していて、いつでもすぐに見ることができる。</li> <li>・二次元コード付きで使いかたのページがある。また、振り返りの隣に確かめようがあり使いやすい。</li> <li>・発言や意見の仕方が最初に書かれているのがよい。また、振り返りが書かれているの</li> </ul>

		<p>で既習の内容が振り返りやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 指導内容に応じて博物館や学習センターなどと連携・協力を図ることができる。</li> <li>・(学校) 「確かめよう」では、解答を教科書に書き込めるのがよい。</li> <li>・(学校) 問題、資料、写真などが、学習内容に関連をもたせて用意され、学習の深まりに有効に働くように配置されている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書のサイズが小さく、フォントの使い分けも工夫されており、とても見やすくなっている。</li> <li>・写真と教科書の背景がかぶっており、資料が見にくい(特に気象単元)</li> <li>・図が窮屈に感じる。情報が一気に入ってきて見にくい。</li> <li>・紙が薄いので破れやすく、ページをめくりにくい。</li> <li>・問題と結果が別のページにあり、見やすい。</li> <li>・印刷は鮮明である。写真やイラストが見やすく分かりやすい。字の大きさがちょうどよく見やすい。</li> <li>・(学校) 写真が大きくて見やすい。</li> <li>・(学校) 人体図がリアルで興味を引く。</li> </ul>
2	教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災の取組について情報が多く載っている。</li> <li>・5年生「植物の発芽」で、実験方法に工夫があり、条件制御がしやすい構成になっている。</li> <li>・5年生単元「植物の結実」では、アサガオは自家受粉なので、実験が難しく人やメダカとの比較がしにくい。</li> <li>・5年生「植物の発芽」の学習で、導入と実験で、取り扱う植物が変わるため、展開しにくい。</li> <li>・4年生「季節と生き物」の学習における植物がヘチマなので、北九州市の状況から生育が早いツルレイシの方が適している。</li> <li>・(学校) 台風の横から切った様子が見れる資料が分かりやすくてよい。</li> <li>・6年生「ものの燃え方」の学習で、集気びんを用いた対流などが確認しにくい。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		信州教育出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・学習する順は本市スタンダードカリキュラムと異なるが、「社会科」と同時期に方位磁石を学習できる点はよい。</li> <li>・3年生の単元では、「太陽と影を調べよう」が最初の単元になっており、北九州市の実態と異なっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やってみよう」という発展的な内容があり、子どもの興味・関心を高められる。</li> <li>・季節に関連した単元であるのに、季節を考慮した時期に実施していないものがある。</li> <li>・小3「やってみよう(発展)」の内容が、中学3年生の学習に関連した内容も扱っていて、適当ではない。</li> <li>・「問題→実験→結果→わかったこと」という問題解決の過程だけで構成されているので、予想や考察をしなくてもいいようにとらえられる。そのため、全体のページ数も他の教科書に比べて少ない。</li> <li>・「インターネットで調べてみよう」では ICT 機器の活用しやすく書かれている。</li> <li>・地理的な問題(長野県が対象)で単元構成が福岡県とは対応しにくい。</li> <li>・子どもたちにとって、身近で関心の高い事物・現象が素材に選ばれており、主体的に問題を解決しようとする態度を養うことができる内容となっている。</li> <li>・「やってみよう」「調べてみよう」「しりょう」「はってん」等、それぞれのページ設定によって、学ぶ楽しさと学びの豊かさを広げ、学習を深める工夫がなされている。</li> <li>・(学校) 星座はイラストだけでなく、写真があるとよい。</li> <li>・問題解決学習の流れを考慮して構成されている。前年度の既習事項が記載されており、学習したことのつながりを持って学習に臨むことができる。</li> <li>・(学校) 観察カードの書き方が分かりにくい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年によっては、1学期の学習内容が多く、本市子どもの実態には適していない。</li> <li>・(学校) 各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> <li>・(学校) 絵や写真が小さく、文字の分量が多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物単元の解説や図の種類が多く分かりやすい。</li> <li>・強調部分など、字の大きさを変えているが、一部小さい字があり読みにくい。</li> <li>・器具の使い方が色々なページに載っており、まとめて確認することができない。</li> <li>・単元のまとめにイラストが大きく書かれている点が、本市子どもにとって分かりやすい。</li> <li>・目次や単元をする時期が載っているのは教師側として使いやすい。</li> <li>・1年間の学習の流れの下に栽培カレンダーがあって分かりやすい。</li> <li>・それぞれの実験に必要な器具の一覧があり、教科書にチェックできるようになっているので準備がしやすい。</li> <li>・巻頭に安全面の指導や理科室の使い方が記載されており、安全を意識して学習に臨むことができる。</li> <li>・実験器具の使い方のページなどがなく、本市子どもが学習する場合に配慮が必要である。</li> <li>・写真資料において、注目する視点が分かりにくいものがある</li> <li>・問題が教科書の様々な所にあり、子どもの思考のつながりに配慮が不足している。</li> <li>・二次元コードの動画資料が一覧になっていて見やすい。</li> <li>・巻末にインターネットの動画の二次元コードがある。また、動画の視聴時間も記載されているので計画的に使用しやすいようになっている。</li> <li>・理科の学習の進め方が分かりやすく、目次の後ろに示されている。</li> <li>・写真がたくさんあってよい。また、見開きページで連続した構成となっている所もあり、子どもが追求意識や意欲が持続的に高められる内容になっている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真での説明がふさわしい部分が、イラストになっていることがあり、活用しにくい。</li> <li>・(学校) 単元の導入の際に、日常の体験や既習事項から予想が立てやすいようになっている。</li> <li>・(学校) 問題量が少ない、また問題と結果が同じページにある。</li> </ul>
(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真が全体的に暗く、鮮明でないので古い感じがして使いにくい。</li> <li>・使われている多くの写真が信州地域のものであり、地域性に偏りがある。</li> <li>・「もくじ」が裏面で分かりにくい。</li> <li>・(学校) 色合いがシンプルで、かつすっきりと行間がみやすく整えている。</li> </ul>
2 教科 ごとの 選定の 観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料のコーナーがあり、より知識を広げられるようになっている。</li> <li>・5年生台風では、関東を通過する台風を例に挙げ、9月の主な進路例にしているが、(P86)一概に言えず、無理がある。</li> <li>・(こん虫)チョウの単元の時期が遅く、実物が観察できるか分からない。</li> <li>・災害に関する基礎的な理解を図ることができる内容になっている。</li> <li>・(学校) 4年生の水のゆくえでは、地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を取り入れるには、そぐわない時期に単元が設定されている。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		啓林館
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「たしかめよう」や「くらしとリンク」、「活用しよう」のコーナーが充実しており、日常生活や社会に生かすよう配慮されている。</li> <li>・実験方法が複雑になっている単元があり、子どもが混乱することが考えられる。</li> <li>・問題解決の流れが縦軸ではなく、サイクルで表されているので分かりづらい。</li> <li>・他社に比べると、各学年での問題解決の視点が重点的に取り扱われていない。</li> <li>・安全に配慮するため、文字とイラストのアイコン(「けが」「やけど」「強い光」など)になっていて分かりやすくなっている。</li> <li>・ノートの記述例があり、ノート作りや振り返りの参考として配慮されている。</li> <li>・導入のページで「思い出そう」というコーナーがあり、子どもがこれからの学習の見通しをもつことができるよう配慮されている。</li> <li>・「もっと知りたい」によって次の学習へのつながりがもてるようになっている。</li> <li>・既習事項から導入を行うことで、系統立てた思考につながるよう工夫されている。</li> <li>・振り返りまとめノートの例が示しており、書く活動が苦手な子どもに配慮している。</li> <li>・(学校)「くらしとリンク」というページでは、学習した内容が日常生活とつなげて考えられるようになっている。</li> <li>・(学校) 学習内容がまとめが大きく考察が少ない。</li> <li>・(学校) 巻末に探検シートがついている。観察の際に適している。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分量は適切である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT を活用する際、どんなときに(場面)、何のために(目的)ICT を使うとよいのか分かりやすく示されている。</li> <li>・それぞれの実験に必要な器具の一覧があり、教科書にチェックできるようになっているので準備がしやすい。</li> <li>・導入の写真は大きくてよいが、ほかの写真が小さく分かりにくい。</li> <li>・理科室の利用方法や実験器具の説明で、情報が不足しているものもある。</li> <li>・二次元コードを活用して動画コンテンツを視聴することができ、CG を使った動画もある。</li> <li>・手順の文章が分かりづらく、挿絵も少ないため、問題解決の力を養うことが難しい。</li> <li>・学習の単元終了後に「たしかめよう」のページがあり、復習することができる。</li> <li>・(学校) 季節暦が載っているのは教師側として、使いやすい。</li> <li>・(学校) 教科書の下方に「キーワード」が示されており、確認しやすい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見やすい 絵がはっきりしている(分かりやすい)図が多い</li> <li>・文字のフォントがばらばらで読みにくい</li> <li>・字が多く小さいが大事なことが細かく書かれている。</li> <li>・問題、予想、結果、考察の色分けがなく、分かりにくい。</li> <li>・レイアウトに統一感があり、文字も見やすいフォントを使っており、単元が変わっても目で追いやすくなっている。</li> <li>・(学校) 写真や図が小さく、また、実験結果の写真に不鮮明なものがある。</li> <li>・(学校) 観察実験の仕方について挿絵などが少ないため分かりにくい。</li> </ul>

2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生単元「花から実」から「人のたんじょう」とつながっており、指導しやすくなっている。</li> <li>・単元によっては、考察が詳細に書かれているため、子どもの思考を深められない。</li> <li>・問題解決の過程で必要な予想の場面が無いところが多くなっている。</li> <li>・植物単元(特に3・4年)で、導入の資料がイラストになっていて、子どもが観察するときの視点をもちにくくなっている。</li> <li>・4年生「空気のあたたまり方」の学習(P149, 150)において、空気の温まり方を調べる実験として、「暗い部屋で、あたためられた空気に光を当て、スクリーンにうつった光のようすを観察する」という方法は、適切ではない。</li> <li>・(学校) 梅雨に「水の行方」がきているのがよい。</li> <li>・5年生植物の発芽の学習で、導入から実験までで植物が変わるため、展開しにくい。</li> <li>・(学校) 3年生では、体験的な活動を重視しながらも、理科の見方・考え方を働かせることができる内容になっている。</li> </ul>
-----------------	---

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名 観点		東京書籍
各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜や動植物の世話の仕方や活動のヒント(児童の吹き出し)などがあり、活動しやすい内容となっている。</li> <li>(学校)上巻では幼児期の経験を生かした行動を、下巻では上巻の学びをつないで、より探究的に学べる活動が構成されている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ページの導入に問いと関連するマーク(!・?・♡)があり、「～かな」等の呼びかけで、問題解決的な学習になっている。</li> <li>児童の思考がページの左から右へうまく流れ、深い学びへと導く構成となっている。スタートとゴールがはっきりとした紙面構成である。</li> <li>板書や掲示物、成果物、振り返りカードなどでイメージがつかみやすい。上巻P.34「かんさつずかん」では、学習活動や評価の仕方も例示してある。</li> <li>児童の言語活動や感じたことなどを話し合う場面が単元内に細かに配置されているので、言語能力の育成を図りやすい。</li> <li>(学校)「学びをふかめる」では、気付きを関連づけたり視点をかえて捉え直したりするなどの学びの過程により、深まる姿が分かりやすくなっている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>分量は適切である。</li> <li>活動イメージと活動内容のバランスがよい。</li> <li>(学校)文字の分量が低学年として適切である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次元コードを使うと、「NHK for School すたあと」や、課題に合った動画が視聴できる。</li> <li>種から花までの変化が一目で見やすい写真の配置になっている。</li> <li>「いきものずかん」は、リード線が実物の大きさが分かりやすい。</li> <li>イラストで描かれた教師と写真で掲載されている教師が表情も服の色も特徴が同じで、教科書を使う児童が違和感を感じずに学習できる。</li> <li>二次元コードは、コピーをとるか GIGA 端末のキーボードを外さないと、読み取りにくい。</li> <li>(学校)必要なことは書かれているが、補足等が少ない。</li> <li>(市民)写真がとてもインパクトがあり効果的である。北九州の科学館の写真もあってよかった。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷や写真が大きく鮮明で、児童の表情がよく分かり、活動意欲を喚起するものとなっている。</li> <li>(学校)学習内容の厳選や紙質の軽量化により児童の負担軽減を図っている。</li> <li>(市民)大きい判型は、低学年に効果的。</li> </ul>
2教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用について、調査にカメラや GIGA 端末を持って行ったり、発表を画面上で行ったりするなど、児童の発達の段階や生活科の特質などに応じて適切に選択・活用できる内容となっている。</li> <li>「かつどう べんりてちょう」は、活動の仕方や手順が分かりやすい。下巻では、「見つける」「くらべる」や「ためしてみよう」など児童の姿で具体的に示され、気付きの質を高める工夫がある。</li> <li>下巻P.64「いのちのたび博物館」の写真が取り上げられている。</li> <li>上巻P.29の動画で取り上げている植物がアサガオのみに限定されている。</li> <li>(学校)生活科における2年間の学習の流れが継続的に取り上げられていて分かりやすい。</li> <li>(学校)扉ページの写真や単元ごとに関連するつぶやき例がこれまでの経験を思い出させ、活動に見通しがもてるようになっている。</li> <li>(学校)上巻のあさがお、下巻の野菜など、2年間を通して継続的に動植物の関わりが深まるような内容になっている。</li> <li>(学校)ICT機器の効果的な活用例が多く掲載されている。また上巻の「コンピューターをつかおう」は、ICT活用の導入として適切だと考えられる。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		大日本図書
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上巻の栽培活動に花と野菜があり、下巻は野菜の調理に関する内容となっており、栽培活動に関する内容が少ない。</li> <li>・ (学校)見開き一ページでがすっきり見えるが、内容は少なく感じる。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の疑問や問いがキャラクターにより呼びかけられ、児童の思考を促し、連続させる工夫がなされ、問題解決的な学習ができる構成になっている。</li> <li>・ 「せいかつことば」など国語科と関連させたコーナーは、児童へのヒントになる。</li> <li>・ 上巻の見開きページ右下の「きもちマーク」や児童のふき出しが学習のまとめのようになっているものがあり、児童の思いや言語表現を引き出す工夫がやや不足している。児童の素直な思いを表現する自由度が少なくなっている。</li> <li>・ (学校)低学年の探究プロセスがわかりやすく説明されている。</li> <li>・ (学校)SDGsについて分かりやすく取り上げられている。</li> <li>・ (市民)個性を大切にされた内容になっている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各領域の内容バランスがよく、調和がとれている。</li> <li>・ 全体的に文字が小さく、情報量が多い。</li> <li>・ (学校)1年生には分量が多く、45分では指導時間が足りない。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二次元コードの栽培学習では、「さいばいめいじん」が一貫して様々なことを教えてくれて、分かりやすい。</li> <li>・ 書き込みのページが多い。ワークシートのデータなどがほしい。</li> <li>・ (学校)1つ1つの写真は大きいが、具体的な流れや手順が分かりにくい。ただし、二次元コードを使って補助的に使えるようになっている。</li> <li>・ (学校)写真やコメント欄などが線で囲まれていて見やすい。</li> <li>・ (市民)カラーで見やすい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 余白が多く、写真やカードが少ない。</li> <li>・ 写真やイラストがやや暗い。</li> <li>・ 表紙の色調が濃いため、明るさに欠ける感じがする。</li> <li>・ (学校)紙質が薄いため、耐久性が心配である。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気付いたことなどをICT等の多様な方法により表現し、考えることを通して、気付きを確かなものとしたり、気付いたことを関連付けたりすることができるような内容になっている。</li> <li>・ 下巻P.13のタンポポのわた毛でカラーページ1ページから「春と遊ぼう」という気持ちを引き出すには、本市の実態からすると少し難しいと考えられる。</li> <li>・ 上巻P.10、下巻P.2など、生活科で育てたい力を具体的に示しており、教師にも視点として捉えやすく指導しやすい。</li> <li>・ 上巻P.82のモノクロページは、児童に対しては意図が伝わりにくい。</li> <li>・ スタートブックでは全面イラストのページがあり、写真を効果的に入れたほうがよいものもある。</li> <li>・ (学校)写真の種類は豊富だが、絵のタッチが違うものが見開きのページに混在するのが少し見づらい。</li> <li>・ (学校)「かんきつにつき」に、目・耳・鼻などのマークがあり、児童の視点を明確にして記録できるよう促しているところが良い。</li> <li>・ (学校)各領域について、写真、ポスター、ワークシートなど、さまざまな表現方法が各所に散りばめられている。</li> <li>・ (市民)最後に、世界に目を向けた締めくくりがあるところがよい。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		学校図書
観点		
各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生「わたしのあさがお」は、育てる植物の取り扱いが限定的である。</li> <li>・ 2年生「生きものともだち」では、飼育の様子的事例が「ダンゴムシ」中心で、範囲が狭い。下巻 P.76で取り上げられている虫の種類については、児童の身近な生き物の範囲を超えている。</li> <li>・ (学校)草花図鑑や秋のものしり図鑑などがある。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元のリード文等が、幼小の接続を意識した内容になっている。</li> <li>・ 児童の思考に対して限定的な呼びかけになっている。</li> <li>・ 家族の単位では、感謝の思いが前面に取り上げられ過ぎており、「できるようになったこと」に気付くような内容が少ない。</li> <li>・ 下巻「作ってあそぼうごくおもちゃ」の二次元コードで作り方を示しているが、丁寧に説明がある一方で、児童の試行錯誤が生まれにくく感じられる。</li> <li>・ 写真や挿絵の中に、多様性が感じられるものが少なく感じられる。</li> <li>・ (学校)表紙の裏面に年間の学習スケジュールが書かれていて分かり易い。</li> <li>・ (学校)言語に関する能力の育成を図るうえで、必要な言語活動の充実について配慮されている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分量は適切である。</li> <li>・ 各領域の内容バランスがよく、調和がとれている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二次元コードを使うと、「NHK for School」や「政府インターネットテレビ」等専門機関のサイトにつながり、多様に学習できる。</li> <li>・ 二次元コードに、「かあどのかきかた」もあるが、教科書に載っていた方が参考にしやすいものもある。</li> <li>・ イラストのタッチが薄く、表情が捉えにくい。</li> <li>・ (学校)ものしりノートなどで植物を見つけた後の遊びが書いてあり、発展に活用できる。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真の児童の表情が明るく、分かりやすい。一方で、表紙の情報が多く、やや見づらい。</li> <li>・ 「ものしりノート」の文字が少し小さく、読みにくさがある。</li> <li>・ (学校)紙が柔らかく、めくりやすい。しっかり開くので見やすい。</li> <li>・ (市民)字が小さくて読みづらい。教科書は重い。</li> </ul>
2教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験的な活動や表現活動において、多様な学習活動を取り入れた内容になっており、児童が自分の興味や関心に応じて選ぶことができるようになっている。</li> <li>・ 身近なもの、児童が取りかかりやすいもの、材料がそろえやすいものが取り入れられている。</li> <li>・ 教師の言葉かけや価値付けの場面が、やや少なく感じる。</li> <li>・ 「はるのページ」が「あそびにこころよ」にまとめられていて、年間の途中に入り込み、構成が分かりにくい。</li> <li>・ (学校)自然との関わりが具体的に把握できる学習活動を取り入れている。</li> <li>・ (学校)一貫して4人の人物が登場していることにより、児童が親しみをもって、生活を共に進めていながら学習していくことができる。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観 点		
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科の目標に結び付く内容であり、発達の段階に適応したものである。</li> <li>・ (学校) 指導要領の内容に準拠している。簡潔で分かりやすく、見通しが持ちやすい内容になっている。</li> <li>・ (学校) 各学習単元のゴールが分かりやすい。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヒントに「見方を変える」「予想する」などが載せてあり、分かりやすい。</li> <li>・ 下巻の野菜の種類が多く、児童の多様な思いを引き出しやすい。苗と種子の両方を載せている点も、「どのように育つか？」と児童に興味をもたせやすい。</li> <li>・ 二次元コードの動画では、夏祭りや町自慢、名人からのメッセージ等、人が話しており、臨場感がある。</li> <li>・ GIGA 端末の活用や、成果物、手紙等、バランスよく多様に紹介している。</li> <li>・ 「わくわくスイッチ」によって、児童の実態を把握しながら、学習をスタートさせることができるが、導入の仕方とその後学習展開に工夫が必要である。</li> <li>・ (学校) 児童が学習内容を確実に身につけることができるとともに、安全衛生面で配慮されている。</li> <li>・ (学校) 「やくそく」「言えるかな」などの小コーナーが多く指導しやすい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分量は適切である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻末「学びのポケット」で思考ツールを提示し、他教科との関連が図られている。</li> <li>・ 下巻 P. 13では支柱や鉢の片付け方を挿絵で促していて、育てるだけでなく、使った物の後始末をする態度を育む視点になっている。</li> <li>・ 児童が書いた振り返りカードが、五感を働かせたものになっている。</li> <li>・ 二次元コードが若干大きく、教科書の端にあり、読み取りやすい。</li> <li>・ 野菜の断面写真が鮮明で見やすい。</li> <li>・ 安全に関するイラストが小さく大まかで、読み取りにくい(上巻p.22)</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生と2年生で紙質や写真の発色が違う。</li> <li>・ (学校) 印字も写真もわかりやすく、はっきりしている。字の大きさ自体が内容によって変えられていて、理解しやすくなっている。</li> <li>・ (学校) 書き込みやすい紙質である。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下巻 P.50のSDGsの点や P.43理科へのまどのコーナーがあり、次の学年への見通しがもてる。</li> <li>・ 「はっけんロード」で思考の流れを示そうとしているが、ページのまとめ方に一貫性、統一感が欠けており、逆に分かりにくくなっている。</li> <li>・ 「まなびポケット」のページ構成上の位置がよくない。</li> <li>・ 見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの活動が見えにくい。</li> <li>・ (学校) 巻末の学びのポケットは、生活科だけでなく、身近な生活で幅広く使える知識が紹介されていて、さまざまな場面で活用できる内容になっている。</li> <li>・ (学校) 身近な環境や高齢者、施設などを活用した学習内容が充実しているが、学校の実態に臨機応変に対応できる内容も入れてほしい。</li> <li>・ (学校) GIGA 端末の効果的な活用例が豊富に紹介されている。また、巻末に活用方法を詳しく記載して分かりやすい。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		信州教育出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ある特定の地域の実態や季節の行事を中心とした内容構成になっている。</li> <li>・ 教科の目標達成より、道徳(徳育)的な内容となっている。</li> <li>・ 見出し(タイトル)が児童の思いであったり、場所の思いであったり、施設名であったり、統一感がない。</li> <li>・ 飼育不可能な動物(ヤギなど)がある。</li> <li>・ (学校)内容は児童の発達段階に適している。</li> <li>・ (学校)各単元の目標達成につながるための、写真や情報が少ない。(野菜や虫の写真)内容のつながりが浅く、見通しがもちにくくなっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見開きで大きく開くページが多く、様々な様子が表現されている。</li> <li>・ 内容の構成や展開が、季節の行事中心となっていて、児童の思いが連続するような単元のつながりが見えにくい。</li> <li>・ (学校)「まちたんけん」の単元などの体験型学習における注意事項や安全に配慮した内容が記されていない。</li> <li>・ (学校)児童の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習になるように配慮されている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分量は、適切である。</li> <li>・ (学校)絵や写真の数よりも、大きくして見やすくしたり必要なところに効果的に使ったりするなどして分かりやすくしている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発展的な学習内容かどうか明示されておらず、区別が曖昧である。</li> <li>・ 児童の書いた振り返りカードの掲載が少ない。</li> <li>・ 右開き、縦書きである。また、絵が多く、写真が小さい。</li> <li>・ (学校)表紙のイラストを見ると、一年間の学習の見通しを持つことができるため、とても良い。一方で、具体的な資料が少ない。イラストが多いことで、身近な実物のものとの一致が難しくなっている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大きさ(B5)はよい。</li> <li>・ 落ち着いた色合いの切り絵やイラストが中心で、児童が親近感をもちにくい。</li> <li>・ (学校)イラストが少し古いが、児童が持ち運びやすい大きさである。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二次元コードがなく、また GIGA 端末などを活用している場面が少ないため、情報機器を適切に活用することができる内容になっていない。</li> <li>・ 草花を食べる活動は、アレルギーへの配慮が必要である。</li> <li>・ 手を洗う等、身支度に関する内容が少ない。</li> <li>・ 本市の実態に合っておらず、自分と地域の人々、社会及び自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動になっていない。</li> <li>・ (学校)自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動や校外での活動を取り入れた内容になっている。</li> <li>・ (学校)単元展開をリードするキャラクターを登場させ、その児童の言葉で表すようにしているので、児童が自分事として考えやすい。</li> <li>・ (学校)季節の行事に関する内容についても細やかに掲載されており行事の由来について触れたり季節感を味わえたりする内容になっている。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		光村図書出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の内容に結びつく内容になっており、児童の発達段階に適している。</li> <li>(学校)それぞれの単元に「こんな事もあるかもね」コーナーにたくさんのアイデアや不思議に思ったことが書いてあり児童の思考が広がっていくのでよい。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りカードなど、発達段階に沿ったものになっている。</li> <li>上下巻の「ひろがる せいかつ じてん」には、花や野菜の種類が多く、収穫までの過程も載っていて、充実している。</li> <li>下巻 P.48では、どうしたら動くか(「はじく」「ころがす」等)が言葉で示してあるので、児童にとって試しやすいものになっている。</li> <li>文字や吹き出しが多く、児童が具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができにくい。</li> <li>伝え方、まとめ方、調べ方などの技能が取り上げられているが、児童の思いや気付きの質が高まっていく様子が見えにくく感じる。</li> <li>(学校)自主的自発的な学習になるように配慮されている。振り返りをさせやすく、発展学習につながる内容もある。各ページのヒントで、児童の思考が深まる。</li> <li>(学校)家族構成やクラスの友達に外国籍の児童がいるなどの配慮がほしい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>分量が多く、1ページ内の情報量が多い。</li> <li>(学校)各領域の内容に偏りはない。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ひろがるせいかつじてん」が別冊で取り外し可能になっている。植物の成長(つながり)が見やすい。</li> <li>写真は児童の表情がよいものが多い。</li> <li>下巻 P.70に、ICTの具体的な活動が分かりやすい。</li> <li>振り返りカード例が多く掲載され参考になるが、児童の思いや願いが見えにくく、書くことに重きが置かれている傾向にある。</li> <li>イラストが全面を占め、写真の取り扱いが小さく見えにくいページがある。</li> <li>(学校)情報の多いルーズの絵を多く用いているため、季節の対比がしにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙質が弱く、本が重い。児童が扱いにくい。</li> <li>上巻「季節のなかまたち」のカラーページが厚すぎて使いにくい。</li> <li>(学校)資料の内容によって強度を強くしてよい。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラストが特徴的なので、教科書というより、絵本に見える。</li> <li>活動の最後の振り返りのコーナー(教科書の右下)の吹き出しのセリフが、全て「～どんな気持ちになったかな。」という文末になっており、個々の思いを引き出しにくい。</li> <li>二次元コードがついているが、とんだページの内容がそれほど効果的でないものもある。</li> <li>イラストと児童の活動が合っていない。また、イラストに活動が引っ張られる恐れがある。</li> <li>(学校)虫の写真が温かみのあるレイアウトになっており、児童たちの興味や意欲を引き出すことにつながっている。SDGsの観点が入っていて材料集めを行うときに環境に目を向けることができるようになっている。写真もあるが、イラストが多い。</li> <li>(学校)ヨシタケシンスケさんのかきおろしイラストがついていて、人と違っても失敗してもよいということが伝わってくる。個性的な学びが必要される雰囲気があり、温かさが伝わってくる。</li> <li>(学校)最後に、2年間の生活科のまとめのようなものが絵本形式で掲載されている。</li> <li>(学校)各領域について、写真、ポスター、ワークシートなど、さまざまな表現方法が各種にある。</li> <li>(学校)見開きごとに振り返りが設定してあるので、意欲が継続しやすい。また、学習の見通しがもちやすい。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		啓 林 館
観 点		
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標達成に結びつく内容になっている。</li> <li>・ (学校) 思考整理のための方法や GIGA 端末の使い方が書かれているため、児童の学習が深まる。実践例が多く記載されているため、子供の思考が広がる。</li> <li>・ (学校) 上下巻でバランスよく網羅されており発達段階に合わせて作られている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「すたあと ぶっく」が巻頭に付いており、保幼小の接続を意識した内容になっている。「あんぜんにすごそう」の中で、交通安全の動画が充実している。</li> <li>・ 「できるかな できたかな?」のコーナーで、単元の振り返りに結びつく構成になっている。</li> <li>・ 栽培活動における花や野菜の種類が多く、個に応じた内容になっている。</li> <li>・ (学校) 国語科との関連が記載され、言語活動の充実について配慮されている。カードや発表、ポスターなどの例が記載され、言語活動にも配慮されている。</li> <li>・ (学校) 学習図鑑の学び方の提示、カードの書き方例、板書例などがあり本市教員が指導する上で分かりやすい。</li> <li>・ (学校) 理科へのつながりを意識させている所は、内容が少し難しい部分がある。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各領域の内容バランスがよく、調和がとれている。</li> <li>・ 分量は、おおむね適切だが、少し情報量が多い。</li> <li>・ (学校) 単元によっては、次々と課題が出てくる場面がある。本市の実態からすると授業時間が足りなくなる可能性がある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リード文、吹き出し、写真などが、学習を進める上で、関連をもたせて用意され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・ 上巻 P.34・35では、種子の収穫数を視覚的に分かりやすく示している。</li> <li>・ 「わくわく」を導入、「いきいき」で具体的な活動内容、「ぐんぐん」はまとめ、発展となっているので学習の見通しがもてて、分かりやすい。</li> <li>・ 板書がついているが、内容が指導書のようにになっている。</li> <li>・ (学校) 児童が書くカード例は、常に見開きの右下に配置され、分かりやすい。</li> <li>・ (学校) 家族の形として母親だけでなく、父親や祖父母も写真で登場しており、みんなで関わり合う様子がわかる内容になっている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小さなサイズで、ランドセルや引き出しに入れやすい。</li> <li>・ 写真や絵は色味がきれいで、見やすく、紙質もよい。</li> <li>・ イラスト(全体的なキャラクター)のタッチにやわらかさが欲しい。</li> <li>・ (学校) 本が小さいので、文字・写真など、すべてが小さく感じる。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な表現方法を使った、児童同士の交流の様子が掲載されており、授業づくりのヒントになる。</li> <li>・ 下巻 P.41に北九州市立図書館の写真が掲載されており、北九州市の児童にとって学習意欲が湧くものとなっている。</li> <li>・ 児童自ら気付いたり、見付けたりしてほしいことが、吹き出しの中に記入しているため、見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの活動へつながりにくい。</li> <li>・ 二次元コードにおける「デジタルたんけんブック」は情報量もあるが、児童によっては、やや使いにくい。</li> <li>・ 学習場面において「どことなくふうができるかな」という問いかけが、1年生にとっては難しく感じる。</li> <li>・ (学校) 野菜の成長例が少なく、植物への多様な関わりや見通しへとつながりにくく感じるが、デジタル教材では、鳴き声や植物の成長の様子などの動画を多く掲載し、実体験を補う工夫がされている。</li> <li>・ (学校) 幼年期の学びや育ちを大切にしており、3年生以降への接続を丁寧に示している。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つの題材に対する楽曲数に差異があるため音楽が得意で専門性のある教員にとっては、題材の楽曲と手持ちの資料を組み合わせる自由度があるが、若年や音楽の専門的指導が苦手な教員にとっては、指導の見通しがもちにくく、教材研究に時間がかかることが懸念される。</li> <li>音楽づくりでは、教材の楽曲と関連させているが、学習活動が複数提示される等、児童によってはやや内容が難しく、授業時数が増えることが懸念される。</li> <li>「学習マップ」に、ねらいと活動が簡潔に示されている。</li> <li>打楽器の持ち方と奏法が、題材の中や巻末に写真で示されており、指導しやすい。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻頭に、常時活動のアイデアが掲載されており、音楽を楽しみながら音楽を形づくっている要素を理解し、身に付けることができる。</li> <li>題材名に「音楽を形づくっている要素」が含まれており、その題材のねらいをとらえやすい。</li> <li>想像力をかきたてる写真やイラストが掲載されている。</li> <li>歌唱共通教材については、ねらいが明確に示されていないため、対話的な学びを引き出すことが難しいと思われる。</li> <li>巻末のリコーダー運指表には、音名が示されていない等、児童によっては、リコーダー習得の難易度が高いと思われる。</li> <li>鑑賞曲にスコア(総譜)が示されるなど、児童によっては、やや難易度の高い資料が示されている。</li> <li>児童の興味・関心を喚起させるような楽曲が多く掲載されている。</li> <li>二部合唱の低音パートの音がとりやすく、指導がしやすい。</li> </ul> <p>(学校)国語科、算数科、外国語活動、総合的な学習の時間など、他教科等と幅広く関連された内容である。</p> <p>(学校)今までにない曲想の歌を取り入れているため、児童にとって親しみやすい。</p> <p>(市民)特定の宗教に関わる楽曲が掲載されている。</p>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲の演奏時間が長いと、習得に時間がかかることが懸念される。</li> <li>音楽づくりを丁寧にさせているが、時間数が増えることが懸念される。</li> </ul> <p>(学校)英語の歌が多い。</p>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>休符に読み仮名を入れてあり、児童が読譜しやすい。</li> <li>目次の書き方が教師向けであるため、児童にとっては理解することが難しいと思われる。</li> <li>折込を広げた右側に楽譜があり、児童が歌唱する際にやや見づらと思われる。また、机上でスペースをとってしまうため、活動と並行すると、やや使いづらと思われる。</li> <li>二次元コードを読み込むと、動画での説明があり、指導しやすい。</li> <li>二次元コードが、指導内容に応じた位置に掲載されている。</li> <li>鍵盤ハーモニカの写真が実物大に近いと、児童にとっては演奏時に見やすい。</li> <li>鑑賞教材において、同じ旋律で、楽器の音色の違いを比較しやすい楽曲が選定されている。</li> <li>巻末に「音楽を表すいろいろな言葉」があるので、児童の思いを言語化する際に役に立つ。</li> </ul> <p>(学校)写真が鮮明に大きく写されているため、情景を想像しながら歌ったり聴いたりすることができる内容になっている。</p>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>表紙がカラフルである。</li> <li>一つの楽曲に対して写真やイラストが多い。</li> <li>製本は適切。</li> <li>インクによって、ざらつきがある部分がある。</li> <li>色味がやわらかく、美しく見やすい。</li> <li>裏写りがあり、次のページの内容が透けている。</li> </ul>

2 教科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽づくりにおいて、即興表現をする活動が多いが、活動のヒントが少ないため、児童によっては難易度が高いと思われる。</li> <li>・ 思考、判断、表現のよりどころである音楽を形づくっている要素が「おんがくのもと」として右上に表示されている。</li> <li>・ 発想できる児童にとっては、思いや意図をもって音楽的な表現ができると思われるが、特別な支援を要する児童や興味関心の薄い児童にとっては、段階を追って学習することが難しい。</li> <li>・ 歌唱共通教材のほかに、長い間親しまれてきた唱歌、わらべうたや民謡などが比較的少ない。</li> <li>・ 巻末の振り返りのイラスト等と知識理解との関連性を読み取ることが難しい箇所がある。 (学校)音楽表現の工夫については、もう少し取り組みやすいようにガイドがあるとよい。</li> </ul>
---	--

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育芸術社
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習のヒントがたくさん掲載されている。また、段階をふんで音楽活動ができるように工夫されている。</li> <li>・ 発想することを苦手とする児童に対しても、発想の手がかりとなる挿絵があり、音楽活動がしやすい。</li> <li>・ 目次の左上に共通教材がまとめられているので、把握しやすい。</li> <li>・ 歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞とバランスよく網羅されている。</li> <li>・ 高学年では、冒頭部分に歌唱教材が集中して掲載されている。</li> <li>・ 一つの楽曲で、どのような活動を仕組んでいけばよいのかが明確になっているため、評価しやすい。</li> </ul> <p>(学校)低学年の親しみやすく短い楽曲から、高学年の芸術性の高いものまで、幅広い範囲の楽曲を掲載している。</p>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若年や音楽の専門的指導が苦手な教員でも、教科書のガイドに沿って、授業構成ができる。</li> <li>・ それぞれの楽曲に「見つける」マークと活動指示があり、発問例として参考となるため、若年や音楽の専門的指導が苦手な教員でも、指導しやすい。</li> <li>・ 歌詞の内容に合ったイラストの掲載がある。</li> <li>・ 対話的な学びをするためのガイドが吹き出しに表れている。</li> <li>・ 系統性が明確で、既習内容を振り返りながら学習できる。</li> <li>・ 知的理解だけでなく、体を動かして実感できるような音楽活動も重視されている。</li> <li>・ リズムと拍の捉えが、分かりやすく掲載されている。</li> <li>・ 音程感覚を養うための、視覚的な工夫がなされている。</li> <li>・ 歌唱共通教材にも音楽を形づくっている要素が示されているため、教材研究をしやすく、児童にとっては思考、判断、表現のよりどころとすることもできる。</li> <li>・ リコーダーの学習においては、音階譜と音名が近くに併記され、指番号もあり、学習しやすい。</li> <li>・ 巻末の曲は、児童にとって興味・関心を喚起させるような楽曲がやや少ない。</li> </ul> <p>(学校)「見つける」「考える」「歌う」と学習活動が明記されており、学習すべき内容が確実に押さえられるようになっている。</p> <p>(学校)多様性の理解の記載があり、時代と合っている。</p> <p>(学校)音楽づくりでは、タッチ操作でつくることができるので、児童が楽しみながら学習に取り組むことができる。</p> <p>(学校)1年生のはじまりが体を動かす内容なので、保幼小の接続の観点から良い。</p> <p>(市民)特定の宗教に関わる楽曲が掲載されている。</p>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書だけで、教材研究と授業構成ができる。</li> <li>・ どの題材も、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞などを含んで3～4曲程度にそろっているので、指導の見通しがつきやすい。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学習マップ」や目次の書き方が児童向けであり、どんなめあてをもって音楽活動をしていくのかがイメージしやすい。</li> <li>・ 各題材末に振り返りとまとめの文が掲載されているため、学習評価の方法に工夫が必要である。</li> <li>・ 各ページが題材のまとまりごとに色分けされており、学習の進捗を把握しやすい。</li> <li>・ 学びを深めるためのヒント等をキャラクターの吹き出しで記載しているため、発想することを苦手とする児童にとっても思考判断し、表現しやすい。</li> <li>・ 二次元コードが右上に統一して掲載されており、児童が読み取りやすい。音源を聴いて練習したり、グループ別学習をしたりする際に、使いやすい。</li> <li>・ 巻末の資料が充実していて、継続して学習に使える。</li> </ul>

		<p>(学校)タブレットで音源を聴くことができるため、児童が自分で音源を聴いて練習するなど、主体的に活動に取り組みやすい。</p> <p>(学校)二次元コードがほぼすべてのページに掲載されているため、タブレットを活用した学習に取り組みやすい。</p> <p>(学校)見開きページ右下に、音楽を形づくっている要素がポイントとして示されているため、教材研究がしやすい。</p>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習マップ」の色合いが濃く、文字が見にくい部分がある。</li> <li>・写真に掲載されている文字が白抜きで見やすい。</li> <li>・製本は適切。</li> <li>・楽譜や文字が適度に大きく、鮮明で読み取りやすい。</li> <li>・書き込みやすい紙質で、裏写りが少ない。</li> </ul> <p>(学校)イラストが幼く、具体的なイメージにつながりにくい部分がある。</p>
2 教科ごとの選定の観点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のヒントから、楽曲を分析し、児童が音楽的な見方・考え方を働かせ、自分の地域の文化を味わう学習へとつなげることができる。</li> <li>・思考、判断、表現のよりどころである音楽を形づくっている要素が、右側にインデックスのように縦書きで表示されており、学習のポイントがわかりやすいものとなっている。</li> <li>・二次元コードを読み取ると、タブレット上で音楽づくりができるため、児童が思いや意図に合った表現に向けて主体的に取り組むことができる。</li> <li>・「振り返りのページ」では、学習内容や〔共通事項〕を示している。教材を基に示しているので分かりやすい。また、見開きにポイントがまとめているので〔共通事項〕を要として学ぶことができる。</li> <li>・リコーダー運指表が音名も併記されていて見やすい。また、リコーダーの学習過程がスモールステップで提示されており、児童の実態に即している。</li> <li>・各領域の関連が、〔共通事項〕を要として図られており、系統性を意識した指導計画を立てることができる。</li> </ul> <p>(学校)わらべうたなど日本で長い間親しまれてきた唱歌が多く、たくさんの楽曲に触れることができる。日本の歌が各学年に盛り込まれているのがよい。</p> <p>(学校)表現の工夫については、詳しい説明となっており、取り組みやすい。</p> <p>(学校)我が国の音楽のよさを感じ取れる和楽器の中から、児童や学校の実態に応じて、選択できる内容になっている。</p>

※「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		開 隆 堂 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児期とのつながりという視点が明確に打ち出され、低学年が楽しく活動できるような題材設定がなされており、児童の主体的な活動が展開できるように構成されている。</li> <li>・ (学校)本市の児童の実態に応じて系統的に編成されており、適切である。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めて学習する用具の使い方について、発達の段階に応じた配慮が適切になされている。</li> <li>・ 幼児期や中学校への接続ページが設定され、キャリア教育へ対応している。</li> <li>・ 他教科と関連付けた学習が示されるだけでなく、他教科の単元で扱うマイコンボード等のICTを活用した教科横断的な題材が設定されている。</li> <li>・ ICTの活用内容が、難しすぎず、使い方の例も示されており、本市の児童が無理なく取り組むことができる内容になっている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学年の題材数、教科用図書の分量(ページ数)は、本市の児童の発達の段階に準じて適切なものになっている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二次元コードを用いて、導入の動画「はじめに」など、動画や写真で学習内容や道具の使い方などを参照できるため、本市の児童が興味をもって学習活動に取り組むことができる。また、参考作品を360度回転させながら見ることができるものもある。</li> <li>・ 用具の使い方について動画で紹介し、安全な使い方をイラストで示すなど、安全指導への配慮がある。</li> <li>・ 二次元コードを使った「アイデアシート」「かんしょうカード」「ふりかえりシート」をダウンロードして活用できるため、本市の児童が発想や構想を広げたり学習を振り返ったりと、主体的・対話的で深い学びにつなげることができる。</li> <li>・ 巻頭に、1年間の活動内容を見通すことができる「もくじ」が掲載され、内容と目標が観点別に構成されているため、本市の児童が見通しをもって活動することができる。また、表紙にある各学年の題名にちなんだ内容についてクリエイターの言葉などとともに取り上げられている。</li> <li>・ 「合わせて学ぼう」では、他教科との横断的な学びが意識付けされている。</li> <li>・ (学校)児童や保護者に分かりやすいように、準備物が細かく示されている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の発達の段階に応じて、低学年と中・高学年のくくりの中で字体に差がつけられており、全体的に柔らかい印象がある。</li> <li>・ 色合いが抑えめで、目に優しい。</li> <li>・ (学校)ユニバーサルデザインフォントが使われていて、見やすい紙面になっている。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「つながる造形」「みんなのギャラリー」が特設され、本市の児童が造形的な見方・考え方を働かせ生活や社会の中の形や色などと豊かに関わることができる内容が提示されている。</li> <li>・ 3観点について、題材ごとに大切にしている部分が強調されているため、本市で育てたい児童の資質・能力を明確にできる。</li> <li>・ 写真に、児童の生き生きとした表情が多く掲載されており、児童の興味関心を高め、意欲的な活動につなげることがねらわれている。</li> <li>・ SDGsについては、5・6年上「地球まるごとたからばこ」などで、自然とともに生きることや世界・社会とつながることなどについて価値付けされている。また、材料にも配慮され、ストローがプラスチック製から紙製になるなど、造形遊びで使った材料を次の工作の材料になるような配列の工夫がある。</li> <li>・ 5・6年下「ためして刷って広がる思い」では、スチレン版画に限定した活動にすることで、本市の児童にとって表現の見通しをもちやすい内容となっている。</li> <li>・ 3・4年下の木版画では、初めて彫刻刀をもつ本市の児童の発達の段階に合った作品例が示されている。</li> <li>・ 粘土の題材では、各学年の発達の段階に応じ、段階を追って、具体的なものから抽象的なものに移行していく内容になっている。技能的にも、系統的に編成されている。</li> </ul>	

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・鑑賞の題材で、二次元コードを用いて提示される作品は鑑賞対象の作品ではなく、そこから発展的な活動で表された児童の作品であり、鑑賞対象の作品を端末で拡大して見ることはできないため、表現や鑑賞の深まりという点では、やや使いづらい面がある。</li><li>・(学校)工作の題材数と、絵や立体に表すことの題材数のバランスがよい。</li><li>・(学校)3観点について、「学習のめあて」と観点別のキャラクターを使って、学習のポイントや造形的な見方・考え方を楽しく読み取ることができるため、分かりやすく、本市の児童が主体的に学習活動に取り組みやすい。</li><li>・(市民)児童が楽しそうに作品づくりに取り組んでいる写真がふんだんに使われており、つくることを楽しんでほしいという意図が伝わる。</li><li>・(市民)写真が多すぎて、実際にどのような作品をつくったらよいかやや分かりにくい。</li></ul> |
|---|

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		日本文教出版
観 点		
1 教科 共通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本市の児童の実態に応じて系統的に編成されており、適切である。</li> <li>・ 学年によっては発展的な作品例の掲載も見受けられるため、本市の児童にとっては、それぞれの児童の実態に応じた学習ができる。</li> </ul>
	(2) 内容に関する 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3観点について、各題材の目標が明確に示されているため、本市の児童の資質・能力の育成が実現できる。</li> <li>・ 生活との関わりを感じられる題材があり、本市の児童が自分の活動と地域が繋がっていることを意識できるような工夫がある。</li> <li>・ (学校)他教科と関連付けた内容については、教科名のみで表示され、学習のためのヒントにはなりづらい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学年の題材数、教科用図書の分量(ページ数)は、本市の児童の発達の段階に準じて適切なものになっている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材によっては、本市の児童にとって、二次元コードの情報が多すぎると思われる。</li> <li>・ (学校)二次元コードを使用して、作品の詳しく見たい部分を拡大したり、角度を変えたりして見ることができると、本市の児童が形や色などと豊かにかかわることができる。また、用具の使い方について、動画で紹介しているため、本市の児童が動画で確認しながら学習を進められるような配慮がある。</li> <li>・ (学校)「めあて」の説明文が長く、文字も小さいため、本市の児童には読みにくく、理解に時間がかかるとと思われる。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユニバーサルデザインフォントが使われていて、見やすい紙面になっている。</li> <li>・ 全て同じ字体が使われていて、やや紙面の印象が固い印象がある。</li> </ul>
2 教科 ごと の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGsについては、3・4年下「資源を大切に作る心を育てる」のページで限られた資源を大切に使うことを価値づけている。また、6学年全体で、プラ材使用を70%削減している。片付けに関しても、ページに掲載することで、本市の児童が繰り返し材料を使うことを意識できるとと思われる。</li> <li>・ 3・4年下では、光を使った題材について、鑑賞から入り作品化するところまでを意識させる内容になっており本市の児童の発達や目標に応じて系統的に編成されている。</li> <li>・ どのように学習を進めたらよいか分かりやすく提示されている。また、教師がもつべき視点について気付かされるような裏表紙になっている。</li> <li>・ 材料や大きさなどが様々な作品の紹介や、体育館などの教室以外の場所での活動が掲載されているため、表現の幅が広がり、本市の児童の意欲がわく工夫がされている。</li> <li>・ 5・6年上「光と場所のハーモニー」や「ICTでチャレンジ」では、プログラミングを使った表現が紹介されているなど、ICT活用が重視されている。</li> <li>・ のこぎりの使い方について、本市の児童がポイントを押しやすいように擬音語を使って表現するなどの工夫がされている。また、クランプと万力を並べて紹介するなど、用途に応じてどのような用具を活用すればよいか捉えやすい内容になっている。その他の用具についても、説明が分かりやすい。</li> <li>・ 5・6年に「思い出そう表し方の工夫」のコーナーを設定し、本市の児童が既習の表現を想起できるようになっている。</li> <li>・ 各学年に「図工の見方」というページが設定され、色や形に目を向けて味わうことができるようになっている。学年に応じて、見るときの視点を系統立てて提示している。</li> <li>・ 「広がる図工」を特設しているが、題材の途中に出てくるので、本市の児童には、やや扱いにくさが感じられる。</li> <li>・ 釘打ちの題材では、立体に表す活動を個人で行うことで、釘打ちに慣れ親しみながら技能を身に付けられるよう配慮されているが、本市児童の発達の段階を考えると、活動の意欲に個人差が出る可能性があると思われる。</li> </ul>	

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 3・4年下の木版画の題材では、初めて取り扱う彫刻刀で面彫りを多用している作品も紹介されている。ただ、本市の児童の実態を考えると、取扱いが難しく時間もかかるため、ゆとりをもって活動することが困難になることが予想される。</li><li>・ (学校)工作の題材数と、絵や立体に表すことの題材数のバランスがよい。</li><li>・ (市民)児童が楽しそうに作品づくりに取り組んでいる写真がふんだんに使われており、つくることを楽しんでほしいという意図が伝わる。</li><li>・ (市民)写真が多すぎて、実際にどのような作品をつくったらよいのかが、やや分かりにくい。</li></ul> |
|---|

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標達成を目指すために学習の流れが、全ての題材の初めに「1・2・3ステップ」で示されており、繰り返されているので達成を目指しやすい。</li> <li>・ 児童の発達段階を考慮し、題材最初の導入写真が、児童の学習意欲を高められるものになっている。</li> <li>・ 「いつも確かめよう」の資料3「身支度の仕方」の写真については安全、衛生を十分に満たしている。</li> <li>・ (学校)採光や照度計、騒音計の表記、実物の資料も記載されており分かりやすい。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科との関連を端的に示している。(表紙裏面)</li> <li>・ 全体的に学習課題、ねらいがぶれず、明確に把握させるための発問が工夫されている。</li> <li>・ 「成長の記録」が見開きで1ページあり、書き込み式になっているため、自分の成長を自覚して、実践する喜びに気付くことができるようになっている。</li> <li>・ アレルギーに対する安全・衛生面での配慮がある。</li> <li>・ 「整理・整とん」「掃除の仕方」など、同一題材で指導することで、児童の思考が連続しやすい工夫がある。</li> <li>・ 作品例が魅力的で、児童が主体的に「作りたい」という意欲をもたせ、関心意欲を高めやすい。</li> <li>・ 写真と動画があり、右利き左利きもあるため、個に応じた指導に生かしやすい。</li> <li>・ 「旬」や「色どり」「地産地消」などの説明が大きく取り上げられている。</li> <li>・ 「青菜の茎がしんなりしたら」の表記があるが、茎のしんなりした状態は分かりにくい。</li> <li>・ 児童の問題発見を促す問いかけが焦点化されているため、児童自ら課題を発見させる配慮がやや不足している部分もある。</li> <li>・ (市民)P18お茶の種類や文化を大事にしている。</li> <li>・ (市民)「稲からごはんの変化」「みその原料と種類」が、分かりやすい。</li> <li>・ (市民)家族が父、母、弟、祖父、祖母が例に出されている。いろいろな家族がいるのでふさわしくないと思う。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材を組み合わせるなどして、コンパクトな題材構成になっている。</li> <li>・ 1ページあたりの内容量が多い。</li> <li>・ (学校)全体の分量は、授業時数からみて、適切である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガイダンスが目次と一緒に見開きで確認できて分かりやすい。</li> <li>・ 安全・衛生など、巻頭近くに家庭科を学ぶ上でのポイント「いつも確かめよう」が載っていて学習が深まりやすい。</li> <li>・ ICTや防災、環境などの配慮事項がちりばめられており、家庭との違いに気付いたり、自ら発見しやすくなっていたりと、学習の深まりに有効になるよう配慮されている。</li> <li>・ デジタルコンテンツが多く、学習が深まりやすい。</li> <li>・ 発展的な項目について、「発展マーク」の説明で、児童が学習しなくてもよい内容であると明示されているので、指導者が混乱しない配慮がされている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料ページの写真や挿絵がきれいで丁寧である。</li> <li>・ 安全面の注意など紙面にゆとりがあり、色使いがよいので目立ちやすい。</li> <li>・ 調理手順の写真では、「沸騰」の様子が分かりやすい。</li> <li>・ 全体的にバラバラと色がついているので、学習の流れのまとまりが掴みにくい。</li> <li>・ 青菜をゆでた後のゆで汁の色が無色透明で不自然である。</li> </ul>

2 教科 ごと の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の進め方が3つのステップで表示されており、「評価・改善」から新しい課題の発見につながるイメージをもちやすい。</li> <li>・ 「生活を変えるチャンス」(生活の課題と実践)を大きく取り上げることで、「家庭での実践」につなげる意識を高めることができる。</li> <li>・ 防災の視点「地震が起こった時」があるのがよい。</li> <li>・ 題材の終わりに「成長の記録」に戻れるようP6・P7へのリンクをさせていることで、児童が自分の学びを振り返りやすい。</li> <li>・ 1本どり、2本どりの仕方や、説明が分かりやすい。</li> <li>・ 5年生のまとめがガイダンスと対応しているので学びが深まりやすい。</li> <li>・ 巻末資料にリンクをさせることで、写真等を活用して確認しやすい。</li> <li>・ 地下(根菜類)と地上(葉物)の野菜の育つ場所による違いがやや分かりにくい。</li> </ul>
---	---

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		開隆堂出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	<p>(1) 内容の範囲及び程度</p> <p>(2) 内容に関する配慮事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持続可能な社会、SDGsの視点が巻頭に明示され、関連ページを示しているので分かりやすい。</li> <li>・ 目次が見開きになっているので分かりやすい。</li> <li>・ ソーイングの課題を最初のページに載せているのでよい。</li> <li>・ 整理・整とんと掃除が別の題材になっているため、より詳しく丁寧になっている。</li> <li>・ 整理・整とんの学習で、重いものは下に置くなど、より生活に即した防災の視点が明示してあり、学びが深まりやすい。</li> <li>・ SDGs17の目標が適宜題材に割り振られているが、指定されたページを開いた時に、目標が表示されておらず、意識を継続しにくい。</li> <li>・ 巻末の「安全と衛生に気を付けて実習しよう」は巻頭、または題材初めに挿入していると、指導で押しえやすい。</li> <li>・ 全体的に内容・補足が多く、45分間での授業が難しい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の進め方では、主体的・自発的な学び方を大切に提示の仕方をしており、児童が自ら課題発見をしたり学びを深めたりする仕組みになっているため、問題解決的な学習につながりやすい。</li> <li>・ 材料の量感を捉えやすい。</li> <li>・ じゃがいもの取り扱いについて「日光が苦手であること」「保存方法の留意点」を写真付きで明記しており、安全・衛生面での配慮がある。</li> <li>・ 上糸を青、下糸を赤にするなど、ミシンの仕組みが視覚的に捉えやすく、一貫性をもってユニバーサルデザインを意識している。</li> <li>・ 「旬」や「色どり」などの説明が、ステップ3(生かす・深める)に出ている。</li> <li>・ 今後の実生活で起こりうる諸問題について提示し、児童がより自分事として捉え、問題解決できるように配慮されている。</li> <li>・ 作品例が実寸大の写真で分かりやすく、児童がイメージをもちやすく作りたくなるような工夫や配慮がされている。</li> <li>・ 裁縫の糸を引っ張るときの手と針の向きの写真は示されているが、安全への配慮が不足しているため明確に伝わりにくい。</li> <li>・ (市民)P6、7 家庭科室のイラストは窓を開けるなどの換気したイラストでない。最近実習での換気の事件があったので親として心配。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1ページあたりに記載する事項が多く、資料集のように分量が多い。</li> <li>・ 題材途中から次の課題として「考えよう」が出ていて内容がやや多すぎる。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 包丁の渡し方など題材に必要な技能や、安全面に対する配慮事項が、そのページに示されているため、指導に生かしやすい。</li> <li>・ 児童が考えて書き込みができる枠があり、指導しやすい。</li> <li>・ 発展的な項目について、「発展マーク」で児童が一律に学習するものではないと明示しているので、指導者が混乱しない配慮がされている。</li> <li>・ デジタルコンテンツが多い。触って動かす動作コンテンツが、学習活動の各要所に細かくあり、ダイレクトに確認しやすい。</li> <li>・ 全ページに「豆知識」が掲載されており、「なぜ実というのか」「なぜ、米を研ぐのか」「ほつれるとは」など、児童の興味関心が広がしやすい。</li> <li>・ 題材の数の多さを感じさせない紙面上の見やすさ、題材で使用する色の一貫性・構成の丁寧さがある。</li> <li>・ 巻末にある「用語」と「資料」の索引が便利である。</li> </ul>

	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レイアウトや配色が見やすいので、実習の流れが分かりやすい。</li> <li>・ 食品分類表が見やすく、製本の仕方の工夫がされている。</li> <li>・ ページによって人物のイラストのタッチが違い、統一感が感じられない。</li> <li>・ 再生紙なのか肌触りがザラザラしており、感覚過剰等の児童が集中できない可能性がある。</li> </ul>
2 教科 ご と の 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青菜のおひたしは根元を切りすぎないように写真と言葉で丁寧に説明しており、環境の視点に十分に留意している。</li> <li>・ 地下(根菜類)と地上(葉物)の野菜の育つ場所による違いが分かるようになっている。</li> <li>・ 玉結び・玉止めを用いた作品例が多いのがよい。</li> <li>・ 生活の課題と実践の具体例が多く、児童の実践意欲が高まりやすい。</li> <li>・ 生活の中のプログラミングの紹介がされている。</li> <li>・ 裏表紙に切り方と大きさの目安に物差しが目盛りがあるのはよい。</li> <li>・ 各題材の学習のめあてが具体的に3ステップ・4観点で示されている。</li> <li>・ 各ステップのアイコンがステップアップしたものになっていて自分がどの段階にいるのかがわかりやすい。</li> <li>・ (学校)「C 消費生活・環境」については、困ったときにどうすればよいか考えるページがあり、実生活とのつながりがとれているのがよい。</li> <li>・ (学校)実習の流れを確認しやすいつくりになっているが、衛生に関わる注意点が小さく掲載されていて見落としやすいと感じる。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		東京書籍
観点		
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の目標達成に結び付く内容であり、学習指導要領の内容を不足なく網羅している。</li> <li>理由や考えを記述する設問が多く、児童によっては負担が大きくなることが懸念される。</li> </ul>
	(2) 内容に関する 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題提示の前にステップ1「気づく・見つける」があるので、課題意識が高まる。</li> <li>学習の進め方が4段階のステップで示されており、系統的・発展的な指導ができるように配慮されている。</li> <li>「スキルマーク」により、日常生活へのつながりが意識されている。</li> <li>SDGsとの関連性を明記しており、児童の興味・関心を生かしやすい。</li> <li>記入スペースが多く、教科書のみで学習を進めることができる。</li> <li>他教科、他学年の関連性が記載されている。</li> <li>グラフや表の掲載が、やや少ない。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>ページ数は適切である。(5・6年生:77ページ、3・4年生:45ページ)</li> <li>全体の分量は適切であり、内容に偏りなく調和がとれている。</li> <li>書き込み式が多く、一単位時間の中で書く活動が多いため、児童の負担が大きいと思われる。</li> <li>一単位時間に取り扱うページ数が多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>章のはじめに学習の進め方が明記されているとともに、他教科との関連が示されている。</li> <li>多様性のあるキャラクターを使用しており、ユニバーサルデザインや配色などにも配慮されている。</li> <li>資料が多く掲載されており、発展的な学習へと活用しやすくなっている。</li> <li>文節改行で文章が読み取りやすくなるよう配慮されている。</li> <li>各学年の学習したことのまとめとなるページがない。</li> <li>(学校)・紙質がつつつるして、児童によっては書き込みづらさを感じる事が予想される。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>大切な言葉・用語が太字で強調されている。</li> <li>印刷が鮮明であり、イラストの色も工夫されていて適切である。</li> <li>二次元コードがページの境目に配置されており、読み取りづらさを感じる児童もいると思われる。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステップ3「深める・伝える」によって意図的に主体的・対話的で深い学びを促すようになっている</li> <li>身近な生活の例が多く取り上げられており、自身の健康・安全について考え行動する資質や能力を育成することに適している教材である。</li> <li>5年「不安やなやみへの対処」の軽い運動の解消例が一人で行う運動のみで、複数で対話しながらできる体ほぐしの例など、仲間と豊かに関わり合うというねらいに資する運動の例示が見られない。</li> <li>5年「けがの防止」、6年「生活習慣病の予防」では、1単位時間完結型ではなく2単位時間扱いなので、使いづらさを感じる。</li> <li>(学校)単元内に必ず深める伝える活動があるため、自身の考えを整理したり、話し合い活動を行ったりするなどの言語活動を行うことができるようになっている。</li> </ul>	

※「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		大 日 本 図 書
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容であり、程度は児童の発達段階に適している。</li> <li>・学習指導要領に示す内容及び内容の取扱いに関する事項が、適切に配置されている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsとの関連性を明記しており、児童の興味・関心を生かしやすい。</li> <li>・「つかもう」が児童の問いを引き出すような内容となっており、自主的・自発的な学習が促されるように配慮されている。</li> <li>・单元ごとに振り返りのページがあり、学習のまとめができる。</li> <li>・他教科、他学年の関連性が記載されている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ページ数は適切である。(5・6年生:69ページ、3・4年生:45ページ)</li> <li>・1時間の学習の流れが見開きで構成されており、見通しをもって学習しやすい。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関する課題を見付けて、解決する構成になっており、主体的な学びが深まるように工夫されている。</li> <li>・学習の構成が「つかもう」「話し合おう」「活かそう」などの流れではっきり示されていており、学習を深めやすい。</li> <li>・折り込みカードは、扱いづらさを感じる事が予想される。</li> <li>・(学校)各单元末には発展的な資料が掲載されており、発展的な学習内容であることが明記されている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字が大きくて見やすい。</li> <li>・一つ一つのイラストが小さい。</li> <li>・大切な言葉・用語が下線、ゴシック等で強調されていない。</li> <li>・1ページあたりの紙が厚く、使用上扱いづらさを感じる事が予想される。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年「不安やなやみへの対処」では、解消法として軽い運動を集団で行う例示があり、対話しながら活動できる点はよい。</li> <li>・視覚的に学習させたい内容が、「ウェブ」として一つの二次元コードでまとめられており、活用しやすい。</li> <li>・「課題をつかむ」、「話し合う」、「活かす」などの流れが見開きで構成されており、1時間の見通しをもって学習しやすい。</li> <li>・児童がつまづきそうな単語に対して、丁寧な解説、説明がある点がよい。</li> <li>・5年「心の健康」「けがの防止」・6年「病気の予防」での「活かそう」の場面ではイラストがなく、書くことの難しさを感じる児童がいることが予想される。</li> <li>・(学校)学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動が行われるように配慮されている。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

<別紙様式2> 保 健[その3]

No.39

発行者名		大 修 館 書 店
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容構成で、授業時数に対して適切である。</li> <li>・学年児童の発達の段階に適応した指導展開になっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性・個性が尊重されるようなイラストが使用されている。</li> <li>・单元ごとに振り返りのページがあり、学習のまとめができる。</li> <li>・「課題をつかもう」では、身近な生活体験を例に、健康・安全について考えることから始まっており問題解決的な学習を促しやすい。</li> <li>・他教科、他学年との関連性が記載され、系統性や発展性がわかりやすい。</li> <li>・記入スペースが少なく、自分の考えを書いたりまとめたりする手立ての工夫が必要である。</li> <li>・(学校)内容がシンプルにまとめられており、見やすい。</li> <li>・(市民)下関出身の道下選手があり子供に身近で良い。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ページ数は適切である。(5・6年生:73ページ、3・4年生:49ページ)</li> <li>・図の挿入が多く、文章の量がやや少ない。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフや表(数)がわかりやすく表記されていて、データの比較がしやすい。</li> <li>・単元の最終ページに二次元コードでのまとめクイズが知識・技能の定着を図りやすい。</li> <li>・発展的な内容について取り扱っているページが多い。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大切な言葉が太字などで強調されている。</li> <li>・写真が大きく豊富で、見やすい。</li> <li>・目次が大きく、学習の見通しがもちやすい。</li> <li>・フォント(字体・大きさ)が混同していて、読みづらさを感じる児童がいることが予想される。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容は身近な生活における健康・安全について考えることから始まっており、自己の課題を見つけ、その解決に向けて思考し、判断する力を養う内容となっている教材である。</li> <li>・5年「不安やなやみへの対処」では、まず対処法を実習することで、その方法や効果を実感し、自己の課題解決に生かすことができるようになっている。</li> <li>・6年「禁煙の害」肺の資料だけでなく、歯や血液量の変化の写真もあり、分かりやすい。</li> <li>・6年「病気の予防」新型コロナウイルス感染症についての資料では、コロナウイルスの情報だけでなく、感染症に関する差別をなくすという視点も明記されている。</li> <li>・5年「不安やなやみへの対処」では、対処方法については、一人で行う運動のみが提示されており、複数人で対話しながらできる体ほぐしの例など、仲間と豊かに関わり合う運動が見られない。</li> <li>・(学校)実物大の赤ちゃんの手の写真があるなど自分の成長が実感できるようにつくりられている。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		文 教 社
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容であり、学習指導要領の内容を網羅している。</li> <li>・(学校)見方・考え方を働かせ、その解決に向けた学習過程を通して、資質・能力を育成するための内容になっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験・活動・実習の方法や注意点などが、図や写真などで分かりやすく示されている。</li> <li>・単元ごとに「わたしの〇〇宣言」のページがあり、学習のまとめと自分の取り組みの設定ができるようになっている。</li> <li>・発展的な内容に関する記述が少ない。また、デジタルコンテンツが少ない。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5・6年生のページ数が多い。(5・6年生:83ページ、3・4年生:37ページ)</li> <li>・資料の分量が一単位時間分にしては多い。</li> <li>・(学校)学習指導要領の内容及び内容の取扱いに関する事項が、授業時数に照らして適切に配分されている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「mission」「stage」「episode」「もっと考えよう課」等の語句は、児童によっては難しさを感じる事が想定される。</li> <li>・教科書の使い方がはっきり示されていない。</li> <li>・書き込み欄が少なく、資料のみのページもあることから、主体的に課題に取り組みにくい面がある。</li> <li>・(学校)イラストや写真が多く、内容を理解しやすい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色合いは、鮮やかである。</li> <li>・文字が大きく、太字で要点が示されている点が良い。</li> <li>・写真(特に大きなサイズ)は、鮮明さに欠ける。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年「体の発育・発達」においては、エクセルを用いて個々の身長伸びを計算できるようになっている。</li> <li>・5年「不安やなやみへの対処」の軽い運動での解消例が集団で行うものが掲載されており、対話しながら活動できる例示が良い。</li> <li>・学習指導要領と異なった表記の箇所がある(学習指導要領→けがの手当、教科書→けがの手当て)。</li> <li>・課題設定の場面では、自分の身近な生活から考えさせる展開ではないため、使いづらい面がある。</li> <li>・3年「けんこうによい生活かんきょう」で新型コロナウイルスの対策についての記載があるが、内容が現状に則していない。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		光 文 書 院
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容構成で、授業時数に対して適切である。</li> <li>・学習指導要領に示す内容及び内容の取扱いに関する事項が、適切に配置されている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsについて学びを深める資料が掲載している。</li> <li>・グラフや表の数が、豊富である。</li> <li>・他教科・他学年との関連を分かりやすく示しており、系統的・発展的な指導ができるよう配慮されている。</li> <li>・単元ごとに振り返りのページがあり、学習のまとめができる。</li> <li>・書き込み欄が豊富にあり、言語活動の充実について配慮されている。</li> <li>・5つのステップで自主的・自発的な学習を促す構成となっている。</li> <li>・(市民)SDGsのことがのっていて、いいと思いました。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少ないページ数で、内容がまとめられている。(5・6年生:65ページ、3・4年生:41ページ)</li> <li>・見開きで内容が完結するので、学習の流れがとらえやすい。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラスト等がふんだんに使われており、親しみやすい。</li> <li>・章ごとに4コマ漫画が掲載されており、ねらいをつかませやすくなっている。</li> <li>・見開きで1時間の学習内容がまとめられており、学習の流れがとらえやすくなっている。</li> <li>・デジタルコンテンツの二次元コードにアクセス先の情報が明記されていない。</li> <li>・(学校)大切なところが太字でまとめられている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字や挿絵が鮮明で見やすい。</li> <li>・文章や写真等の資料の配置も適切で見やすい。</li> <li>・文字や写真のサイズが小さい部分がある。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が健康について振り返り、課題を見つけて、その解決に向けて思考できるように構成されている。また、「広げよう、深めよう」では、発展的な内容についても、学習内容と関連して活用できるように配慮されている。</li> <li>・3年「けんこうな1日の生活」のイラストなどで、ジェンダーバイアスに配慮がみられる。</li> <li>・4年「体の発育と健康」では、「性についての悩み」に相談窓口への二次元コードが具体的に記載されている。また、二次元コードで、補足資料として、性について正しく理解して適切な行動がとれるように、「生命の安全教育」についても記載している。</li> <li>・5年「心の健康」において、「自分と人との距離感」についても記載があるなど、より身近な生活に生かせる内容となっている。</li> <li>・6年「病気の予防」の新型コロナウイルス感染症についての資料では、感染症に関する差別をなくすという視点も明記されている。</li> <li>5年「不安やなやみへの対処」では、一人で行う運動の解消例のみで、仲間と豊かに関わり合う「体ほぐし」の運動の例示が教科書には示されていない。二次元コードでの紹介となっている。</li> <li>・5年「交通事故の防止」危険な状況を探す挿絵がもう少し大きいとさらに、課題意識をもたせることにつながる。</li> <li>・(学校)児童が自分ごととして捉えて学習に参加できるようになっている。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		G a k k e n
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容構成で、授業時数に対して適切である。</li> <li>・学年児童の発達の段階に適応した指導展開になっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の進め方が3段階のステップでまとめられており、系統的・発展的な指導が充実できるように配慮されている。</li> <li>・単元ごとに振り返りのページがあり、学習のまとめができる。</li> <li>・記入スペースが適切に配置されているので、考えの変容や学びの成果を自覚することができる。</li> <li>・学習の流れが図示されており、学習の流れが分かりやすい。</li> <li>・思考の過程が残る記入スペースがあるので学習の足跡が残り、考えの変容や学びの成果を自覚することができる。</li> <li>・他教科との発展が、章の扉部分にしか記載がない。</li> <li>・グラフや表の数がもう少しあればよい。</li> <li>・(市民)心肺蘇生や AED、ネットトラブルが載っているのよい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記入スペースが豊富である。</li> <li>・ページ数は若干多い。(5・6年:89ページ、3・4年:49ページ)</li> <li>・(学校)書き込みの分量が多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や図のサイズが大きく見やすい。</li> <li>・3・4年の巻末にある安全な生活の仕方についてSNSの正しい使い方について詳しく触れており、実態に応じて活用しやすい</li> <li>・適宜、具体例や資料が掲載されていて、それらを活用しながら学びを深めることができる。</li> <li>・イラストや写真等の資料が少なく、詳細が記載されていないため、教師側からの情報提供が必要な箇所がある。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォントが統一されており、見やすい。</li> <li>・ユニバーサルデザインの配色について、より意識されている。</li> <li>・大切な語句を強調している部分が少ないため、用語の理解や定着に向けての配慮が必要である。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「予想しよう」や「チェックしよう」で子どもの興味・関心を高め、学習を深めていくための配慮が行き届いている。</li> <li>・3年「1日の生活のしかた」運動、休養、睡眠の内容が充実しており、心身の健康の保持増進につながる。</li> <li>・4年「大人に近づく体」で発育の男女差について、イラストで表現しており配慮されている。</li> <li>・5年「不安やなやみへの対処」では、自分の不安や悩みを記入する欄に「人に見せる必要はない」など、プライバシーに配慮した記述がある。</li> <li>・5年「不安やなやみへの対処」の軽い運動の解消例がペアで行うものがあり、対話しながら活動できる例示がよい。</li> <li>・5年「心と体のつながり」「不安や悩みへの対処」の導入の写真や問いかけは、自分事として課題意識をもつことができるように工夫されている。</li> <li>・写真がコロナ対応のマスク姿のものが多く取り入れられている。</li> <li>・4年「変化してきたわたしの体」で両親がそろった絵を使用している。家族の形も多様化している中で、配慮が少し必要だと感じる。</li> <li>・(学校)健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて志向し判断するとともに、他者に伝える力を養う内容となっている。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名 東京書籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示された内容項目について全て取り上げている。</li> <li>・(学校) 内容が多く、やや難しく感じる。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元名の後に「Our Goal」が設定されている等、言語活動の充実について配慮されている。</li> <li>・系統的な指導ができる。</li> <li>・「書くこと」の領域に重きが置かれている。</li> <li>・(学校) 「フカボリ」で外国と、日本の文化の違いについて考えさせようとしている。</li> <li>・(学校) 内容がやや中学生向きである。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書く活動では、「書き込み」がやや多い。</li> <li>・(学校) 記述する分量が多く、情報が多いため、支援を要する児童や苦手意識のある子どもたちには難しい面がある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Picture Dictionaryが別冊で、5・6年1冊になっているため、既習事項を振り返りながら学習することができる。</li> <li>・Picture Dictionaryは2年間で1冊であるため、紛失する可能性がある。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書サイズ(A4)が大きく、やや持ち運びにくい。</li> <li>・ワークシートを兼ねた教科書編成になっているので便利だが、やや書かせるのに時間がかかると思われる。</li> <li>・95ページ程度で薄いので、かさばらない。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<p>「話すこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数単元ごとに設定されている Check your Steps で、それまでに学んだことを生かした発表の活動が位置付けられている。配当が2時間となっていて、その時間で実施するのはやや難しい。</li> </ul> <p>「聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取りのポイントが多く、児童の負担がやや懸念される。</li> </ul> <p>「読むこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読む活動が単元の最後に位置付けられているため、児童の言語習得の順序に沿いにくい面がある。</li> <li>・5年生の「読む」活動がやや少ない。</li> </ul> <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書くこと自体が目的になる可能性があり、ややこなすだけの授業になりそうな印象がある。</li> <li>・(学校) 基礎的スキルを身に付けさせる前に教科書に書き込ませるだけでやや時間がかかる。</li> </ul> <p>※ デジタル教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンツ、音付きディクショナリーで楽しく学ぶことができる。</li> <li>・日本と世界のデジタルマップが用意されており、行きたい場所や紹介したいものを調べることを通して、国際理解を深めることができる。</li> </ul> <p>「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎単元の終わりの「世界探検」で、外国人のインタビューを聞く活動があり、国際化や多様性についても併せて学ぶことができる。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点 / 発行者名	開 隆 堂 出 版
1 各教科共通の選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示された内容を網羅している。</li> <li>・ほぼ全ての学習活動において、目的が示されている。</li> <li>・(学校) 問題のページが多く、発達の段階によっては難しい児童がいる可能性がある。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のゴールや単元の進め方についてステップごとに細かく目標が設定されているため、児童にとって分かりやすい。</li> <li>・単元を通じて言語活動を行っている。</li> <li>・各単元に、指導上の観点や他教科等との関連が記載されている。</li> <li>・(学校) 一年間で何ができるようになるかが表になっており、わかりやすい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適当である。</li> <li>・(学校) 他社と比べると、128ページと一番分量が多い。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての活動について、領域と評価の観点が記されている。</li> <li>・スモールトークの進め方例が毎時間あるため、参考にしやすい。</li> <li>・単元で使用する言語材料が別冊 Word Book の何ページに掲載されているのか示されていて、参照しやすい。</li> <li>・Word Book が、学年ごとに分かれているので、児童にとって管理がしやすい。</li> <li>・単元末に Let' s Check という項目があり、聞くこと・読むこと・書くことの評価につなげられる部分があるが、言語活動と異なるため、ややテスト的なイメージとなっている。</li> <li>・(学校) 1 ページに内容が詰まっているので、見づらい面がある。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙質は、文字が書き込みやすいものとなっている。</li> <li>・Word Book に日本語索引がついており、和英辞典として使用できる。児童の個別最適な学習にも適している。</li> <li>・A4サイズでやや大きく、1 ページの情報量がやや多い。</li> <li>・余白が少なく、どの情報に着目すればよいか分かりにくい面がある。</li> <li>・字は大きめだが、行間がつまっている感じがあるため、字がやや読みづらい。</li> <li>・(学校) どのページも全体的に文字数が多いように感じる。</li> </ul>
2 教科ごとの選定の観点	<p>「話すこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力、判断力、表現力等の育成につながる目的・場面・状況の設定が常に意識できるような、活動提示文になっている。</li> </ul> <p>「聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Let' s Listen の英語の量が適切であり、話す活動につながるものとなっている。</li> <li>・学習者がどのような目的で聞くのかが明確に示されている。</li> </ul> <p>「読むこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の最後に Story Time がある。単元で学習した単語が使用されており、外国語科の学習経験と合わせて少しずつ読む量が増え、適切である。一方で物語のような読み物は掲載されていない。</li> </ul> <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の進行に合わせてスモールステップで少しずつ書く活動が取り入れられている。</li> <li>・毎時間「聞く」「話す」活動を十分に行った後、最後に「書く」活動が設けられており、教科書に書き込めるようになっているので、授業形式についてよい意味でのパターン化が図られる。</li> </ul> <p>※デジタル教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワードブックのデジタル版は一貫性があり、タッチした単語の発音やスペルの確認をすることができるため、児童が言いたいことを表現しやすい。</li> </ul>

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・(学校) 二次元コードは、GIGA 端末でも使えるのでよい<br/>「その他」</li><li>・2～3 单元ごとに「先生と話をしよう」というコンテンツが設けられており、パフォーマンステストの計画が立てやすい。</li></ul> |
|--|

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		三省堂
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元によって学ぶ言語活動の偏りが感じられ、学習指導要領に示す事項を学ぶための効率化が図りにくい面がある。</li> <li>・(学校) 系統性があり、Let' s Try からの移行はスムーズにいく工夫がある。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の言語活動例が児童に身近なものである。</li> <li>・巻末にプログラミング教育と関連付けたページがある。</li> <li>・単元のゴールが児童の意欲をやや引き付けにくいものがある。</li> <li>・(学校) やや五領域のバランスが悪い。</li> <li>・(学校) 一問一答で単純作業が多いため、深まりが薄くなる可能性がある。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切である。</li> <li>・(学校) 自分や友達の考えなど、直接書き込めるスペースがやや少ない。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・picture dictionary が別冊なのがよい。</li> <li>・掲載量が多いが、文字はやや小さい。</li> <li>・picture dictionary は、1冊なので既習事項を振り返ることができ、2年間使用できるが、紛失する可能性がある。</li> <li>・「書く」活動のワークシートがやや少ない。</li> <li>・(学校) イラストが、小さい割に空白が多く、やや見にくい。</li> <li>・(学校) Unit と Lesson があり、構造がやや分かりづらい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A4サイズでやや大きく、1ページの情報量が多い。</li> <li>・全体的に文字が小さく、字体がUDフォントでないため、やや読みにくい。</li> <li>・(学校) 文字が少し小さい。</li> </ul>
2 教科ごとの選定の観点	<p>「話すこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の活動では、児童にそのまま配付できそうなループリック表が用意されている。</li> <li>・(学校) コミュニケーションを取り入れている内容がやや少ない。</li> </ul> <p>「聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界のお話」で、世界の童話が取り上げられている(名著、国語の教科書に載っているもの等)。</li> <li>・Lessonのはじめの「聞く」活動がやや長い。</li> </ul> <p>「読む活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・story time「ケンの冒険」が年3回あり、「聞く活動」と「読む活動」がつながっている。</li> </ul> <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末の付録カードを入れ替えて書く練習ができるため、語順や文構造の気付きにつながりやすい。</li> <li>・各ページ下部に「書くこと」に関するきまりやアドバイスが掲載されており、児童にとって「書くこと」の学習がしやすいよう配慮されている。</li> </ul> <p>※ デジタル教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツとして、各単元のロードマップが用意されている。</li> </ul> <p>「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成について、「HOP STEP JUMP」「Lesson」「unit」等、やや複雑なため、児童が理解しにくい。</li> <li>・(学校) 他社と比べて単元設定が複雑であるため、指導することがやや難しいと感じた。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的易しい語彙が使われている。</li> <li>・全体的に言語材料が少なく、やや活動が固定的になっている。</li> <li>・(学校) 段階的に書く活動が増えており、外国語活動から外国語科へのスムーズな移行が可能だと感じる。</li> <li>・(市民) 5・6年の導入部の構成に無理がなく、児童にとって、なじみやすいと考えられる。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統的な指導ができています。</li> <li>・指導の順序が「聞く→話す→読む・書く」にやや固定化されている。</li> <li>・(学校) 子どもが好きな「鬼滅の刃」や「すみっこぐらし」などのイラストを使用していて、興味をひきつけるような内容になっている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適当である。</li> <li>・全体的に「聞くこと」の活動が多いように感じる。</li> <li>・(学校) 話す活動が、やや単元の後半に偏っている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のゴールは示されている。</li> <li>・巻末のカードが品詞によって色分けされているため、語順を意識しやすい。</li> <li>・単元名が英語表記のみになっているため、児童にとってやや内容がつかみづらいことがある。</li> <li>・(学校) ワークシートが単元ごとにあり、評価しやすい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストと文字の比率が適当で見やすい。</li> <li>・文字がやや小さくなっている。</li> <li>・(市民) アルファベットや文章の活字が比較的大きめで見やすい。</li> </ul>
2 教科ごとの選定の観点	<p>「話すこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やり取り・発表の会話例に番号がついており、台詞を覚える必要性を感じるため、やや話すことの工夫がしにくい。</li> </ul> <p>「聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生「Let's be friends.」の導入で聞くことの分量が増えているためやや児童の負担になる。</li> </ul> <p>「読むこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読むについては、「書くこと」と「読むこと」でセットになっており指導しやすい。</li> </ul> <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファベットを学習する順序が直線→カーブ等簡単なものになっていてつかいやすい。</li> <li>・5年生は途中から「書くこと」が出てくるため、やや分量が少ない。</li> <li>・4線の幅が、等間隔に近くなり、中学校での書く活動につなげやすい。</li> </ul> <p>※ デジタル教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Let's actionの動画例は目的・場面・状況に応じた内容としてややとらえにくい。</li> <li>・Let's say it togetherのリズムが難しく、繰り返しの練習がややしづらい。</li> </ul> <p>「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの視点を意識したページがある。</li> <li>・(学校) 基礎的な技能を身に付けることができる内容となっている。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		光 村 図 書 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示す内容について、過不足なく取り上げている。</li> <li>・(学校) 単元目標が明確に記載されており、分かりやすい。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物が児童の身近な生活に即した例を示しているため、児童が自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を行うことができる。</li> <li>・(学校) STEP1、STEP2、JUMP とページの上方にあるので、少しずつレベルアップしているのが、視覚的に分かりやすい。</li> <li>・(学校) 対話場面で、より深い質問ができる構成になっている。</li> <li>・(学校) 教科書の最初のページに「5・6年生でできるようになること」のページがあり、子どもに分かりやすく到達目標が示されているので、適宜自分で振り返って学習することができる。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切である。</li> <li>・(学校) ワークシートがついておらず、書き込むところが多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭にCAN-DOリストがあり、自己評価も書き込めるようになっている。</li> <li>・単元目標に「目的・場面・状況」が示されており、具体的で分かりやすい。</li> <li>・絵辞書が別冊になっていて、使いやすい。</li> <li>・「Response」が付録されており、児童が会話を続けるための英語に、慣れ親しむことができる。</li> <li>・帯活動である、Small Talk のトピックが、教科書に示されている。</li> <li>・(学校) 発表用のワークシートがあるとよい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、フォントが見やすく、文字の大きさも適切である。</li> <li>・紙が薄く、やや丈夫でない感じがする。</li> <li>・(学校) 視覚的には見やすい教科書となっているため、児童が体験的に学習することができると思われる。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<p>「話すこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動ごとに、話すときのポイントが示されている。</li> <li>・発表の単元において、伝える順序を入れ替える等、目的に応じて思考・判断することができる。</li> <li>・発表場面では、書いた原稿を読んでいる姿が記されており、やや適切でない。</li> <li>・(学校) コミュニケーションを中心にレッスンが進んでいる。</li> </ul> <p>「聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Let's Watch 等の活動は、イラストではなく、実在の人物のスピーチとなっており、場面や状況を推測しながら聞くことができる内容となっている。</li> </ul> <p>「読むこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読むについては、「書くこと」と「読むこと」でセットになっており指導しやすい。</li> <li>・短めの物語教材が学年に一つずつしかなくやや少ない。</li> </ul> <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピリオドや文字の間隔、4線に着色されている等書くときの説明や色分け等の配慮がある。</li> <li>・日本語や英語、中国語等、さまざまな言語の語順の違いに気付くことができる。</li> </ul> <p>※ デジタル教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる単元で、ICT端末を活用したコミュニケーションについて紹介している。</li> <li>・全ページに二次元コードが掲載されていて、関連するデジタルコンテンツに素早くアクセスできる。</li> <li>・学習者が、音声のスピード(8段階)、文字の大きさやルビ、色等を変更することができる。</li> <li>・児童が自分でフラッシュカードを作成する機能等があり、自ら考え、学ぶことができる。</li> </ul>	

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・チャンツの動画では、歌詞の文字が大きく表示され、歌っている部分がハイライトで示されるので「読むこと」につなげることができる。</li><li>・デジタル教材が充実している分、「話す」活動が「聞く」活動に置き換えられてしまう可能性がある。</li><li>・(学校)・二次元コードから活動のモデルが視聴できるため、児童が見通しを持ちやすい。</li></ul> <p>「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「言葉について考えよう」のコラムで、日本語と英語の共通点・相違点を取り上げることで、言語に対する興味・関心を高めたり、英語を学ぶ意義を考えたりすることができる。</li><li>・(学校) 書く部分が精選され、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりする時間や音声で十分に慣れ親しむ時間を確保した後に自分の考えを書く活動が提示されており、児童にとって、聞いたり話したりを重視しながら取り組むことができる内容になっている。</li></ul> |
|--|

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		啓林館
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的易しい表現や言語材料が使われている。</li> <li>・(学校) 文字を書かせる箇所が多く、やや時間がかかる。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他国の文化やSDGsに関する写真や資料が豊富であり、自国の文化と比べ、外国語科の見方・考え方を働かせることができる内容である。</li> <li>・(学校) 「Do you know?」の内容が面白い。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動の掲載がやや少ない。</li> <li>・(学校) 発表シートの書き込む分量がやや多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末に、Unit ごとのCAN-DOリストがあり、児童が自分の学習を自分でふり返り、調整することができる。</li> <li>・Word listの単語が豊富である。</li> <li>・巻末に「会話を楽しむフレーズ集」が付録されており、児童が会話を続けるための英語に、慣れ親しむことができる。</li> <li>・絵カードが小さく、数も多いため、管理がやや煩雑である。</li> <li>・(学校) 教科書に出てくる国を一ページ目に世界地図で表しているのよい。</li> <li>・(学校) 場面ごとにユニット全体のめあてが確認できるようになっている。さらにステップごとのめあてもあり、目標意識を持ちながら取り組むことができるようになっている。</li> <li>・(学校) ルックバックの所で振り返りをする事が出来る。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストは多いが、日本語、英語共に、全体的に文字がやや小さい。</li> <li>・ページの大きさに対して文字がやや小さく感じる。</li> <li>・カードを貼るActivityのページが少ない。</li> <li>・(学校) 文字が、やや小さく見にくい。</li> </ul>
2 教科ごとの選定の観点	<p>「話すこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Activityの量がやや少ない。</li> </ul> <p>「聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く活動がやや多い。</li> <li>・単元の最初から聞かせる量がやや多い。</li> </ul> <p>「読むこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生では、アルファベットを読むことと書くことがセットになっている。6年では、Let's readとして、音声をまねて読んだり、予想して読んだりするページがあり、学年の発達の段階に合う。</li> </ul> <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5学年では、書き写しの量がやや少ない。一方で第6学年では単元の終末に、一度に書かせる活動の設定になっており、書く分量がやや多い。</li> <li>・(学校) 書く活動については、量が多い印象をうけた。</li> <li>・(学校) 単元の言語活動に関連した書く活動はやや少ない。</li> </ul> <p>※ デジタル教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Watch the Sceneの動画がやや長い。</li> </ul> <p>「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(学校) 6年生の内容は、中学英語を意識した教科書となっているため、少し難しくなっている。</li> <li>・(学校) 6年過去形の取り扱いが他に比べて多く、ややレベルが高い。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		東京書籍
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げられている。</li> <li>・ 学年の発達段階に適した内容になっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「つながる・広がる」のコラム(1学年10～12か所)が設けてあり、情報リテラシーやSDGsなど現代的な課題について取り上げていることで、発達段階に応じて自己の生き方について考えを深めることができるようになっている。</li> <li>・ 「問題を見つけて考えよう」や「演じて考えよう」があり、問題解決的な学習や体験的な学習ができるようになっている。</li> <li>・ 教材の後ろにある「つながる・広がる」では、本の紹介がされているものもあり、家庭や地域で活用することが可能になっている。(各学年1～4教材程度)</li> <li>・ (学校)教材ごとに朗読やデジタルノートなどのコンテンツが用意されており、活用できる。</li> <li>・ (市民)福岡県北九州市にゆかりのある中村哲さんを扱っている作品は生き方を学ぶことで国際人さらにはSDGsへとつながると思う。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材数(35)。一教材の分量ともに適切である。</li> <li>・ 一教材が長いものが多いため、教材理解に時間がかかる。(高学年)</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての教材に二次元コードがあり、教材文の朗読や紙芝居、デジタルノートなどが充実しており、活用の幅が広がる。また、字幕があるので、視覚的にもわかりやすい。</li> <li>・ 心情円盤(4～6年)が付録でついているので、授業ですぐに活用できる。</li> <li>・ 表紙の短い言葉と表紙裏の詩が道徳開きのオリエンテーションに活用しやすくなっている。</li> <li>・ 目次で、SDGs やいじめ等に関する教材をやや探しにくい。</li> <li>・ (学校)小さい文字で埋め尽くされているので、読解力が足りない児童には、内容がややつかみにくいのではないか。</li> <li>・ 教材のはじめにリード文がないので、教材への興味・関心をややもたせにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印刷が鮮明であり、字体等が適切である。</li> <li>・ 奇数ページから始まっている教材があり、右側の教材文が目に入り、使いにくい。</li> <li>・ (学校)ユニバーサルデザイン等を意識しており、特別支援を要する児童に対応している。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡県出身「中村哲」さんを取り上げた教材がある。郷土の偉人を取り上げることでシビックプライドの醸成につなげることができる。</li> <li>・ 現代のさまざまな社会的課題を取り上げ、実生活の自己の生き方を考えることができる内容になっている。各教科等で行う道徳教育を補ったり深めたり、統合をしたりすることのできる内容になっている。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げられている。</li> <li>・ 学年の発達段階に適した内容になっている。</li> <li>・ 5年生の「B人との関わりに関すること」の教材がやや少ない。(5項目で6教材)</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻末の「資料」は、学年の発達段階に応じた内容になっており、教材からつないだり、他教科との関連を図ったりするなど、発展的な学習ができる。</li> <li>・ 「学習内容一覧」では、SDGsとの関連等が示されているので、SDGsを意識した指導ができる。</li> <li>・ 教材末には「問題を解決しよう」で問題解決的な学習の進め方が示されており、児童が自ら問題を見つけ、主体的に考えられるよう構成されている。</li> <li>・ 現代的課題となるジェンダーについての教材があることで、多様性について考えることができる。</li> <li>・ (市民)巻末の資料に「世界人権宣言」が載っているのはとてもいいことだと思う。</li> <li>・ (市民)福岡県北九州市にゆかりのある中村哲さんを扱っている作品は生き方を学ぶことで 国際人さらには SDGsへとつながると思う。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材数(35)。一教材の分量ともに適切である。</li> <li>・ (学校)1年生の文字、分量が多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材名の傍に主題名やリード文があるので、教材に興味・関心をもたせやすい。</li> <li>・ 体験的な活動(役割演技)や問題解決的な学習の学び方が各学年に入っているのが多様な学び方ができる。</li> <li>・ 「いじめ」「情報」「いのち」に関する教材が各学年に位置づけられ、色付けされ分かりやすくユニットが組まれている。</li> <li>・ 教材の始めにある二次元コードは、あらすじや補足説明が書かれてあるだけなので、やや活用しづらい。</li> <li>・ 自然愛護に関するページなどイラストが小さく、活用しづらいと思われるページがある。</li> <li>・ 目次の数字が小さく、教材名から離れているため若干わかりづらい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奇数ページから始まっている教材があり、右側の教材文が目に入り、やや使いにくい。</li> <li>・ 全ての教材名のフォントの形や色がバラバラなため、児童にとっては、4つの内容項目の視点の色と混乱してしまうことがやや懸念される。</li> <li>・ 教材ごとに文字の大きさが異なり、違和感があるものもある。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材毎に「学びチェック」があり、毎時間の道徳科の振り返りができる。一方、巻末の「学習を振り返ろう」のページでは、児童が記述式の振り返りを書く回数が少ないので、児童にとっては自己の成長を実感しづらいと思われる。</li> <li>・ (学校)世界人権宣言を資料として掲載していることは、身近に感じることができるため、有効である。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	光 村 図 書 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領に示されたすべての内容項目が取り上げられている。</li> <li>学年の発達段階に適した内容になっている。</li> <li>5年生では、「C主として集団や社会との関わりに関すること」の教材がやや少ない。(7項目で9教材)</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>学年最初の教材は、二次元コードで動画が閲覧でき、道徳で学ぶ内容項目について詳しく説明してある。学年に応じた紹介の仕方がしてある。</li> <li>3～6年生では、第二教材で「道徳の学び方」が示されており、このような「児童が考えを深めるための学び方」の具体は、児童にとっても若年教師にとっても分かりやすい。</li> <li>教材外の「考えるヒント」で多様な学び方を紹介しているが、内容が多いものもあり、若年教師にとっては、発問の多さが、柔軟性のある授業構成にはややつながりにくいと考えられる。活用しづらい。</li> <li>4年「生きているしるし」の教材では、両親が誕生を喜ぶ場面が描写されている。様々な家庭の事情をもつ児童への配慮が必要である。</li> <li>挿絵の中に、外国籍の児童も掲載がある。ダイバーシティの視点も取り入れられている。</li> <li>教材の後ろにある「つなげよう」では、本の紹介がされているものもあり、家庭や地域で活用することが可能になっている。(2年生以上で2～7教材程度)</li> <li>(学校)家庭の事情があるので、お母さんはお父さんは？という内容は配慮が必要である。</li> <li>(市民)「五十五年目の恩返し」杉原千畝の勇氣ある行動よりユダヤ人の感謝の気持ちを取り上げて考えるようになってきているのは良くないと思う。</li> <li>(市民)いろいろな面(自分について 相手とのかかわり 社会とのかかわり 命 自然との関わり) とバランスの取れた自己や他の事例、人物、物語が取り上げられいい印象を持った。</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>教材数(35)。一教材の分量ともに適切である。</li> <li>(学校)冊子が小さくやや見にくい。文章を読む際に、何ページもめくらないといけない。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>教材名の下にリード文があるので、教材に興味・関心をもたせやすい。</li> <li>どの教材も発問が4つ程度掲載されているため、若年の先生にとっては1単位時間の授業構成がしづらい。</li> <li>ページがうすいので、めくりにくく、前ページの挿絵や文字が透けて見えるので使いづらい。</li> <li>二次元コードで教材を音声で聞いたり、資料の補足説明が見られたりするが、全ての教材にあるわけではない。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>奇数ページから始まっている教材があり、右側の教材文が目に入り、使いにくい。</li> <li>写真等の資料が大きく、鮮明なので視覚的に配慮されている。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> <li>「学びの記録」があり、児童がシールや一言感想で学習を振り返ることができたり、教師が児童の成長の姿を評価できたりするが、振り返りを書く場所が小さくて活用しづらい。</li> <li>現在のさまざまな社会的課題を取り上げ、実生活の自己の生き方を考えることができる内容になっている。各教科等で行う道徳教育を補ったり、深めたり、統合したりすることのできる内容になっている。</li> <li>(学校)はじめの教材で「道徳の学び方」を知りながらできるところがよい。どんな場面で、どんなことを考えたらよいのか、話し合ったらよいのか自己を見つめるヒントとしても分かりやすい。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		日本文教出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領に示されたすべての内容項目が取り上げられている。</li> <li>・ 学年の発達段階に適した内容になっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ぐっと深める」で、役割演技などの体験的な学習を写真で紹介することで、経験年数を問わず問題解決的な学習や体験的な学習ができるようになっており、多様な学び方ができる。この「ぐっと深める」のページは、全学年5教材(1年生は6教材)で設定されており、発達段階に応じ、多様な学び方で自己の生き方について考えを深められるようになっている。</li> <li>・ (学校)6年生で、新型コロナウイルスの内容があるのがよい。今後も、コロナ差別など起こってはいけないし、コロナ差別により傷ついた人がいたこと、また命を顧みず、治療に当たった方がいたことは忘れないでいたいから。</li> <li>・ (市民)人権平和教材としては 3年「一番うれしいこと」4年「かわいそうなぞう」5年「母さんの歌」はとってもいいと思う。引き続き使用されることを望む。</li> <li>・ (市民)3年生では、やなせたかしさんのアンパンマンがご自身の戦争体験からだとなり、平和に対しての体験が語られているのはとても良いなど感じた。4年生の太平洋戦争中のぞうの話も、5年生の広島原爆のことも貴重な歴史の証言として子どもたちに語っていただきたいとの気持ちを持った。</li> <li>・ (市民)巻末の資料に「世界人権宣言」が載っているのはとてもいいことだと思う。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材数(38)。全体の分量が適切であり、付録教材が3つついており、児童の実態に応じて選択することが可能である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての教材に、登場人物の紹介やリード文が掲載されており、教材に興味・関心をもたせながら、教材理解が図りやすい。</li> <li>・ 道徳ノートがあることで、書く活動に取り組みせやすい。また、発問が記載されていないことで、多様な場面で活用しやすい。しかし、若年には、発問の記載があったほうが授業で活用しやすい。</li> <li>・ 1年生のノートは、マス目になっているが、字数が制限されるので、罫線の方が自由に思いを書くことができると思われる。</li> <li>・ 全ての教材に二次元コードの掲載がある。それを読み込むと朗読やワークシート、関連動画があり、デジタルコンテンツが充実している。</li> <li>・ (学校)現採択分はノートに書いている中心発問がずれていて、使いづらかったが、今回のものはノートに発問が書いておらず、自由に使える。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印刷や字体等は、適切であると考ええる。</li> <li>・ すべての教材が偶数ページから始まっており、使いやすい。</li> <li>・ 写真やイラストが大きく、教材理解をさらに高めることができる。</li> </ul>
2 教科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材末に「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」の掲載があることで自己を見つめ、自己の生き方について考えやすい発問を設定しているため、授業展開しやすい構成になっている。</li> <li>・ 北九州市出身「藤田哲也」さんを取り上げた教材がある。郷土の偉人を取り上げることでシビックプライドの醸成につなげることができる。(北九州道徳郷土資料掲載の作品が引用されている。)</li> <li>・ 悩みや葛藤、心の動きなどが見取りやすい題材選定であり、人間関係の理解などの課題解決に向けて深く考えることができる</li> <li>・ (学校)付属の道徳ノートの取り扱いには是非が分かれるが、これまでの実践で教材開発ができていたため、個人思考や議論へ至る展開、発問などを考えやすい。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		光文書院
観点		
各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領に示された内容項目をすべて取り上げている。</li> <li>・ 学年の発達段階に適した内容になっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「へこんでも立ち直る」のページでレジリエンスコラムを設け、児童自身が自分のへこんでも立ち直る「心の力」について考えられるように工夫されている。このレジリエンスコラムは、各学年で発達段階に応じて設定されている。</li> <li>・ 「みんなでつくる」のページでは、全学年で、SDGs を取り上げている。</li> <li>・ 体験的な学習ができるページが1教材あるが、問題解決的な学習のページがないため、多様な学習にやや取り組みづらい。</li> <li>・ いくつかの教材では、二次元コードからインタビュー動画や教材を補足する動画が閲覧でき、教材に興味・関心をもたせやすい。</li> <li>・ 3年「安藤百福」4年「バスの停留所」など漫画で構成しているので親しみやすい。しかし、範読しづらい面もある。</li> <li>・ (学校)LGBTや国籍の違う児童などに関連した内容が含まれており現代社会の問題へ配慮がされている。</li> <li>・ (市民)「6千人の命を救った決断」決まりを破ってまで何千人ものユダヤ人の命を救った。勇気と決断について記述してあり、良いと思う。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材数(40)。全体の分量が適切であり、付録教材が5つついており、児童の実態に応じて選択することが可能である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材名の横や下に主題名とリード文があるので、教材に興味・関心をもたせやすい。</li> <li>・ どの教材も発問が4つ程度掲載されているため、若年の先生にとっては柔軟な授業構成がしづらい。</li> <li>・ 全学年の巻頭では、フローチャートやウェビングなど絵や図を使って考える方法やノートの使い方を紹介しているので学習に活用しやすい。</li> <li>・ 目次が二段になっており、数字が重なって見づらい。</li> <li>・ 「内容項目教材一覧」の他教科との関連がやや少ない。</li> <li>・ (学校)学びの足跡カードが使いづらそうに思える。特に5、6年生の気持ちの矢印が、児童にはわかりにくいのではないかと思う。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての教材が偶数ページから始まっており、使いやすい。</li> </ul>
2教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北九州市にある教会での取組を取り上げた教材や福岡県出身の「中村哲」さんを取り上げた教材、「田中久重」さんを取り上げた教材を掲載しており、シビックプライドの醸成につなげることができる。</li> <li>・ 「学びのあしあと」は、児童の自己評価や教師が児童の成長の姿を評価することにも活用できる。</li> <li>・ (学校)「考えよう」「まとめよう」「広げよう」が各教材の最後に4つあり、1単位時間に全てするのはやや難しい。軽重、取捨選択が担任裁量になりそう。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		G a k k e n
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。</li> <li>・ 学年の発達段階に適した内容になっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「心のパスポート」や「深めよう」のページが設けてあり、体験的な学習や問題解決的な学習といった発展的な学習、他教科と関連した学習など様々な活用ができる。ジェンダーやマイノリティーなど、多様性を大切にするということについて、親しみやすい4コマ漫画で考えることができるようにしている。(5年生)</li> <li>・ 挿絵の中に、外国籍の児童や職業の性差の偏りが無いように配慮された教材もある。</li> <li>・ (市民)6年「マザー・テレサ」の紹介があった。マザー・テレサのされてきた仕事は、子どもたちに知ってもらいたいと思うので、とてもいいと思った。</li> <li>・ (市民)6年生の教科書は、達人の話ばかりで、子どもたちが追い込まれていくように思う。もっと自由に多様性が認められる学校にしていくために、教科書の内容を変えていってほしい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材数(35)。一教材の分量ともに適切である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材名の下に現代的課題を示すマークが示されており、身の回りの課題とつなげやすくなっている。</li> <li>・ 主題名が、各教材の始めに明記されておらず、リード文も掲載されていない。教材のカギとなる言葉を示した「キーフレーズ」がある教材も、その文の意味がやや分かりにくく、本市の児童にとって興味・関心につなぐことは若干難しいと思われる。</li> <li>・ 二次元コードのデジタルコンテンツがやや少ない。</li> <li>・ (学校)目次の文字が小さくてやや読みにくい。挿絵や写真だけでなく、動画と音も用意されていて、学習を深めることができるが、デジタルコンテンツが一部の教材にしかない。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印刷や字体等は、適切であると考えます。</li> <li>・ すべての教材が偶数ページから始まっており、使いやすい。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材末に「考えよう」の掲載があることで自己を見つめ、自己の生き方について考えやすい発問を設定しているので、授業展開しやすい構成になっている。</li> <li>・ テーマ別のマークが多すぎて分かりにくい。</li> <li>・ 巻末の「つなげよう広げよう」のページでは、記入欄が少ないため、児童の振り返りや教師の評価につなげにくい。</li> <li>・ (学校)低学年、中学年、高学年に応じて学習の仕方が示されており、教科書の最初のページにまとめられている。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

令和六年度度使用小学校教育用図書選定会議

専門調査研究部会

# 報 告 書



令和六年度使用小学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会(国語)

報告書

令和5年6月 2/ 日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目( 国語 )

部長 松申 保助 

令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について(報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長 小田口 順子 

副部長 麦田 真理 

委員 副島 康平 

委員 竹内 麻美 

委員 矢野 万理 

委員 和泉美佐子 

委員 小島 歩 

委員 山田 美希 

委員 池田 明代 

委員 新開 麻里 

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科の達成目標に結び付く内容になっている。</li> <li>・ 6年「どう立ち向かう？もしもの世界」では、多面的に検討するためにSNSの投稿を資料(世論)として取り入れているので、適切である。</li> <li>・ 全体的に難易度が高い。文章が長く、読むのに時間がかかる教材が多い。</li> <li>・ 1年導入時のひらがなに入る前に文が多い。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「デジタルノートの作り方」等、ICT を活用した学習に即した内容になっている。</li> <li>・ 読むことの大切なポイントが分かりやすく、1年生では「場面」、4年生では「山場」など、早い段階で学習用語を使用している。</li> <li>・ 「情報」で学んだことを活用して単元の学習を進めようとしている点はよい。</li> <li>・ 全体的に事例が身近ではないものが多く、発達段階にそぐわないものがある。(1年上「さとうとしお」、2年下「あなのやくわり」、3年上「日本十進分類法(NDC)」)</li> <li>・ 4年下「和と洋新聞を作ろう」は、書く内容が限定され、児童の関心意欲につながりにくい場合がある。</li> <li>・ 5年「わたしの文章見本帳」内容が難しく、4時間で見本帳を作るのは困難。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字が大きくて見やすいが、量が詰まって見える。</li> <li>・ 1年下の分量が多い。</li> <li>・ 情報量が多い。QRコードが多いが、なくてもよいものも見受けられる。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各単元の導入の扉が見開きになっている。挿絵が大きく児童の興味を高める。また、身に付けたい「ことばの力」が明示されており、ねらいをとらえやすい。「学習の流れ」も載っているので見通しをもって学習に臨むことができ、若年次教師等は使いやすい。</li> <li>・ 領域ごとの目次がなくて分かりづらい。</li> <li>・ 学習の流れが固定される懸念がある。(学習指導、ノート指導)。</li> <li>・ 読みの手順や内容が指定され児童の選択できるところが少ない。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体的に緑を基調とした落ち着いた色合いで、目に優しい。</li> <li>・ 会話文の際の色分けが分かりにくい。</li> <li>・ 「漢字を使おう」では、文字が小さく、イラストも印象に残りにくい、余白が多過ぎる。</li> </ul>

2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習過程が明確かつ統一されているのはよい(思い出そうー見通すー取り組むーふりかえるーいかそう)。</li> <li>・ 1年上「えにっきをかこう」ではモデル文がマス目と縦罫線があり分かりやすい。</li> <li>・ 1年下「一年かんのおもいでブック」では、相手意識をもたせている。相手によって書く内容が変化することがわかりやすい。</li> <li>・ 2年上「はたらく人に話を聞こう」では、日常生活から考えを深めていくことができる。</li> <li>・ 5年の説明的な文章では、インターネットやロボット等の題材が扱われており、現代の課題や児童の興味・関心に合っている。</li> <li>・ 6年「伝えよう、感謝の気持ち」「成長をふり返って未来へ進もう」は、卒業を前にした児童にとって、学習のまとめとして取り組みやすく、中学校に向けて気持ちを高められる流れになっている。</li> <li>・ 付箋の使い方が、横置き・横書きになっている。言語活動例でも横書きで書かせることが多い。</li> <li>・ 2年上「かんざつしたことを書こう」では、観察カードが横書きで、縦横が混在していて分かりにくい。</li> <li>・ 2年下「どうぶつカード」をつくろう」では、調べたことをわかりやすく書く学習だが、どうすれば「わかりやすく」なるのかが不明確で分かりにくい。</li> <li>・ 3年上「案内の手紙を書こう」は、あて名の書き方はQRコードのみになっている。紙面にあったほうがよい。</li> <li>・ 3年上「わたしの説明文を書こう」は、学級初めの児童の発達段階を考えると難しい。</li> <li>・ 5年「和の文化を受けつぐ」で、資料に写真が多く使われており偏りがある。また、職人の思いを載せた資料があるが、分量が多く情報を重ね合わせて読むことが難しい。</li> <li>・ 5年「世界でいちばんやかましい音」では、物語の山場を中心に扱っているが、登場人物の心情の変化や自分の気持ちや考えの変化については捉えにくい。</li> </ul>
-----------------	---

※ 「平成6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・ 5年「意見文を書こう」では資料1～7という様々な形態の資料が掲載されており、児童の興味に沿って、用いて書くことができる。</li> <li>・ 発達の段階に対して、全体的に難易度が高い。(1年下「スイミー」「お手紙」など)内容が難しいため、教科の達成目標に結び付けられるか疑問である。(全体的に難しい学年とそうでない学年と偏りがある。)</li> <li>・ 5年「俳句・短歌のリズムにのせて」で、俳句と短歌を両方一気に学習するのはそれぞれの魅力が理解しにくい。</li> </ul>
	(2) 内容に関する 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学期の説明文は2つの教材で構成され、一つ目が練習→二つ目がその力を生かして読むという流れになっている。</li> <li>・ 4年上「リーフレットでほうこく」は、例がごみしより工場になっており、社会科と関連させて学習に取り組めるものになっている。</li> <li>・ 情報が巻末の付録にまとめて掲載されており、学習に生かしづらい。</li> <li>・ 1年上「たのしかったことをかこう」にモデル文が載っているが、2学期初めの段階であれほどの文章を書くことは困難である。</li> <li>・ 5年「漢字の成り立ち」は、挿絵が難しく、児童に分かりにくい。初めから難しい問いかけになっている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体的な分量は適切である。</li> <li>・ 学年によって若干バラつきがある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挿し絵、写真など学習を進める上で、関連をもたせて用意されているとともに、資料が豊富で使いやすい。</li> <li>・ 「〇年生で学ぶこと」に、単元とSDGSの関連性が明記されている。</li> <li>・ 3・4年 QR コードの種類は項目は分かりやすいが、読み込みに時間がかかる。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙質が良く、ページがめくりやすい。</li> <li>・ 写真がたくさん載っていて、分かりやすい。</li> <li>・ 5・6年では見通しをもたせるため、合本の方がよい。</li> </ul>

2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文学、説明文の学習では、各単元の終わりに「見通しをもとう」のページがあり、学習の進め方が分かりやすくなっている。</li> <li>・ 文学、説明文の学習では、各単元の最後のページに「言葉」「言葉をふやそう」があり、語彙力を育てることにつながっている。</li> <li>・ 文学的な文章の題材が児童の実態に合っていてよい。</li> <li>・ 1年「したこととむすびつけて読もう」(説明的な文章)では、ノンバーバルコミュニケーションの題材が意識されている。</li> <li>・ 2年上「話したいな、聞きたいな、夏休みのこと」では、夏休み後の2年生の能力として妥当な教材である。</li> <li>・ 2年上「生きものクイズ」でしらせよう」では、調べたことを「クイズ」と「答え」にすることで、自然と大切なところを考えながらまとめられるようになっている。</li> <li>・ 4年上「つないでつないで」は、学級初めのアイスブレイキングを兼ね、伝え合おうとする意欲を高めるものになっている。</li> <li>・ 4年上「いろいろな手紙」では、「お願いの電子メール」が紹介されている。ICTを活用していく世代に即している。それぞれのよさを比較し、相手や目的に合わせて選ぶようになっている。</li> <li>・ 高学年の【書くこと】【話すこと・聞くこと】では、教材の選定や、学習課題の設定がよい。学習の手助けとなる資料や、単元の流れがよく、取り組みやすい。</li> <li>・ 1年下「おもい出のアルバム」では、多くの文章量を書かなくてはならず、児童だけの力で書かせることが困難である。</li> <li>・ 2年の【話すこと・聞くこと】の学習では、メモをとるという要素が少ない。</li> <li>・ 2年生は説明的な文章は3つだけしかなく、文学的な文章は6つでややバランスが悪い。</li> <li>・ 2年下「アレクサンダとぜんまいねずみ」において、「何がどのように変わったか」は中学年の内容にも見える。</li> <li>・ 5年下「まんがの方法」では、筆者の説明はあるが、筆者の考えが明確ではないので、事例とのつながりを考えたり自分の考えをまとめたりするのが難しい。</li> </ul>
-----------------	--

※ 「平成6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		光村図書出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科の達成目標に結び付き、児童の発達段階に合う内容になっている。</li> <li>・ 5年「みんなが使いやすいデザイン」は調べる対象がユニバーサルデザインに関することになり、学習しやすくなった。</li> <li>・ 6年「おすすめのパンフレットを作ろう」では、音楽を推薦する文章を書く活動が設定されていて、児童がやってみたくなる。</li> <li>・ 読み物教材は、動物や植物や乗り物等が題材になっていて、児童にとって身近なものが多く取り上げられている。</li> <li>・ 2年「紙コップ花火の作り方」を読むことから書く単元へのつながりはやや難しい。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領の指導事項の系統が単元名に意識されている。また1学期の説明的な文章では、練習教材と本教材があり、練習したことを生かせる単元設定となっている。</li> <li>・ 日常の具体的な場面から言葉に対する問いをもって考える場が設定されていて、状況に応じた言葉の使い方を考える工夫がされており、児童の主体性を発揮しやすい。</li> <li>・ 1年上 入門期導入で、紙飛行機に乗る児童たちの挿絵から想像が広がる。また、みんなが違うところを見て、それぞれで話したり遊んだりしているところが多様性や個別最適な学びを行うことへの意図がある。</li> <li>・ 単元の終わりに3観点で学習を振り返るような配慮がされている。児童がこの学習でどんな力をつけたかを自己評価することができ、学びの自覚を促す内容になっている。</li> <li>・ 「情報」は、学んだことを日常に活用することができるように設定されている。</li> <li>・ 2年下「そうだんにのってください」では、相談内容の精選に配慮が必要である。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・ 6年「ぼくのブック・ウーマン」は翻訳作品。多様な価値観として外国の様々な国や時代を舞台にした他の作品を読むことにつながる。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容や順序など、教師の裁量のバランスがよく、より児童の興味・関心などの実態に合った学びの選択が可能。</li> <li>・ UD フォント、カラーUD、特支、人権教育、外国人児童生徒教育、防災教育など、様々な視点から教科書を作成していることが明示されており、幅広い課題対応を行っている配慮がなされていることがわかり安心できる。</li> <li>・ 3年「ローマ字」の学習では、裏表紙から学習をスタートするため、教師や児童はページの混乱がなく、進めることができる。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真やイラストは鮮明で見やすく、文字の大きさや行間もちょうどよい。</li> <li>・ 紙の色味が黄色で、目に優しい。</li> <li>・ 「国語の学びを見わたそう」では、ページのサイズを縮小して、見やすく工夫されている点が良い。</li> </ul>

2 教科 ごとの 選定の 観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【書くこと】【話すこと・聞くこと】において、教材の選定と学習課題に児童が興味・関心をもって、学習を継続し、楽しく書く力を育てられるような内容が多い。</li> <li>・他教科との系統性がよく研究されていて、学習しやすい。</li> <li>・語彙力を育てるためのページが用意されている。文学では、手引きのページに「言葉に着目しよう」が提示されていて児童にとって分かりやすい。</li> <li>・QR コンテンツで、学びの質を高めようとしている。QR コードの上に何を見ることができなのか(写真、動画など)が書かれており、使いやすい。</li> <li>・単元ごとに「ことばの力」で身に付けたい力が明記されており、児童・教師にとってねらいが分かりやすい。</li> <li>・書くことにおいては、取材カードのモデル、出来上がった文章のモデルが示されており、学習の展開が児童・教師にとって分かりやすい。</li> <li>・思考方法(自分と比べて考えるなど)の方策(具体例)がやってみたくなるものでよい。</li> <li>・目次と「国語のまなびを見渡そう」、単元ごとに「見通しをもとう」があり、それらをセットで活用すると児童が学び方を学ぶことができるとともに、若年次教員も使いやすく、業務改善にもなる。</li> <li>・1年上 車いすの子が巻を通してずっと登場している。多様性への配慮がよい。</li> <li>・2年「ロボット」(説明的な文)は、現代社会に対応した内容を取り上げている。</li> <li>・2年上「ともだちはどこかな」では、聞きやすい題材となっている。</li> <li>・3年上「もっと知りたい、友だちのこと」は、相手意識・目的意識が明確で、友達と関わりを深めながら、思考力を養う内容になっており、生活につながるものである。</li> <li>・5年「もう一つの物語」では、既存の物語のサイドストーリーや別の結末を書くという活動。5年『「児童未来科」で何をする』では、「自分たちで学ぶことを決められる教科」という設定が、想像力豊かに考えたり、表現したりすることにつながる教材。</li> <li>・6年「卒業するみなさんへ」では、学んだことを生かして何かしようとか、次へつなげよう、という気持ちの高まりが得にくい。</li> </ul>
-----------------------------	--

※ 「平成6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

令和六年度使用小学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会（書写）

報告書

令和5年6月21日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目( 書写 )

部長

東 由美 

令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について(報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長

内村 健太郎 

副部長

川嶋 岳 

委員

児玉 奈穂美 

委員

安永 敬介 

委員

福重 孝陽 

委員

高倉 梓 

委員

片山 隆洋 

委員

印

委員

印

委員

印

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の達成目標に結び付く内容になっている。</li> <li>目次に各学年で身に付けたい力が載っていてわかりやすい。</li> <li>3年生「曲がり」の指導や6年「配列(小筆)」などにおいて、発達段階よりも学習レベルが高いものがある。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入時の活動を促す指示が本時のめあてにつながる問いになっていたり、対話的な学習を促す設問が明記してあったりして、めあてについて思考する言語活動になっている。</li> <li>書写で学んだことを他教科で生かすことができるように配慮されている。</li> <li>左手で書く児童への配慮がされている。右手と同様に写真が示されているのでわかりやすい。</li> <li>2年「かんざつカードを書こう」では、観察カードの書き方が示されており、他教科との関連を図りながら学ぶことができる。</li> <li>3年「用具の準備」では、写真が小さく用意の仕方が理解しにくい。4年生と同じ内容になっているため、初めて書写を学習する学年への配慮が不足している。</li> <li>目次の上にある「おかしな～」の「おかしな」という言葉が、配慮に欠けている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>コラムを除いて、どのページも同じ紙面構成で統一されているので、教師も児童も同じパターンで学習に取り組むことができるようになっている。</li> <li>教科書のサイズが、半紙と同じ縦横の比率のB5変型サイズになっているため、手本が活用しやすくなっている。</li> <li>学習事項を整理した「書写のかぎ」が発達段階に応じたわかりやすい言葉でまとめられている。また、巻末には、該当学年までの「書写のかぎ」が系統的に整理され、学習に生かすことができるようになっている。</li> <li>手本と書く欄が上下になっているので、左手で書く児童も手本と自分の文字が確認しやすくなっている。</li> <li>どの学年も始めのページに「点画」が大きく示されており、わかりやすく復習しやすい。</li> <li>QRコードのみの表示であり、開いてみるまで内容がわからず、使用しにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用色が少なく、すっきりとしている。シンプルで見やすい。</li> </ul>
2 教科 ごと の選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活に広げよう」において、国語と連動させた言語活動を取り上げ、生活に役立つ態度を育てる内容になっている。</li> <li>入門期においては、身の回りの事象から文字へ興味関心を広げるように配慮している。</li> <li>全体的に硬筆による書き込み欄が多く、①硬筆→②毛筆→③硬筆→④まとめ「書写のかぎ」という流れが明記してあり、書写の学びを硬筆に生かし、日常につながる授業構成になっている。</li> <li>1年では、「えんぴつでかいてみよう」で書いた自分の名前(4月)と、「できるようになったよ」で書いた名前(3月)を比べることのできる工夫があり、1年間の成長を確かめることができる。</li> <li>6年「文字の組み立て(湖)」の学習において、3つの部分が均等に示してあり、幅や高さが変わることは理解しにくい。</li> </ul>	

※ 「平成6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観 点		
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の達成目標に結び付く内容になっている。</li> <li>教材となる字は、各単元の指導事項に適した字形をもつ字であり、学年段階に応じた語彙になっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャラクターの台詞を使って、めあて達成のためのポイントを思考したり話し合ったりできるような問いを設定している。</li> <li>本時における学習の「めあて」がはっきりしている。「ふりかえり」の観点も提示してあり、見直しをもって1時間の学習を進めることができる。</li> <li>6年では、中学校での学習の見直しをもてるように、「はってん」として行書を紹介している。</li> <li>左手で書く児童への配慮がされている。写真や QR コードで提示されている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> <li>1ページ当たりの情報量が多く、45分の1時間で終わる内容にはなっていない。単位時間内に学習する際、書くことに追われてしまう。ポイントもわかりづらい。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆順が明記しており、線と線のつながりが意識しやすくなっている。</li> <li>「はってん」のマークがついているところは、学習指導要領に示されていない内容であることがきちんと明記されていてわかりやすい。</li> <li>QRコードに「動画」「資料」を示す記号が明記しており、どんな情報かがわかりやすい。</li> <li>紙面構成に統一感がない。縦書きと横書きが混じっているページがあったり、学習の流れがページをまたがって示してあったりして、紙面構成上、学習内容がわかりにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ページによっては、色が多く、どこがポイントなのかがわかりにくい。</li> <li>目次ページは折り込みになっているため、閉じにくい。(3, 4 年のみ)</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>目次の下に、「他の学習」や「生活」の中で生かす例が具体的に示されており、生活につながるように工夫されている。また、具体例の上に関連ページも示す配慮がある。</li> <li>文字環境、文字文化をテーマにした表紙裏の見開きページは、児童の興味を引くようになっている。</li> <li>「レッツトライ」において、国語や他教科と連動させた言語活動を取り上げ、生活に役立つ態度を育てる内容になっている。</li> <li>硬筆による試し書きと、まとめ書きの書き込み欄が設定しており、1時間の中での学習の変容を自覚できるようになっている。</li> <li>水書用紙に基本となる運筆練習ができるなぞり線があり、活用しやすい。</li> <li>1年の「えんぴつのもちかたあいことば」は擬音語を使用しており、わかりやすい。</li> <li>3年「はじめの学習」で、写真とイラストを効果的に用いて、「①毛筆用具の名前・扱い方→②よい姿勢・筆の持ち方→…→⑤あと片付け」の手順がていねいに示されている。</li> <li>3年の導入段階で毛筆と硬筆のつながりが示されており、毛筆学習の目的がわかりやすい。</li> <li>6年「リーフレット例」が魅力的で、国語科、総合的な学習の時間に活用しやすい。</li> <li>「書いて伝え合おう」が全学年にあり、手書きで書くよさを感じることができるようになっている。</li> <li>点画の種類のもつめが小さくわかりづらい。(5, 6年)</li> </ul>	

※ 「平成6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		光 村 図 書 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の達成目標に結び付く内容になっている。</li> <li>教材となる字は、各単元の指導事項に適した字形をもつ字であり、学年段階に応じた語彙になっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>「考えよう」が、本時のねらい達成に向けて、どんなポイントに着目したらよいのか、明確な視点をもって思考させる発問になっている。</li> <li>6年では、中学校での学習の見通しをもてるように、行書を紹介している。</li> <li>水書用紙に用意するものや枠などが印刷されており、活用しやすい。</li> <li>QRコードのアニメーションは興味を引くが、なくてもよい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>1ページあたりの情報が精選され、大切なことが一目でわかるすっきりとした紙面構成になっている。補足情報が必要な際は、QRコード(動画等)に整理されている。</li> <li>各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>コラムを除いて、どのページも同じ紙面構成で統一されているので、教師も児童も同じパターンで学習に取り組むことができる。</li> <li>教科書のサイズが、半紙と同じ縦横の比率の B5変型サイズになっているため、手本が活用しやすい。</li> <li>「たいせつ」の部分では、文章による説明のみでなく、ポイントとなる文字の箇所も示されており、わかりやすい。</li> <li>QRコードに「動画」「写真」「アニメーション」「資料」と明記しており、どんな情報かがわかりやすい。また、タブレットを使う際の姿勢等も教科書内に示されている。左手で書く児童への配慮もされている。</li> <li>SDGsの視点が随所に明記されていて、よい。</li> <li>「たいせつ」についている番号が何の番号かがわかりにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用色が少なく、すっきりとしている。</li> <li>書写ブックを取り外して活用できる。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年「えんぴつの持ち方」は、リズムがあって覚えやすい。</li> <li>3年「小筆で書いてみよう」で、小筆の指導がていねいにされている。</li> <li>6年生の教科書には「書写ブック」として、1～6年の活用例がとじ込みにまとめられてあり、日常生活に生かすことができるようになっている。</li> <li>「生かそう」では、毛筆で学習したことをもとに硬筆に生かせるように、補助線がある枠の中でなぞり書きができるようになっている。</li> <li>3年「毛筆スタートブック」では、初めての毛筆の学習がわかりやすいようにていねいにまとめられている。</li> <li>生活の中の文字や、学年に応じた他教科での学習内容とつながるように配慮されている。</li> <li>部分の組み立て方②(6年)部分同士の組み立て方の例がわかりやすい。</li> <li>4年「文字の組み立て」は、林、雲と1文字になっており、ねらいが焦点化されている。</li> <li>本時の導入時において、硬筆に触れていない教材がある。</li> </ul>	

※ 「平成6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

令和六年度使用小学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会(社会)

報告書

令和5年6月19日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目( 社会 )

部長

宮崎 貴寛

令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について(報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長 江藤 直子



副部長 黒野 祐也



委員 廣政 良尚



委員 中神 香菜



委員 野田 優子



委員 金堀 梢



委員 元兼 中朝



委員 伊藤 有花



委員 印

委員 印

発行者名		東京書籍
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科の目標達成に結び付く適切な内容である。</li> <li>・ 内容の程度は学年の児童の発達段階に適応している。</li> <li>・ 学習指導要領に示す教科及び学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前学年の「生活科で学んだこと」「3年生で学んだこと」や、「教科関連マーク」など、系統性を意識した内容となっている。</li> <li>・ 「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」などの問題解決的な学び方を意識した内容となっている。</li> <li>・ ドラえもん「社会科の見方・考え方」の表記について、児童がどのような視点をもてばよいか参考になる配慮がある。</li> <li>・ 第3学年では、2単元が終わってから「学習の進め方」の記載があり、1単元目で「学習の進め方」があることに気づきにくい。</li> <li>・ 「ポスター」「図や表」「パンフレット」「4コマCM」「紙芝居」など、思考力・表現力を高めることを意識した言語活動が記載されている。特に4年生の「マイタイムライン」はこれからの生活にいかせる内容になっている。</li> <li>・ プレゼンテーションソフトを使ってまとめるところは、ICTの活用とも関連付ける内容となっている。</li> <li>・ 各単元で「ひろげる」が設定されており、児童の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるように配慮されている。児童の負担が過重とならないよう選択できるようにしている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・ 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして図書の内容に適切に配分されている。</li> <li>・ 5年生・6年生が分冊になっているが、6年生は2冊を交互に使用するため紛失する心配がある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料、イラスト、写真、図など、学習を進める上で関連を持たせて用意され、学習の深まりに有効に働くよう配置されている。</li> <li>・ 発展的な学習内容を取り上げる場合には、それ以外の内容と区別され、発展的な学習内容であることが明示されている。</li> <li>・ デジタルコンテンツとしてQRコードがついており、動画やワークシートを活用することで学習の深まりに有効に働くように配置されている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字の大きさ、字体、行間が適切である。</li> <li>・ イラストのタッチに統一感がない。</li> <li>・ 余白・写真の選定・レイアウトに統一感がない。</li> <li>・ 土地の地図の配色が同系色で見にくく、情報が読み取りにくい。</li> </ul>

2 教科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会的な見方・考え方を働かせるために、キャラクターの吹き出しを使い、課題を追究できる内容になっている。</li> <li>・ 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解できる内容になっている。第6学年「わたしたちの生活と政治」では、「わたしたちのくらしと日本国憲法」「国の政治のしくと選挙」について、調べる対象が明確になっている。</li> <li>・ 領土をめぐる問題については知識の定着は図れるが、地図や資料の読み取りが難しく、技能を図るためには十分ではない。</li> <li>・ 各学年ともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べる学習では、デジタルコンテンツが充実していて、詳しい資料を見ることができ、知識及び技能の能力向上につながるような内容になっている。</li> <li>・ 第5学年の工業生産の学習の後、自動車だけでなく、造船・製鉄・石油・食料など「ひろげる」のページに資料が記載されていて、子どもたちの関心に合わせ、主体的に学習するのに有効である。</li> <li>・ 「まとめる」のところは、まとめるポイントが分かりにくく、思考力、判断力、表現力等の能力を身に付ける上で十分ではない。</li> <li>・ 「まなびのポイント」に、話し合うこと調べる事が明示してあり、学習の見通しをもち、主体的・対話的で深い学びにつなげる工夫がされている。</li> <li>・ 地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養うことができる。</li> <li>・ 第3学年の「はたらく人とわたしたちのくらし」の事例地は福岡市、「市のうつりかわり」の事例地は、兵庫県明石市、第4学年の「県の特徴を捉える」事例地は、宮城県、第5学年の「環境を守るわたしたち」の事例地は、京都、「低い土地のくらし」岐阜県会津市、「高い土地のくらし」群馬県嬭恋市になっているため、地域社会に対する知識をつけることについては十分ではない。</li> <li>・ 世界の国々との関わりや政治の働きへの関心を高めるような内容になっている。第6学年の政治のしくみでは自分事として考えることができるような表現が充実している。</li> <li>・ 第6学年「震災復興の願いを実現する政治」では、自然災害時における地方公共団体の働きについての説明や資料が充実しており、地域の人々の工夫・努力等について考えられる内容になっている。</li> <li>・ 少子高齢化等による地域社会の変化や情報化に伴う生活や産業の変化については、第6学年で「少子高齢化」の問題についての記載が不十分である。</li> <li>・ 第5学年の「情報を生かす産業」では、コンビニエンスストアを取り上げ、身近で分かりやすい内容になっており、児童が主体的に学ぶことができる。</li> <li>・ 各学年において地図や地球儀、統計などの各種の資料を適切に活用し、我が国の47都道府県の名称と位置、世界の主な大陸と海洋の名称と位置を身に付けることができる内容になっている。第4学年地図帳の使い方や都道府県の位置と名称を身につけることができるように、特産品や都道府県カードなどを記載し、知識・技能の能力がつかための工夫がされている。</li> </ul>
---	---

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科の目標達成に結び付く適切な内容である。</li> <li>・ 内容の程度は学年の児童の発達段階に適応している。</li> <li>・ 学習指導要領に示す教科及び学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーフレットづくり、すごろくづくり、地図づくり、KJ法等、思考力、判断力、表現力等の育成を目指した多様な言語活動が充実している。</li> <li>・ 「つかむ・調べる・まとめる」という学習の流れの中で、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習が重視されるとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるように配慮されている。</li> <li>・ 第5学年「自分で調べて考える」等は一人一人の追究の結果を整理して、みんなで共有する展開になっており、個に応じた主体的な学びへの配慮がされている。</li> <li>・ 「もっと知りたい」は読みもの資料として興味のある児童が進んで取り組むことのできる構成になっており、児童の負担が過重となったりすることがないように配慮されている。</li> <li>・ 前の学年とのつながりや、他の教科とのつながりが紹介されている。ただ、カリキュラムマネジメントを行う情報としては具体性がない。</li> <li>・ 第3学年「社会科ガイド」で体験活動の注意点などは載っているが、4～6年生には見られない。各学年に応じた安全・衛生面の配慮が不十分である。</li> </ul>
	(3)分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・ 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして図書の内容に適切に配分されている。</li> <li>・ 各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> </ul>
	(4)使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料、イラスト、写真、図など、学習を進める上で関連を持たせて用意され、学習の深まりに有効に働くよう配置されている。</li> <li>・ 問いに合わせて、写真、図、資料等を選択したり、関連付けたりできるよう配置されていて、学習の深まりに有効に働く内容になっている。</li> <li>・ 「もっと知りたい」として、発展的な学習内容であることが明示されている。</li> <li>・ 子どもが調べるための資料は大きく、そうでない資料は小さく配置するなど、意図的な工夫がある。</li> </ul>
	(5)印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。</li> </ul>

2  
教科ごとの選定の観点

- ・ 各学年で「社会科で使う見方・考え方」を紹介している。また、それぞれの単元では、キャラクターがふきだして社会的な見方・考え方を働かせる例を示し、子どもたちが社会的な見方・考え方を働かせながら課題を追究できる内容になっている。
- ・ 「学びの手びき」や「社会科ガイド」があり、学び方が学べる内容になっている。ただ「社会科ガイド」は4～6年生にはない。
- ・ 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解できる内容になっている。
- ・ 第3学年41か所、第4学年62か所、第5学年44か所、第6学年65か所にQRコードが掲載され、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめることができる内容になっている。
- ・ 第4学年「地域で受けつがれてきたもの」や第5学年「環境をともに守る」の「つなげる」コーナーのように、単元のまとめを行った後で「わたしたちも〇〇しよう」と社会への関わり方を選択・判断したり、それを表現したりすることができる内容になっている。
- ・ 各学年とも、社会的事象に関わる多様な人の工夫や努力が「〇〇の話」として多く紹介されており、先人に学びながらよりよい社会を考え、主体的に問題解決をしようとする態度を養う内容になっている。
- ・ 第4学年「県の地図を広げて」の事例地として、福岡県を取り上げているため、県内の地理的環境の特色をつかむことができる内容になっている。
- ・ 第4学年「わたしたちの県のまちづくり」の事例地では、福岡県内の特色ある地域として東峰村と太宰府市、岡垣町を取り上げている。また、第5学年「自動車の生産にはげむ人々」の事例地では、福岡県苅田町の工場を取り上げている。これらは福岡県の子どもたちにとって、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことができる内容になっている。
- ・ 第6学年の国際協力では、中村哲さんが取り上げられており、郷土の人の工夫や努力から、世界の国々との関わりや政治の働きへの関心を高めるような内容になっている。
- ・ 第5学年「国土の自然とともに生きる」では、多くの写真資料とWEBサイトにアクセスできるQRコードが掲載されており、子ども自身が課題に沿って主体的に資料を選択しながら、自然災害時における地方公共団体の働きが分かる内容になっている。
- ・ 第4学年「地震にそなえるまちづくり」では、様々な立場の人が災害時における工夫や努力を話している資料が多く掲載されており、地域の人々の工夫・努力等が分かる内容になっている。
- ・ 第6学年「わたしたちの暮らしを支える政治」では、少子高齢化の変化について読み取るためのグラフ資料が掲載されている。また、少子高齢化等による地域社会の変化を読み取るための「学びのてびき」が合わせて掲載されている。
- ・ 第5学年「くらしと産業を変える情報通信技術」では、販売の仕事だけではなく、選択できる内容として、観光、運輸、医療が用意されており、情報化に伴う生活や産業の変化が、多様な視点から分かる内容になっている。
- ・ 各学年において地図や地球儀、統計などの各種の資料を適切に活用し、我が国の47都道府県の名称と位置、世界の主な大陸と海洋の名称と位置を身に付けることができる内容になっている。

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		日本文教出版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科の目標達成に結び付く適切な内容である。</li> <li>・ 内容の程度は学年の児童の発達段階に適応している。</li> <li>・ 学習指導要領に示す教科及び学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他教科との連携が図られた内容や「〇年生に向かって」が全学年に掲載されており、各教科及び各学年相互間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるように配慮されている。</li> <li>・ 交流場面の設定の例が単元末に掲載されており、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語活動の充実が配慮されている。</li> <li>・ 47都道府県の書き込みワークなど、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習が重視されているとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるように配慮されている。</li> <li>・ まとめ方の事例が豊富(ノート、デジタル新聞など)であり、児童が学習内容を確実に身に付けることができるように、個に応じた指導への配慮がされている。</li> <li>・ 体験活動などは、安全面についての記述が少ない。</li> <li>・ 発展的な学習内容を取り上げている場合には、学習指導要領の目標や内容の趣旨を逸脱したり、児童の負担が過重となったりすることがないように配慮されている。</li> <li>・ 複数の資料が児童によっては活用しづらい箇所もあり、学習内容の趣旨を逸脱することも想定される。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・ 学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして図書の内容に適切に配分されている。</li> <li>・ 各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> <li>・ 他と比較し、文章量が多い。(特に3年生)</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習を進める上で、ユニバーサルデザインに対応した色調や色を組み合わせた資料、イラスト、写真、図などが用意され、学習の深まりに有効に働くよう配置されている。</li> <li>・ 発展的な学習内容を取り上げる場合には、それ以外の内容と区別され、発展的な学習内容であることが明示されている。</li> <li>・ 視覚的資料の1つとして、動画などのQRコードが学習の深まりに有効に働くように配置されている。</li> <li>・ 全学年にSDGs シールを活用する場面が設定されており、現代的な諸課題を自分事として捉えられる工夫がされている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印刷は鮮明であり、製本の様式、材料などが適切である。</li> <li>・ 3年生の文字が多く、発達段階的に見にくい。</li> <li>・ 字体が統一されていないため、見にくい。</li> </ul>

2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「見方・考え方」が3つの視点(時間・空間・関係)に分けて随所に掲載されており、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究できる内容になっている。</li> <li>・どのように資料を活用すればよいのかが分かりづらい部分もある。</li> <li>・プラスチックごみによる被害など現代社会の課題が取り上げられており、社会生活について関心をもって調べようとする内容になっている。</li> <li>・資料が比較対象になっていなかったり、見開きページ内に情報が多すぎたりして、情報を適切に調べまとめることができる内容になっていない箇所がある。</li> <li>・学年の発達段階に応じたグラフが工夫されているが、読み取りにくいものもあり、情報を適切に調べまとめることが難しい箇所がある。</li> <li>・掲載資料が最新のものを多く取り上げるなど、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会へのかかわり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりできる内容になっている。</li> <li>・公助・共助・自助の考え方に着目して災害時の取組について考えるなど、自然災害を自分事として考えることができるような話し合いの進め方が紹介されている。社会へのかかわり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりできる内容になっている。</li> <li>・子どもの素朴な疑問が掲載されているなど、社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うことができる内容になっている。</li> <li>・地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養うことができる内容になっている。</li> <li>・第3学年・第4学年において、福岡県の事例地が取り上げられていないため、使用上の便宜がよくなり、地域社会に対する誇りと愛情を養うという点においては十分ではない。 (第3学年で地域の様子を捉える事例地・・・姫路市、市のうつりかわりの事例地・・・川越市、第4学年の県の特色を捉える事例地・・・岡山県)</li> <li>・政治を自分事として考えるワーク(人権問題、消費税率の引き上げ、選挙の投票率の低下について考えるワーク)があり、政治の働きへの関心を高めるような内容になっている。</li> <li>・自然災害時における各都道府県の取組事例が豊富に掲載されており、地方公共団体の働きや地域の人々の工夫・努力等が分かる内容になっている。</li> <li>・第5学年において、AIやドローンの導入による事例が随所に見られるなど、情報化に伴う生活や産業の変化が分かる内容になっている。</li> <li>・少子化に特化した内容になっている。高齢化に関する内容が含まれていない。</li> <li>・各学年において地図や地球儀、統計などの各種の資料を適切に活用し、我が国の47都道府県の名称と位置、世界の主な大陸と海洋の名称と位置を身に付けることができる内容になっている。</li> </ul>
-----------------	--

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

令和六年度使用小学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会(地図)

報告書

令和5年6月19日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目( 地図 )

部長 針尾 泰久



令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について(報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長 泉 徳明



副部長 山本 太郎



委員 濱田 明美



委員 小川 渚



委員 福山 晃央



委員 岩田 勇人



委員

印

委員

印

委員

印

委員

印

観 点		発行者名	東京書籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容の範囲及び程度はその学年の児童の発達段階に適応しており、各学年で活用できる内容になっている。</li> <li>・ 自然災害に関する内容が巻末に見開きで掲載されており、幅広い学年で活用できる。</li> <li>・ 北海道の地図にアイヌ語地名の資料があり、地図を楽しむことができる構成になっている。</li> <li>・ 第3学年の学習内容との関連を考えると、内容的に難しすぎる箇所があり、配慮が不足している。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都道府県と世界の主な国の統計が一覧になっていて分かりやすい。また、農業生産額の単位は、すべて「億円」で統一されていて比べやすい。</li> <li>・ 歴史の舞台、建物も地図上に示してあり、分かりやすい。</li> <li>・ 児童の関心・意欲を高めることができるように、キャラクターを適宜掲載している。「首都東京」での、「昼夜の人口比」についての資料や、まちのイメージを簡略化したイラストやキャラクターなど、興味・関心をもたせやすい工夫をしている。</li> <li>・ 自発的な学習を促すように、「ホップ・ステップ・マップでジャンプ」を設け、レベルに分けて構成することで、地図帳を見る必要性を生み出し、児童の地図への興味・関心をもたせる工夫がされている。</li> <li>・ 発展的な学習内容の一部に児童の負担が過重になるとと思われるものがあり、配慮が不足している。</li> <li>・ 地図記号の種類が多すぎて読み取りづらく、配慮が不足している。</li> <li>・ 「ホップ・ステップ・マップでジャンプ」の解答が記載されておらず、QRコードを読み取る手間が必要となる。また、内容もクイズ的で、難易度も高い。</li> <li>・ 凡例、索引、縮尺などの用語の説明が難しい。</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1ページあたりの情報が詰め込まれすぎている。</li> <li>・ 地図のきまり、使い方など1つ1つの説明が多すぎる。(例 P14 のくわしく見る地図)</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いくつかの写真を示しながら、日本の自然災害について掲載しているページでは、一目で災害が多い国であると、視覚的に分かるように工夫されている。</li> <li>・ 地図が続くページが記載されており、連続的に見られる。</li> <li>・ 「役立つリンク」など、学習の深まりに有効に働くようなデジタルコンテンツがある。</li> <li>・ イラストの内容はその国の様子をよく表しているのよい。またイラストはその国の中に配置されていてよい。</li> <li>・ 日本と世界の自然(川・山・湖など)を同列で比較し、大小や長短が一目で分かりやすく掲載している。</li> <li>・ 日本・世界の川の上流・中流・下流に主な都市を入れ、水の利権や管理について考えさせる工夫をしている。</li> <li>・ QRコードの内容は、掲載された内容にバリエーションが少ない。</li> <li>・ 発展的な学習内容の解答が、地図帳内に明示されておらず、使いにくい。</li> <li>・ デジタル資料の内容は、社会科の教科書と同じ会社で揃えなければその良さを十分に発揮できないと考える。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 13 ページの索引の使い方の説明が分かりにくい。</li> <li>・ 子どものキャラクター4人、男子2、女子2は良いと思うが、P9 から登場する男性探検隊員の服装や言葉遣いに違和感を感じる。</li> </ul>
(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地名など、字体や文字色、太さ等を変えることで、情報量が多くても見やすくなるように工夫している。</li> <li>・ 写真資料は鮮やかで見やすく、豊富である。</li> <li>・ 県境が分かりやすい。</li> <li>・ 世界地図（見開き）の色合いははっきりしていてよい。</li> <li>・ 地図のきまり、使い方など字が小さい。情報量が多く、児童にとって使いにくい。</li> <li>・ 地球儀を使うステップを青字で囲んであり、全体的に目立ちにくい。</li> <li>・ 色合いのコントラストが弱く、地図の高低差がとらえづらい。</li> <li>・ 光沢ページが多く、鉛筆や赤鉛筆の発色が心配。</li> </ul>
2 教科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「八幡製鐵所」と記載される場合もあるが、「八幡製鉄所」と児童の発達に応じた記載となっている。</li> <li>・ SDGs の観点でも学ぶことができる。</li> <li>・ 北方領土や竹島について記載されており、歴史教育へのつながりが図りやすい。</li> <li>・ 歴史年表と世界とのかかわりの資料は歴史学習で活用しやすい。(P77~80)</li> <li>・ 日本の貿易 (P75~76) は貿易相手国の変化や輸入品の変化などの内容が取り入れられているのがよい。</li> <li>・ キャラクターごとに色分けしたり、得意な分野を明確に設定したりするなど工夫をし、地図上で吹き出しで投げかけたり、解説したりして分かりやすい記述になっている。</li> <li>・ 日本の交通網について記載されたページがある。</li> <li>・ 歴史的視点で、地図上に記号や解説が記載されているが、最後にまとめて「世界とのかかわり」として4 ページ記載されるのみで、後付けの印象を受ける。</li> <li>・ 日本の自然（気候）P69 のデータ各種が1981~2010 年の平均値となっており、近年のデータが使用されておらず、反映されていない。</li> <li>・ 47 都道府県の特産品や建造物や伝統文化等を「特産品=緑」「建造物=黄」のように色分けしているが、その説明がなく、地方ごとの色分けと混同することも考えられ、配慮が不足している。</li> <li>・ 我が国とつながりの深い国について、選択して調べるには内容が足りないように感じる。</li> <li>・ 巻末の世界地図が正距円筒図法であり、比較的、極部のひずみが大きい。</li> <li>・ 九州全図において、太宰府市の名称が記載されていない。</li> <li>・ アメリカ合衆国の州の一覧がない。</li> <li>・ 歴史的な内容が記載されてはいるものの、情報量の多さから、見やすさの点では配慮が不足している。</li> <li>・ 竹島（中国地方の地図）等、写真が掲載されており、位置や周辺国（中国・台湾・韓国など）との距離が分かりやすく記載されているが、北方領土については記載されていない。</li> <li>・ 等高線の説明が不十分のため、児童には分かりにくい。</li> <li>・ 資料は2020 年度のものも多く、児童が実際に使う時には4 年前のものになってしまう。（資料の中には2019 年度のものもある。）</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		帝国書院
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容の範囲及び程度はその学年の児童の発達段階に適切しており、各学年で活用できる内容になっている。</li> <li>・ 歴史学習との関連内容が豊富である。</li> <li>・ 「方位」「地図記号」「索引の使い方」等の説明が丁寧で、情報量を減らした地図を掲載するなど、初めて使用する第3学年へ向けたページが充実している。</li> <li>・ 広島市のように、原爆による被害状況について記載されており、平和学習や歴史学習につなげることができる。</li> <li>・ 先生(スパロウ)、小3、小6の登場人物の設定は、第3学年から地図帳を使うことを意識してよい。</li> <li>・ P128「形に注目」「文字に注目」など児童の興味・関心を高める内容になっている。</li> <li>・ P101・102「防災と自然災害」について、時間軸・空間軸や人々の関係性(取組)が2ページに渡って示されており、主に第4学年～第6学年の社会科学学習でも活用しやすく配慮されている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「音楽のふたい」の記号や、英語に関するクイズや、SDGsの視点での資料があり、他教科との関連が図りやすい。</li> <li>・ 「地図マスターへの道」で、児童に興味・関心をもたせ、自発的な学習を促すことができるように配慮している。</li> <li>・ 地図記号の説明が分かりやすい。(P14)</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3学年でも十分に活用できるよう、分量や構成に配慮があり、バランスが良い。</li> <li>・ 総ページ132ページとなっており、資料や地図、地図指導などが充実した分量になっている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発展的な学習内容の解答が巻末に掲載されているため、使いやすい。</li> <li>・ 各種の自然災害とそれに対応する防災対策が並列で記載されており、結び付けて理解しやすい。</li> <li>・ 福岡市の拡大地図があり、(今年度までの)学習内容とリンクしている。</li> <li>・ 索引が種類ごとに色分けされており、見やすく感じる。</li> <li>・ 地図帳の使い方の説明が分かりやすい。(シンプル・端的)</li> <li>・ QRコードの内容が充実していて、地形・土地の使われ方・交通の様子など、分野ごとの地図が見られて活用しやすい。</li> <li>・ 索引の使い方の説明(P19)に児童に馴染みのある時間割を例にして説明されているので分かりやすい。</li> <li>・ 日本と世界の自然(川・山・湖など)が同ページで比較されているが、1ページのレイアウト上、少し分かりにくい。</li> <li>・ フォントは比較的小さく、見えにくい文字も多い。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イラストの内容はその国の様子を表しているのか疑問を感じる。また、イラストが海の中に配置されているのはどうか。</li> <li>・ 日本の統計の農業生産額の項目は円と万トンが混在し分かりにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体的に発色が鮮やかで見やすい。</li> <li>・ 「八幡製鐵所」と、正式の漢字表記がされている。</li> <li>・ 「日本」に「にっぽん」とルビ。他にも、全編にわたってほぼすべての記述にルビが振られている。</li> <li>・ 凡例、索引、縮尺など大切な言葉がはっきりと分かるように太文字になっている。また大切な言葉の説明が文章中にあり、分かりやすい。</li> <li>・ 等高線などの説明が実際にある八丈島をもとに説明されていて、分かりやすい。</li> <li>・ 地球儀を使うステップを黄色で囲んであり、強調することで見やすくなっている。</li> </ul>
2 教科 ご の 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 47 都道府県の伝統文化や特産品などの特色を、地方ごとに選択式のクイズにするなど、児童が興味をもって学べるよう工夫されている。</li> <li>・ 世界地図のページには物語や音楽の舞台、日本へ伝わった言葉、スポーツと関連した内容等が記載されており、日本とつながりの深い国を調べるときに役立つ。</li> <li>・ 農業のようすについて、イラストで示すことで、地理的環境の特色が分かりやすく記載されている。</li> <li>・ 県特有の課題や特徴(例:「国際化が進む福岡市」)が記載され、県の特徴をつかみやすい構成になっている。</li> <li>・ 歴史的な視点(奈良や京都の都、広島原爆地周辺、江戸時代に焦点化された内容など)が地図上に反映され、第6学年の歴史学習の内容との関連付けがあり、授業の中で活用しやすい。</li> <li>・ おもな農産物・工業製品の都道府県ランキングが示されており、県の特色が見やすく社会的な事象の意味や働きが考えやすくなっている。</li> <li>・ P103「地形と主な農産物」では、鳥観図をもとに、果樹園・棚田などを解説し、理解しやすい構成になっている。</li> <li>・ 「線をたどって考えさせる」(航路やヒマラヤ山脈など)「周辺の事象と関連づけて考えさせる」(交通と市街地との関連)を吹き出しにすることで、「点で見る」「線で見る」「面で見ると」という地図の見方を育成する工夫がされている。</li> <li>・ 資料が2019年度のもものが多く、実際に児童が使う際には5年前のものになってしまう。</li> <li>・ 交通についてまとめているページがない。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

令和六年度使用小学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会(算数)

報告書

令和5年6月19日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目(算数)

部長 奥 浩太郎 

令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について(報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長 加藤 恵美 

副部長 鈴木 優介 

委員 小川 毅彦 

委員 佐伯 利恵 

委員 山本 高史 

委員 村田 和也 

委員 永田 雄大 

委員 増田 大地 

委員 福山 健太 

委員 印

発行者名 観 点		東 京 書 籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・内容の程度は、その学年の児童の発達の段階に適応している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの終末場面に学習の仕上げ(練習問題)として「たしかめよう」のページと「算数の目～大切な見方・考え方」のページに分けてあるため、言語活動の充実につながる。</li> <li>・「数と計算の領域」に関して、練習問題では、大事な問題(式など)に色を付ける工夫がされている。例題と類似した問題、発展問題、補充問題など個に応じた指導がしやすい。</li> <li>・各学年の各単元の導入では、単元導入材を提起するページが設定されており、そこから単元に入るように設定されている教材になっている。</li> <li>・各学年の各章の導入では、問題解決的な学習が重視されると共に、イラストに加えて写真や動画で場面を提示しており児童の興味関心を高める教材になっている。</li> <li>・1年生は、生活科や図画工作科と関連しており、児童が課題をつかみやすくなっている。</li> <li>・吹き出しに途中まで書き思考を促すようになっており、見通しをもてるようになっていいる。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。</li> <li>・各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> <li>・基礎・基本問題及び発展的な問題が十分に設定してある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・GIGA 端末の活用ができるように QR コードがページの下部に記載されている。それとともに D マークでコンテンツの使用場面を示しているが、D マークと QR コードを見る必要があり、混乱する児童も出てくる可能性が考えられる。</li> <li>・デジタルコンテンツの中には、解き方や解答付きの練習問題のプリント(PDF)が盛り込まれているため、活用できる。</li> <li>・特に、基礎的な内容に十分指導時間がかけられるように構成されている。</li> <li>・各章のはじめに前学年の復習ページがあるため、内容に入りやすい。</li> <li>・付録が充実しており、付録を活用した数学的活動ができる。</li> <li>・学校で使用されているタブレットのカメラでは、本書に載っている QR コードを読み取ることが難しいため、すぐに活用することができない。</li> <li>・1年生の始まりが別冊・中綴じで、ブロックを置いたり数字を書いたりしやすい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。</li> <li>・ユニバーサルデザインを意識しており、「UD 教科書体」や「カラーバリアフリーのイラスト」などの工夫がある。</li> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> </ul>

2 教科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想の推進に向けて、デジタルコンテンツ「D」は動画やシミュレーション、他教科との連携ができる教材が豊富であり、学習内容を理解したり、深めたりすることにつながる。</li> <li>・単元末にある「学習のしあげ」では、数学的な見方・考え方の価値づけを行う「つなげていこう算数の目」を掲載することで自己の成長を実感させるようになっているが見開きになっており量が多く負担に感じる。</li> <li>・1年生は、挿絵にブロックを置くスペースがあり、思考の通りに操作がしやすい。</li> <li>・QR コードから児童がタブレット上で操作する場面が多い。低学年に時間がかかる操作(色を塗る・線でつなぐなど)が短時間でできる。</li> <li>・他社では、プログラミング的思考のページを各学年に掲載しているが、そのようなページが第5学年にしか無いため、指導する際に別の教材を準備する必要がある。</li> <li>・1年「かずをかこう」のマスが多く、授業時間で全てを練習することが難しい。</li> <li>・2年(上)で、長さを「ブロックの何個分」と「消しゴムの何個分」で測り、「数が違うのはどうしてかな。みんなで話し合ってみよう。」とあるが、その理由は明らかであり、「同じもので測らないといけない。」と気付かせるという流れは、児童の素朴な思考に沿っていない。</li> <li>・教科書の内容が1単位時間ごとに区切られていないため、児童や教師が見にくく、使いにくい。</li> </ul>
---	---

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名 観 点		大 日 本 図 書
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・内容の程度は、その学年の児童の発達の段階に適応している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元によっては既習事項(鍵マーク)を記載しているため、児童が学習の見通しをもったり前の学年の内容とつないで考えたりすることができる。</li> <li>・練習問題では、学年に応じた発展的な問題「算数たまたま箱・読み取ろうなど」があり弾力的な指導ができるように工夫されている。例題と類似した問題、発展問題、補充問題など個に応じた指導がしやすいようになっている。</li> <li>・各学年の各単元の導入では、日常生活や社会の事象から問題提起されているため、児童の興味関心を高める教材になっている。1年生は生活科と関連している教材があり、マークもある。</li> <li>・授業以外などの学習としての巻末の「プラスワン」が設定されているが、解答が QR コードを読み取って確認しないと見ることができないという手間があり、授業中使いにくい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。</li> <li>・各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> <li>・基礎・基本問題及び発展的な問題が十分に設定してある。</li> <li>・1ページに載っている内容量が多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・デジタルコンテンツの中には、解き方や解答付きの練習問題のプリント(PDF)が盛り込まれているため、活用できる。</li> <li>特に、基礎的な内容に十分指導時間がかけられるように構成されている。</li> <li>・目次や右ページの上段に、領域ごとに色を変えた表記がされており領域の関連が図りやすい。</li> <li>・QR コードが小さく、読み取りにくい。学習のサポートは、欠席児童が家庭で授業内容を理解できるようになっている。</li> <li>・各章のはじめに前学年の復習ページがあるため、内容に入りやすい。</li> <li>・図形領域の付録はついているが、その他の領域の学習で活用できる付録がない。</li> <li>・学校で使用されているタブレットのカメラでは、本書に載っている QR コードを読み取ることが難しいため、すぐに活用することができない。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。</li> <li>・ユニバーサルデザインを意識しており、「UD 教科書体」や「カラーバリアフリーのイラスト」などの工夫がある。</li> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・1年生の導入が別冊(中綴じ)になっており、書き込みやブロック操作等がしやすい。</li> </ul>

2 教科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が疑問や問題を見だし、主体的に学習に取り組むことができるように、単元導入のアプローチページで、問題場面をアニメーションで見られるような工夫をしている。</li> <li>・単元末の「たしかめ問題」では、授業の進度や児童の習熟度に応じて柔軟な扱いができるように「しっかりチェック」など単元の中で学んだことを1ページの中で振り返ることができるようになっている。</li> <li>・6年「3. 面積」が他の教科と違って、分数のかけ算・わり算の前に設定されているため、扇形の面積を求める際、<math>\times 1/4</math>を使うことができない。</li> <li>・4年「7. がい数」では、がい数に表す方法の示し方が、どのように処理していいのかわかりづらい。</li> <li>・6年「対称な図形」では、線対称と点対称の定義付けが導入時に同時に出ているため、児童が内容の理解に混乱しそうである。</li> <li>・1年生「かずしらべ」では、花の色に視点が集まり、曜日ごとに整理することが難しい。</li> <li>・プログラミングのスクラッチを児童が扱いにくい。内容的に難しかったりプログラミングを活用しなくて解決できたりするものがある。</li> <li>・2年(上)で、3人の子どもが「消しゴム3個分」で長さを測ることで、児童の思考のずれを生み、普遍単位を導入する必要感が生まれる内容となっている。</li> </ul>
---	--

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名 観 点		学 校 図 書
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・内容の程度は、その学年の児童の発達の段階に適応している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考え方モンスターに見方・考え方が示されているため、言語活動の充実につながる。</li> <li>・話し合う・比べる・説明するなどの場面があるため、言語活動の充実につながる。</li> <li>・各学年の各単元の導入では、単元導入材を提起するページが設定されており、そこから単元に入るように設定されている教材になっている。</li> <li>・単元末の復習問題の後に単元の振り返りが設定されている。(復習問題→振り返り)また、できるようになったこと(類似問題)、まなびをいかそう(発展的な問題)に分けて復習問題が設定されている。</li> <li>・デジタルコンテンツ(QR コード)が少なく、QR コードの内容に関する説明が無いためコンテンツの内容が分からない。</li> <li>・各学年の各単元の導入では、イラストや写真を掲載して児童の興味関心を高める教材になっているが、色や種類が多かったり、視覚的に刺激が強かったりして視点がぼやけることになる。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。</li> <li>・各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> <li>・基礎・基本問題及び発展的な問題が十分に設定してある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・デジタルコンテンツの中には、解き方や解答付きの練習問題のプリント(PDF)が盛り込まれているため、活用できる。特に、基礎的な内容に十分指導時間がかけられるように構成されている。</li> <li>・各章のはじめに前学年の復習ページがあるため、内容に入りやすい。</li> <li>・学校で使用されているタブレットのカメラでは、本書に載っている QR コードを読み取ることが難しいため、すぐに活用することができない。</li> <li>・付録についているもの(色板等)が問題で記載されているものと大きさが異なり扱いにくい。1年図形</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。</li> <li>・ユニバーサルデザインを意識しており、「UD 教科書体」や「カラーバリアフリーのイラスト」などの工夫がある。</li> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> </ul>

2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決する上で、いろいろな「見方・考え方」を働かせていることを意識できるように、「考え方モンスター」として表している。児童が楽しみながら算数を学んでいくことも期待している。</li> <li>・算数で学んだことが社会へと広がっていく力となることを実感できるように、SDGsのマークが示されたページを掲載している。算数と社会の関りを深めたいようなページ構成になっている。</li> <li>・GIGAスクール構想の推進に向けて、すべての学年に「プログラミングのプ」のページを掲載している。タブレットなどで実際に動かすことができるサイトに接続することでプログラミング的思考、論理的な思考が身に付くように工夫している。</li> <li>・学習の終わりに「？」マークが配置されているため、次時へのつながりをもちやすい。</li> <li>・学年によっては学習内容がページごとに区切られていないが、ページの端に学習の流れが示されている。</li> <li>・第3学年「時刻と時間」では、時間や時刻を求める際に筆算で求めるようになっている。</li> <li>・プログラミングで取り上げられている挿絵の向きが分かりにくい。</li> <li>・2年(上)で、長さの比べ方を話し合っているが、どちらが長いかは、直接比較ですぐに比べられるので、普遍単位を導入する必要性があまり感じられない。</li> <li>・「中学校へのかけ橋」として別紙が付いており、6年生で学んだ見方・考え方を振り返られるようになっている。</li> <li>・立式の際に使う関係図が、表のようなもので表記されていて特殊である。</li> </ul>
-----------------	--

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名 観 点		教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・内容の程度は、その学年の児童の発達の段階に適切している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの視点が明確になるような「はてな」や「だったら」などの吹き出しや、考えを説明したり比較し合ったりする場面が設定されているため、言語活動の充実につながる。</li> <li>・単元末のたしかめ問題に入る前に、内容の確認・振り返り・まとめを行えるページ設定の工夫がされている。</li> <li>・各学年の各単元の導入では、児童にとって身近と感じる場面から問題を設定しているため、児童の興味関心を高める教材になっている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。</li> <li>・各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> <li>・基礎・基本問題及び発展的な問題が十分に設定してある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・デジタルコンテンツの中には、解き方や解答付きの練習問題のプリント(PDF)が盛り込まれているため、活用できる。</li> <li>・特に、基礎的な内容に十分指導時間がかけられるように構成されている。</li> <li>・各章のはじめに前学年の復習ページがあるため、内容に入りやすい。</li> <li>・モデルとなるノートのマスの数がページごとに違うため、指導の際に困ることが予想される。(1・2年生)</li> <li>・学校で使用されているタブレットのカメラでは、本書に載っている QR コードを読み取ることが難しいため、すぐに活用することができない。</li> <li>・巻末の付録が少ないため、付録を活用した数学的活動が少なくなる。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。</li> <li>・ユニバーサルデザインを意識しており、「UD 教科書体」や「カラーバリアフリーのイラスト」などの工夫がある。</li> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> </ul>

2 教科 ごとの 選定の 観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びに向けて、問題解決力を育てていくために、学年始めの単元1～3に、問題発見力、問題解決力、問題追究力に焦点を当てた授業モデルが掲載されている。毎時間の中でも、「はてな・なるほど・だったら」というように問いの連続を意識した構成となっている。</li> <li>・協働的な学びを実現するために、「伝え合い、学びあう学級」を目指すことを意識している。新学期の始めに、授業開きの特設ページを掲載し、児童の知的好奇心を高め、学習の進め方を共有できるように工夫している。</li> <li>・4年生「垂直・平行と四角形」では、写真と地図を見比べさせることで、道路(線)の交わり方へと意図的に着目させることができている。</li> <li>・5年生「単位量あたりの大きさ」では、1枚目と2枚目の挿絵につながりがなく、特に1枚目の挿絵では、単位量あたりの大きさに目を付けることが難しい。</li> <li>・6年「対称な図形」では、線対称や点対称の性質を調べる学習の際に、図形が方眼紙上に配置されているので、長さや交わり方が児童にとって分かりやすい。</li> <li>・6年「対称な図形」では、線対称・点対称の対応する辺や角、頂点を調べる学習が1時間でまとめられているため、児童が混乱する可能性がある。</li> <li>・3年「時ごとと時間」では、単元を通して日常生活に関わりのある問題場面を設定している。また、単元導入時の学習問題と、単元終末時の活用場面の問題に関連性が見られ、児童の学習意欲につながると考える。</li> <li>・2年(上)で、オンライン上でそれぞれ「消しゴム3個分」で長さを測ることで、児童の思考のずれを生み、普遍単位を導入する必要感が生まれる内容となっている。</li> <li>・3年下「小数」の見開き1ページでは、はしたの量の処理のしかたを考えさせるが、あえて1L ますに目盛りは入れず、1L ますの縦を10cmにして載せるなど、児童の主体的な問題解決を促すものになっている。</li> </ul>
-----------------------------	---

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名 観 点		啓 林 館
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・内容の程度は、その学年の児童の発達の段階に適応している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの視点が明確になるような吹き出しや考えを説明したり比較し合ったりする場面が設定されているため、言語活動の充実につながる。</li> <li>・単元末の復習問題では、学習内容と類似した問題→振り返り(見方・考え方)→発展問題(見方・考え方)の流れに統一して場面が設定されている。</li> <li>・各学年の各単元の導入では、数学的事象につなげるための問題設定がされている教材になっている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の分量は、授業時数から見て適切である。</li> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。</li> <li>・各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> <li>・基礎・基本問題及び発展的な問題が十分に設定してある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・デジタルコンテンツの中には、解き方や解答付きの練習問題のプリント(PDF)が盛り込まれているため、活用できる。</li> <li>・特に、基礎的な内容に十分指導時間がかけられるように構成されている。</li> <li>・各章のはじめに前学年の復習ページがあるため、内容に入りやすい。</li> <li>・付録やデジタルコンテンツを活用して数学的活動できる。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。</li> <li>・ユニバーサルデザインを意識しており、「UD 教科書体」や「カラーバリアフリーのイラスト」などの工夫がある。</li> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・1年生の導入が別冊(中綴じ)になっており、書き込みやブロック操作等がしやすい。</li> <li>・GIGA 端末の活用ができるように QR コードと掲載されている内容が書かれており、反復学習(事前学習)で自発的に活用しやすい。QR コードが大きく表示されていて読み取りやすい。</li> </ul>

2 教科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想の推進に向けて、GIGA 端末の活用を促すようになっている。全国学力・学習状況調査等での結果や現場の指導者からの声を踏まえ、児童がつまづきやすいとされる内容には QR コンテンツを配置して、確かな理解が図れるようにしている。</li> <li>・問題把握から解決までのプロセスで児童が働かせる 数学的な見方・考え方を例示するとともに、マーカーを付して強調している。学び合いで深めたいポイントを見える化し、対話的な学びが充実するように工夫している。</li> <li>・道徳教育との 関連、人権・ジェンダー・福祉への配慮の観点から、話しあいを通して学びを深めていく場面を設けるとともに、他者の考えを尊重したり、他者の考えを踏まえて自分の考えを見直したりすることができるように配慮している。</li> <li>・『めあて』と『まとめ』を掲載して学習のねらいや展開を分かりやすく示すとともに、「数学的な 見方・考え方」を明確化し、価値づけるポイントがはっきりとわかるようにしていることで、経験年数にかかわらず一定の授業の質が保たれるように工夫している。</li> <li>・1～2ページで1単位時間の学習が収まっているため、区切りがよく、児童も教師も使いやすい。</li> <li>・4年生折れ線グラフでは、一日の気温の変わり方が温度計を用いて表示されており、折れ線グラフへの導入として、生活とのつながりがより感じられる。</li> <li>・6年「場合を順序よく整理して」では、解決の手数が少ない「組み合わせ方」を先に学習し、その後「並べ方」へと学習を進めている。(他社との違い・啓林館特徴)</li> <li>・6年「対称な図形」では、導入時に取り扱った図形「M」や「N」が単元を通して扱われており、児童の思考に沿っている。</li> <li>・数量の関係を関係図で表しており、それを見ることによって割合や基準量等を求めることができるようになっている。</li> <li>・4年「一億をこえる数」では、導入時に与えられた数値(世界の人口)から位取りがされており、位に着目しやすい。</li> <li>・数図ブロックの色や並べ方が、実際の授業場面と一致しており、教師児童共に問題場面を把握したり、再現したりしやすいようになっている。</li> <li>・2年(上)で、ウサギとリスが「こぶし何個分」で長さを比べることで、児童の思考のずれを生み、普遍単位を導入する必要感が生まれる内容となっている。</li> <li>・2年(上)に「直線のかき方」が記載されている部分で、打った始点から直線を書き始める際、(ものさしの端ではなく)ものさしの途中(10cm の位置)に設定されており、点を打ちやすい方法で示されている。</li> <li>・3年「わり算」では、分けるときに使うお皿の付録や、同様の活動が行えるデジタル教材が用意しており、操作を通じた意味理解につながるよう工夫している。</li> <li>・単元で扱った内容をプログラミングに取り入れており、思考が深まる。</li> </ul>
---	--

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名 観 点		日 本 文 教 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の目標達成に結び付く内容になっている。</li> <li>・内容の程度は、その学年の児童の発達の段階に適切している。</li> <li>・学習指導要領に示す教科及び学年の目標に従い、学習指導要領に示す教科、学年、領域の内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面によって、話し合いの様子をイラストにしているため、言語活動の充実につながる。</li> <li>・各学年の各単元の導入前に既習の振り返りとしての練習問題が設定されているため、新たな単元でも入りやすくなっている。</li> <li>・各学年の各単元導入では、数学的事象につなげるための問題設定がされている教材になっている。</li> <li>・「学び合おう」では、問題解決的な学習の流れが分かりやすく示してあり、学習を進めやすい。また、話し合う活動や説明する活動など言語活動の設定もある。しかし、章ごとの設定ではない。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らし適切に配分されている。</li> <li>・各領域の内容に偏りがなく調和がとれている。</li> <li>・基礎・基本問題及び発展的な問題が十分に設定してある。</li> <li>・1ページに載っている内容量と文字数が多い場合がある。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・デジタルコンテンツの中には、解き方や解答付きの練習問題のプリント(PDF)が盛り込まれているため、活用できる。</li> <li>特に、基礎的な内容に十分指導時間がかけられるように構成されている。</li> <li>・学校で使用されているタブレットのカメラでは、本書に載っている QR コードを読み取ることが難しいため、すぐに活用することができない。</li> <li>・目次や右ページの上段に、領域ごとに色を変えた表記がされており領域の関連が図りやすい。</li> <li>・図形領域の付録が多く、数学的活動はできるが、その他領域の付録が少ない。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷は鮮明であり、字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。</li> <li>・ユニバーサルデザインを意識しており、「UD 教科書体」や「カラーバリアフリーのイラスト」などの工夫がある。</li> <li>・本文、問題、説明文、注、資料、挿絵、写真、図などは、学習を進める上で、関連をもたせて配置され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・1年生の導入が別冊(中綴じ)になっており、書き込みやブロック操作等がしやすい。</li> </ul>

2 教科 ごとの 選定の 観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想の推進に向けてデジタルコンテンツが掲載されている。理解を深めるために見るだけでなく動かすコンテンツも充実している。(5年生 P19)</li> <li>・保幼小の連携のために就学前の活動を振り返り単元への導入を図る工夫がされている。</li> <li>・筋道を立てて考える力や表現力を育てるために、考えた過程や友達の考えなどを書き示した算数ノートのモデルを掲載している。</li> <li>・算数で使いたい見方・考え方を巻末に示し、本文中でも示すことで児童が意識しやすいようになっている。</li> <li>・つながりを大切に単元構成を意識しており、各単元の導入前に「次の学習のために」という既習事項を確かめるページが設定されている。</li> <li>・5年「図形の合同と角」敷き詰め場面、巻末付録に3つの角ごとに印が付いており、3つの角が合わさって<math>180^\circ</math>。つまり、三角形の内角の和が<math>180^\circ</math>であることを捉えやすい。</li> <li>・4年生折れ線グラフでは、一日の気温の変わり方が温度計を用いて表示されており、折れ線グラフへの導入として、生活とのつながりがより感じられる。</li> <li>・6年「対称な図形」では、学習問題となっている図形が複雑であるため、児童にとって理解しにくい。</li> <li>・2年(上)で、長さを「ブロックの何個分」と「消しゴムの何個分」で測っているが、普遍単位を導入する必要感がない。</li> <li>・各学年にプログラミング的思考を育てる内容が掲載されているが、児童の身近な生活場面を題材にしているものの、単元の学習との関連があまりなく必要感がない。</li> </ul>
-----------------------------	---

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

令和六年度使用小学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会(理科)

報告書

令和5年6月2/日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目( 理科 )

部長 南里 幸一



令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について(報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長 豊田 剛 

副部長 中富 太一朗 

委員 倉富 麻衣子 

委員 志田 心平 

委員 根沼 光弘 

委員 黒崎 有耶 

委員 黒川 裕之 

委員 馬場 隆太 

委員 平山 幸二 

委員 印

発行者名		東 京 書 籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の導入で子どもの興味・関心を高める工夫が見られるものもある。</li> <li>・ 5年生で重点的に育てたい条件制御の意識づけは強くない。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見開きに4つの領域を単元の内容を示しながら紹介されている。</li> <li>・ 実験で使う道具が、チェック枠と共に示され、使いやすくなっている。</li> <li>・ 巻末の実験器具説明や理科室諸注意はわかりやすい</li> <li>・ 身近な道具で実験道具を作成されている。</li> <li>・ 前学年までの内容を、振り返る QR コードがついている。</li> <li>・ 問題解決学習の流れに沿っている。</li> <li>・ 「問題をつかもう」→「問題」→「予想」→「計画」→「観察・実験」→「考えよう・考察しよう」→「まとめ」が視覚的に分かりやすく、子ども主体の問題解決学習が進めやすくなっている。</li> <li>・ 「レッツトライ」では、既習学習との関連性がわかりやすく、子どもの体験活動や写真資料の提示などを工夫し、興味関心を高め、問題を見出しやすくなっている。</li> <li>・ 「学ぶ前に」「学んだ後に」というコーナーがあり、単元導入と単元末で同じ問いについて考えることで、子どもが自分の成長を実感できる。</li> <li>・ 単元末に「ふりかえろう」と「たしかめよう」が設定されており、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」の観点で振り返ることができるようになっていてよい。特に「たしかめよう」の中にある「考えよう」では、子どもが学んだことをよりよく確かめることができるようになっている。</li> <li>・ コラムなど SDGs を意識したページがあり、配慮されている。</li> <li>・ 「学び方」の明記によって、子どもが学習の進め方を意識しやすくなっている。</li> <li>・ 5年生の植物の発芽から成長までを、同一の植物で行っており、学習が展開しやすい。</li> <li>・ 単元の流れが、子どもの問題意識の流れに沿って構成されている。</li> <li>・ 単元によっては、子どもが読んで理解するには難しい記述がある。</li> <li>・ まとめの分量が多く感じられ、大切なところが分かりにくくなっている。</li> </ul>
	分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5年生の1学期の容量が少なく、2、3学期の容量が多くなっている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理科の学び方が端的にわかりやすくまとめられているので、教師も子どもも参考とすることができる。</li> <li>・ 教科書の最後に「理科の調べ方を身につけよう」というコーナーが、どの学年にもあり、当該学年で使用する実験器具の使い方や安全面への配慮、ノートの使い方などがわかりやすくまとめられている。そのため、子どもが学習を進めやすい。</li> <li>・ 吹き出しの表記が子どもの思考のヒントになるものが多い。</li> <li>・ 5年「生命単元シリーズ」→「防災(台風・流水)」となっており、学習の流れを通して指導しやすい。</li> <li>・ 堆積のはたらきは区別して指導する流れは、子どもは理解しやすい</li> <li>・ 5年「人のたんじょう」が「植物やメダカの学習」と時期が離れている</li> <li>・ 単元によっては、観察の視点が複雑で難しく、指導しにくい。</li> <li>・ 「予想」「実験」等の見出しが大きくなりすぎていて、学習の流れがつながりにくい。また、そこが強調されすぎていて、内容が入ってきにくい。</li> <li>・ 実験道具の説明が縦長なので、資料としてノート等に貼りにくい。</li> <li>・ 一度に何種類かの実験を同時にしているところもあり、子どもが混乱しそうなところ</li> </ul>

		もある。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 字も大きく見やすい写真が全体的に大きく、細部もよく分かる。</li> <li>・ 漢字にルビがうってあり、配慮されている。</li> <li>・ 単元の導入と実験部分が下地に色がついていてわかりやすい。</li> <li>・ 文字のサイズや書体に配慮が不足している面があり、ページによっては、わかりにくさや読み取りづらさを感じることもある。</li> <li>・ 教科書サイズが大きく、机上がいっぱいになり使いにくい。</li> <li>・ 裏表紙に目次が見にくい。</li> <li>・ 学習の場面ごとの見分けがつきにくい。</li> <li>・ 単元のまとめにある「ふりかえろう」に描かれている絵があまり丁寧でない。</li> </ul>
2	教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ QR コンテンツが、子どもの問題解決を助ける役割として、使いやすく設定されている。1つの問題解決の過程において、「理科ノート」「自然事象等の動画」「話し合いの例」「実験観察のやり方の動画や資料」「考察の場面で考えるためのデジ活」「練習問題としてのつなげる学び」「学んだことを生活に広げるための理科のひろば」の7つのコンテンツがあり、子どもが主体的に問題解決を行うことを助けている。</li> <li>・ 「なんだぼんだ先生」というキャラクターが、問題解決の過程のうち、どこで、どんな「理科の見方・考え方」を使うとよいかを、子どもの思考を助ける言葉で示してあるので、子どもが自ら「理科の見方・考え方」をはたらかせやすい。</li> <li>・ 「理科の世界 たんけん部」が単元末に設定されており、学んだことが生活のどこに生かされているのかが分かりやすい。生活との関連が分かりやすい。</li> <li>・ 「広げよう 理科の発想」で、知識の活用や生活へのつながりを得ることができる。</li> <li>・ 5年「ものの溶け方」では、溶けないもの(片栗粉)も提示しているので「溶ける」の意味が分かりやすくなっている</li> <li>・ 5年「植物の結実」では、ヘチマで実験し、自家受粉の多いアサガオは別実験となっており、人やメダカと比較しやすくなっている</li> <li>・ 5年「天気の変化」の学習は季節に関連した内容であるため、実施時期に検討の余地がある。</li> <li>・ 子供たちの話し合いの様子がマンガのように描かれていて、適切ではない部分もある。</li> <li>・ 単元によって、全体での話し合い(グループ含)を促すような記載が不足している</li> <li>・ 3年「音の性質」の導入のトライアングル検証で、付箋が活用されているが、揺れ方の違いが分かりにくい。</li> </ul>

※「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		大日本図書
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結論に付属して、必要な用語等補足している。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「理科の学び方」のページには、問題解決の過程だけでなく、各学年で重点的に指導する問題解決能力(資質・能力)を分かりやすく示しているため、子どもが自覚して学びを進めていきやすい。</li> <li>・ すべての単元導入の「問題を見つけよう」のページには、見開きで大きく・見やすい自然事象の写真が2枚あり、比較することから問題を見いだせるように工夫されている。</li> <li>・ 4月までに必要な植物の準備が示されており、栽培計画が立てやすい。</li> <li>・ めあてとまとめに一貫性をもたせるように配慮されている。</li> <li>・ 「ココに注目」で、問題解決の過程のうち、どこで、どんな「理科の見方・考え方」を使うとよいかを、子どもの思考を助ける言葉で示してあるので、子どもが自ら「理科の見方・考え方」をはたらかせやすい。</li> <li>・ 理科室や実験器具の使い方は巻末に分かりやすくまとまっており、使いやすい。</li> <li>・ 単元末の振り返るページに、導入の際の疑問に対して、説明を書く場面があり、自分が学んだことが分かりやすい。</li> <li>・ 「中学生になったら」を活用することで理解を深め、中学校への意欲向上へとつなぐことができるようになっている。</li> <li>・ 準備物がQRコードになっているが、文字として明記したほうがよい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見開きに書かれている文字量は適している。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考察のポイントが示されていて、分かりやすい。</li> <li>・ 写真やイラストが子どもの関心や問題を見出す上で使いやすい。</li> <li>・ 巻末のまとめや安全上の留意点がチェックリストになっているので使いやすい。</li> <li>・ その学年で学んだことが最後の方に端的にまとめられている。さらに、次の学年で学習することも端的に書かれており、見通しがもてるようになっている。</li> <li>・ 単元によっては、体験的な活動から問題を見出すことができるように配慮されている。</li> <li>・ QRコードについては、ページごとに資料名も明記され配置されており、動画や実験器具の使い方がとても分かりやすい。また、他学年、他単元も参照しやすくなっており、使いやすい。</li> <li>・ 実験結果の記録を子どもが実際に書いたノートのようなものを載せているので、記録のとり方をイメージしやすい。</li> <li>・ 結論のところの文字が大きめに書かれていて強調されている。</li> <li>・ 大きな写真がたくさん使われているので、分かりやすいし、関心も高められる。</li> <li>・ 実験器具の注意の文字が小さく見にくいいため、注意が払にくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目次が巻頭にあり使いやすい。</li> <li>・ 文字の大きさが、複数用意されており、視覚的な情報はすっきりしている。</li> <li>・ 実験と結果の部分は下地に色がついていてわかりやすい。</li> <li>・ ページ数が多い。</li> </ul>

2 教科 ごとの 選定の 観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察カードの見本や観察のポイントが示されているので、自主学习など、個人の学びで活用しやすくなっている。</li> <li>・ 6年の学習では、環境・自然とのかかわりの中で、より妥当な思考ができるように配慮されている。</li> <li>・ 重点的に育成する資質能力について、既習内容や生活経験を子どもが想起しやすいように、写真等で示しているところがよい。</li> <li>・ 4年生単元「季節と生物」が 7つ(春のはじまり、春、夏、夏の終わり、秋、冬、春のおとずれ)に別れているので、北九州市の気候にあっている。特に、「春のはじまりと春」ではサクラ、「夏と夏の終わり」ではツルレイシが扱われており、北九州市の地域性にあっている。</li> <li>・ 予想、計画、考察の場面で子どもたちが話し合う様子が描かれているので、問題解決の過程を重視し、それぞれに話し合いを位置付けることの必要性が伝わってくる。</li> <li>・ 5年生の「台風の学習」が夏休み前にあり、現在の気象状況にあっている。</li> <li>・ 5年生の学習において、防災の取組についても詳しく紹介されている。(地下貯水池や改正があった災害レベルの紹介など)</li> <li>・ 5年生単元「植物の結実」では、アサガオは自家受粉なので、実験が難しく人やメダカとの比較がしにくい。</li> <li>・ 各学年の表紙の裏にある理科の考え方の漫画について、子どもには必要感がない。</li> <li>・ 5年生単元「流れる水のはたらき」では、実験観察の視点多すぎて、理解しづらい。</li> </ul>
-----------------------------	--

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		学校図書
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ふりかえろう」の内容が充実している。</li> <li>・ 5年生「雲と天気の変化」の学習に関連して、「冬から春へ」という内容があり、冬の天気を扱っているが、指導要領の内容との関連性からするとその必要性を感じにくい。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題解決の具体が示され、教師が意識して子どもに伝えられるようになっている。</li> <li>・ 単元のはじめに、身に付けたい力が明確に示され、既習内容も記載されている。また、単元全体に関わる実験の注意事項が始めの部分に記載されている。</li> <li>・ 考察の際のポイントが明記されていてわかりやすい</li> <li>・ SDGs との関連が分かりやすく示されている。全学年の教科書の裏表紙に SDGs の目標が示されており、教科書の中のページに関連するところには目標のマークが示されている。</li> <li>・ 言語活動の支援のために、話し合い活動の話型の例があり、参考にして話し合い活動ができるようになっている。</li> <li>・ どの学年も教科書 P2、3「理科の世界をぼうけんしよう」において、領域ごとの見方を分かりやすい言葉で示しているところがよい。</li> <li>・ 子どもの問題意識に沿った単元展開になっていない部分も見られる。</li> <li>・ 吹き出しでの会話が長く、問題把握や考察などで視点を紹介しすぎている単元もある。</li> <li>・ 単元によっては、2つの実験を同時に進めているところがあって、子どもの考えが混乱しそうなところもあり、配慮が不足している。</li> <li>・ 考察と分かったこと(まとめ)と一緒に扱われており、わかりにくい。</li> <li>・ 問題・予想と分かったこと・まとめが同じページになっているところがあり、配慮が不足している。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的にシンプルなつくりのページである。</li> <li>・ 文字が少し小さいため、余白は多い。</li> <li>・ ページごとの分量に差を感じる。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ QR コードでは、実験器具の使い方や実験結果を動画で見ることができるとともに、ワークシートがダウンロードでき、デジタル版「ふりかえろう」に取り組むことができるようになっている。</li> <li>・ QR コードが読み取りにくく(色)、何のものか明記されていない場合もあり、分かりにくい。</li> <li>・ 写真や資料には、実物大の大きさも示されていて、実際の大きさを感じやすくなっている。</li> <li>・ 理科室のルールや巻末の器具の使い方が一覧化されており、教科書にチェックできるようになっているので、分かりやすくなっている。</li> <li>・ 「注意」がフォントを変えて強調されて分かりやすい。</li> <li>・ 子どもによっては、理科モンスターを通して、資質・能力を意識化できるようになっている。</li> <li>・ 反面、キャラクターの意図や特徴に関心がもてない子どもへの配慮が不足している。</li> <li>・ 「理科の学び方」が最初にかかっているが、簡潔すぎてわかりにくい。</li> <li>・ デジタル版「ふりかえろう」は子どもが解答したものを教師が確認できない。</li> <li>・ 挿絵の人物がアニメのキャラクターのようである。</li> <li>・ 写真が鮮明さに欠けるところがある。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字の量が多く、文字の大きさも小さい。</li> <li>・ 目次が裏面にあり扱いにくい。</li> </ul>

2 教科 ごと の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年「雨水の流れ」でかたむきチェッカーを作っているのは分かりやすい。</li> <li>・ 5年「流れる水のはたらき」は観察の視点が絞られるので、子どもが理解しやすい。</li> <li>・ 学年によっては、季節に関連した学習において、時期的な配慮に欠けるものがみられる。</li> <li>・ 4年「空気の温まり方」の学習で、空気をあたためる実験がピーカーをアルコールランプで直接、温める実験となっているが、ピーカーが割れる危険性があると考えられる。</li> <li>・ 4年「雨水の流れ」の水のしみこみ方の実験で、植木鉢を使用しているので、土の粒の大きさと水のしみこみ方の関係が見えにくく、分かりにくい。</li> <li>・ 5年植物の発芽の学習で、導入から実験までで植物が変わるため、展開しにくい。</li> </ul>
---	--

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

<別紙様式2> 理科〔その4No.2 1〕

発行者名		教育出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	特記事項なし
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科の見方・考え方を子どもに働かせる場面にポイントでしるしがある。</li> <li>単元全体に関わる実験の注意事項が始まりの部分に記載されている。</li> <li>それぞれの実験に必要な器具の一覧があり、教科書にチェックできるようになっているので準備がしやすくなっている。</li> <li>問題解決の過程が視覚的に分かりやすく、子ども主体の問題解決学習が進めやすくなっている。</li> <li>各学年で主に育てたい力が分かりやすく示されているので、常にその資質・能力を意識して教師も子どもも学習を進められるようになっている。</li> <li>【比べる】や【関係付ける】などの話型を、教科書冒頭で例示しているため、子どもの言語活動で活用しやすく、発表の仕方やノートの書き方について、教師も指導しやすくなっている。</li> <li>子どもの吹き出しの言葉が正解のようなイメージを受けてしまい、子どもが自ら理科の見方・考え方をはたらかそうとしない。</li> <li>単元によっては、子どもの興味・関心を高める問題提示になっていない。</li> <li>コラム、資料のページが少なく、発展的な知識を得にくい。</li> </ul>
	(3) 分量	特記事項なし
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の場面ごとに色分けされており、分かりやすくなっている。</li> <li>全体的に文字が多く、読むことが苦手な子どもへの配慮に欠けている。</li> <li>巻末にその学年で学習したことが端的にまとめられている。</li> <li>裏表紙と巻末の資料に当該学年で使用する実験器具の使い方や安全面への配慮などが分かりやすくまとめている。</li> <li>活動の内容にタブレットやデジカメなどの ICT を主に活用。撮り方のコツも紹介されている。</li> <li>巻末に索引があり、キーワードで学びを振り返ることができるようになっている。</li> <li>QRコンテンツが、他社と比べて少ない。</li> <li>掲載されている写真の中には、学習内容との関連が薄いものや資料として不足しているものがみられる。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的にシンプルなページ内容となっており見やすい。</li> <li>教科書のサイズも小さく、字体も変化が多くとても見やすくなっている。</li> <li>結論の部分の文字が大きめに書かれているのでわかりやすくなっている。</li> <li>写真と教科書の背景がかぶっており、資料が見にくい(特に気象単元)</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災の取組について情報が多く載っている。</li> <li>5年生「植物の発芽」で、実験方法に工夫があり、条件制御がしやすい構成になっている。</li> <li>学年によっては、実験方法や実験結果の見方に課題がみられるものがある。</li> <li>5年生単元「植物の結実」では、アサガオは自家受粉なので、実験が難しく人やメダカとの比較がしにくい。</li> <li>5年「植物の発芽」の学習で、導入から実験までで植物が変わるため、展開しにくい。</li> <li>4年「季節と生き物」の学習における植物がヘチマなので、北九州市の子どもには、ツルレイシの方が馴染みやすい。</li> <li>6年「ものの燃え方」の学習で、集気びんを用いた対流などが確認しにくい。</li> <li>学年によっては、季節に関連した学習において、時期的な配慮に欠けるものがみられる。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名 信 州 教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	・どの学年にも「やってみよう」という発展的な内容があり、子どもの興味・関心を高められる。
	(2) 内容に関する配慮事項	・巻頭に安全面の指導や理科室の使い方が記載されており、安全を意識して学習に臨むことができる。 ・1年間の学習の流れの下に栽培カレンダーがあってわかりやすい。 ・それぞれの実験に必要な器具の一覧があり、教科書にチェックできるようになっているので準備がしやすい。 ・季節に関連した単元であるのに、季節を考慮した時期に実施していないものがある。 ・小3「やってみよう(発展)」の内容が、中学3年生の学習に関連した内容も扱っていて、適当ではない。
	(3) 分量	・学年によっては、1学期の学習内容が多く、配慮が足りない。
	(4) 使用上の便宜	・生き物単元の解説や図の種類が多くわかりやすい。 ・ほとんどQRコードがないので、タブレット活用ができてにくい。 ・強調部分など、字の大きさを変えているが、一部小さい字があり、読みにくい部分がある。 ・長野県での使用が中心であり、例示が北九州には向かない部分がある。 ・実験器具の使い方のページなどがなく、配慮が不足している。 ・写真資料において注目する視点がわかりにくいものがある ・問題が教科書の様々な所に配置されており、子どもの思考のつながりを意識していない。
	(5) 印刷・製本等	・写真が全体的に暗く、鮮明でないので古い感じがして使いにくい。 ・使われている多くの写真が信州地域のものであり、地域性に偏りがある。 ・「もくじ」が裏面で分かりにくい。 ・文字は、見やすいが量が多い。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<p>・巻末にインターネットの動画のQRコードがある。また、動画の尺もあるので計画的に使用しやすいようになっている。</p> <p>・資料のコーナーがあり、より知識を広げられるようになっている。</p> <p>・写真での説明がふさわしい部分が、イラストになっていることがあり、活用しにくい。</p> <p>・学んだことが生活のどこで使われているかについての資料が少なく、生活との関連がうすい。</p> <p>・同じページに「問題、実験、結果」が記述されており、配慮が不足している。</p> <p>・「問題→実験→結果→わかったこと」という問題解決の過程だけで構成されているので、予想や考察をしなくてもいいようにとらえられる。そのため、全体のページ数も他の教科書に比べて少ない。</p>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		啓林館
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	特記事項なし
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「たしかめよう」や「くらしとリンク」、「活用しよう」のコーナーが充実しており、日常生活や社会に生かすよう配慮されている。</li> <li>・まとめノートの例示が子どものふりかえりの参考になるように配慮されている。</li> <li>・導入のページで「思い出そう」というコーナーがあり、子どもがこれからの学習の見通しをもつことができるよう配慮されている。</li> <li>・他教科との関連が取り上げており、学びに活かしやすくなっている。</li> <li>・QRコンテンツによって、単元末のまとめ学習を子どもが自分でできるようになっている。</li> <li>・理科の見方・考え方について、子どもの吹き出しの中で適度に強調され、子どもが理科の見方・考え方を使うことができるようになっている。</li> <li>・実験方法が複雑になっている単元があり、子どもが混乱することが考えられる。</li> <li>・問題解決の流れが縦軸ではなく、サイクルで表されているのでわかりづらい。</li> <li>・他社に比べると、各学年で重視する問題解決の視点が重点的に取り扱われていない。</li> </ul>
	(3) 分量	特記事項なし
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT を活用する際、どんなときに(場面)、何のために(目的)ICT を使うとよいのかが分かりやすく示されている。</li> <li>・それぞれの実験に必要な器具の一覧があり、教科書にチェックできるようになっているので準備がしやすい。</li> <li>・教科書の表紙に QR コードがあり、ここから、全学年のコンテンツを見ることができるので活用しやすい。</li> <li>・安全に配慮するため、文字とイラストのアイコン(「けが」「やけど」「強い光」など)になっていてわかりやすくなっている。</li> <li>・ノートの記述例があり、ノート作りの参考として配慮されている。</li> <li>・導入の写真は大きくてよいが、ほかの写真が小さくわかりにくい。</li> <li>・資料によっては、内容が伝わりづらいものがあり、配慮が不足している。</li> <li>・理科室の利用方法や実験器具の説明で、情報が不足しているものもある。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字は大きく見やすい。文字量もちょうどよい。</li> <li>・冊子のサイズ感、ちょうどよい。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元によっては、導入で子どもに興味・関心を持たせる手立ての工夫がされている。</li> <li>・「もっと知りたい」によって次の学習へのつながりがもてるようになっている。</li> <li>・5年生単元「花から実」から「人のたんじょう」とつながっており、生命領域のつながりで指導しやすくなっている。</li> <li>・単元によっては、考察が詳細に書かれているため、子どもの思考を深められない。</li> <li>・問題解決の過程で必要な予想の場面が無いところが多くなっている。</li> <li>・植物単元(特に3・4年)で、導入の資料がイラストになっていて、子どもが観察するときの視点をもちにくくなっている。</li> <li>・4年「空気のあたたまり方」の学習(P149, 150)において、空気の温まり方を調べる実験として、「暗い部屋で、あたためられた空気に光を当て、スクリーンにうつった光のようすを観察する」という方法は、適切ではない。</li> <li>・5年植物の発芽の学習で、導入から実験までで植物が変わるため、展開しにくい。</li> <li>・学年によっては、季節に関連した学習において、時期的な配慮に欠けるものがみられる。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

令和六年度使用小学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会(生活)

報告書

令和5年6月19日

北九州市教育委員会  
教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目( 生活 )

部長 新森 勝貴 

令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について(報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長 寿野 克俊 

副部長 中浦 佳代 

委員 吉田 幸世 

委員 眞武 美和 

委員 福田 恭子 

委員 山下 あずみ 

委員 甲山 利美 

委員 新里 公健 

委員 印

委員 印

発行者名		東京書籍
観点		
各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の目標に結び付く内容であり、発達段階に適応している。</li> <li>野菜や動植物の世話の仕方や活動のヒント（子どもの吹き出し）などがあり、活動しやすい内容となっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ページの導入に問いと関連するマーク(!・?・♡)があり、「～かな」等の呼びかけで、問題解決的な学習になっている。</li> <li>子どもの思考がページの左から右へうまく流れ、深い学びへと導く構成となっている。スタートとゴールがはっきりとした紙面構成である。</li> <li>板書や掲示物、成果物、振り返りカードなどの学習イメージがつかみやすくなっている。上巻p.34「かんさつずかん」では、学習活動や評価の仕方も例示してあり見通しがもちやすい。</li> <li>子どもの言語活動や感じたことなどを話し合う場面が単元内に細かに配置されているので、言語能力の育成を図りやすい。</li> <li>「すたあとぶっく」は保幼小の関連を意識した内容になっている。</li> <li>「つながる」のコーナーでは、他教科との関連を意識した指導ができる。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>分量は適切である。</li> <li>活動イメージと活動内容のバランスがよい。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>QRコードを使うと、「NHK for School すたあと」や、課題に合った動画が視聴できる。</li> <li>植物を育てる場面で、種から花までの変化が見やすい写真の配置になっている。子どもにとって見通しが立ちやすい。</li> <li>「ほんとうのおおきさ いきものずかん」は、リード線で実物が分かりやすい。</li> <li>上下巻を通して登場する人に一貫性がある。また、イラストで描かれた教師と写真で掲載されている教師が表情も服の色も特徴が同じで、教科書を使う子どもが違和感を感じずに学習できる。</li> <li>QRコードの内容はよいが、教科書の内側にあるQRコードは、コピーをとるかタブレットを外さないと、読み取りにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイズはA4版サイズで大きめだが、見やすく重量的にも軽い。</li> <li>印刷や写真が大きく鮮明で、児童の表情がよく分かり、活動意欲を喚起するものとなっている。</li> </ul>
2教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な活動や表現活動において、ITを含めて多様な学習活動を取り入れた内容になっている。</li> <li>調査にカメラやタブレットをもっていたり、動画で紹介したり、情報機器について、子どもの発達の段階や生活科の特質などに応じて適切に活用できる内容となっている。</li> <li>巻末に「かつどう べんりてちょう」があり、参考にできる活動の仕方や手順がわかりやすく示されている。特に、下巻では、「見つける」「たとえる」「くらべる」や「ためしてみよう」「見通しをもとう」などの活動が子どもの姿で具体的に示され、気付きの質を高める工夫がなされている。</li> <li>下巻p.64「いのちのたび博物館」の写真が取り上げられている。</li> <li>上巻29pの動画で取り上げている植物がアサガオのみに限定されている。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		大日本図書
観点		
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の目標に結び付く内容であり、発達段階に適応している。</li> <li>上巻の栽培活動に花と野菜があるためか、下巻の「おいしくそだってね」は調理に関する内容となっている。栽培活動に関する内容が少ない。</li> <li>1年生の振り返りカードの絵が、発達段階にあっていない。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの疑問や問いがキャラクターにより呼びかけられ、子どもの思考を促し、連続させる工夫がなされ、問題解決的な学習ができる構成になっている。</li> <li>「はなしかためいじん」「ききかためいじん」「せいかつことば」など国語科と関連させたコーナーがある。ワークシートを書く際に、言葉を思いつきにくい子どものヒントになる。</li> <li>上巻の見開きページ右下の「きもちマーク」や子どものふき出しが学習のまとめのようになっているものがあり、子どもの思いや言語表現を引き出す工夫がやや不足している。子どもの思いを表現する自由度が少ない。</li> <li>イラストが多く、一貫性がないため、わかりづらい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>各領域の内容バランスがよく、調和がとれている。</li> <li>全体的に文字が小さく、情報量が多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>虫に関しては、迫力のある写真が多く、子どもの関心を引く。</li> <li>QRコードの栽培学習では、「さいばいめいじん」が一貫して様々なことを教えてくれて、分かりやすい。</li> <li>書き込みのページが多い。ワークシートのデータなどがほしい。</li> <li>切り取りページの取り扱い方が、1年生には難しい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>余白が多く、写真やカードが少ない。</li> <li>下巻p.13のタンポポのわた毛でカラーページ1ページから「春と遊ぼう」という気持ちを引き出すには効果が薄い。</li> <li>写真やイラストが暗く、紙質が良くない。</li> <li>表紙の色調が濃いいため、明るさに欠ける感じがする。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>気付いたことなどをICT等の多様な方法により表現し、考えることを通して、気付きを確かなものとしたり、気付いたことを関連付けたりすることができるような内容になっている。</li> <li>上巻p.10、下巻p.2など、生活科で育てたい力を具体的に示しており、教師にも視点として捉えやすく指導しやすい。</li> <li>上巻p.82のモノクロページは、暗く、子どもの興味関心を引き出しにくく、意図が伝わりにくい。</li> <li>下巻p.70板書のイラストとまちのキラリの人の写真との一貫性がない。</li> <li>スタートブックのページはあるが、全面イラストで構成されているページがあり、写真を効果的に入れたほうがよいページもある。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		学 校 図 書
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の目標に結び付く内容であり、発達の段階に適応している。</li> <li>1年生「わたしのあさがお」の単元は、育てる植物の取り扱いが限定的である。</li> <li>2年生「生きものとともにだち」では、飼育の様子的事例が「ダンゴムシ」中心で、範囲が狭い。下巻p.76で取り上げられている虫の種類については、子どもの身近な生き物の範囲を超えている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に単元に入るなど、幼児教育と小学校教育の接続を意識した内容になっている。</li> <li>上巻p.58の「遊びのルール」が分かりやすい。</li> <li>子どもの思考に対して限定的な呼びかけになっている。</li> <li>家族の単元では、感謝の思いが前面に取り上げられ過ぎており、「できるようになったこと」に気付くような内容が少ない。</li> <li>2年生「作ってあそぼううごくおもちゃ」では、QRコードで作り方を見ることができるようになっているが、丁寧過ぎて子どもの試行錯誤を引き出すことができないような内容になっていない。</li> <li>写真や挿絵の中に、多様性が感じられるものが少ない。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>分量は適切である。</li> <li>各領域の内容バランスがよく、調和がとれている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>QRコードを使うと、「NHK for School」や「政府インターネットテレビ」等専門機関のネットにつながり、多様に学習できる。</li> <li>QRコードに、「かあどのかきかた」もあるが、教科書に載っていた方が参考にしやすいものもある。</li> <li>イラストのタッチが薄く、表情が捉えにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真の子どもの表情が明るく、分かりやすい。</li> <li>表紙が情報が多く、やや見づらい。</li> <li>「ものしりノート」の文字が少し小さく、読みにくさがある。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な活動や表現活動において、多様な学習活動を取り入れた内容になっており、子どもが自分の興味や関心に応じて選ぶことができるようになっている。</li> <li>身近なもの、子どもが取りかかりやすいもの、材料がそろえやすいものが取り入れられている。</li> <li>教師の言葉かけや価値付けが、やや少ない。</li> <li>「はるのページ」が「あそびにいこうよ」にまとめられていて、年間の途中に入り込み、構成が分かりにくい。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	・ 教科の目標に結び付く内容であり、発達の段階に適応したものである。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヒントに「見方を変える」「予想する」などが載せてあり、分かりやすい。</li> <li>・ 下巻の野菜の種類が多く、子どもの多様な思いを引き出しやすい。苗と種子の両方を載せている点も、「どのように育つか？」と子どもに興味をもたせやすい。</li> <li>・ QRコードの動画では、夏祭りや町自慢、名人からのメッセージ等、人が話しており、臨場感がある。</li> <li>・ タブレットや体験、成果物、手紙等、バランスよく多様に紹介している。</li> <li>・ 「わくわくスイッチ」によって、子どもの実態を把握しながら、学習をスタートさせることができるが、導入の仕方とその後の学習展開に工夫が必要である。</li> </ul>
	(3) 分量	・ 分量は適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻末の「学びのポケット」は、思考ツールの提示もあり、他教科との関連が図られている。</li> <li>・ 下巻p.13の植物を育て終わった後の活動として、支柱や鉢の片付け方を挿絵で促して、育てるだけでなく、使った物の後始末をする態度を育む視点になっている。</li> <li>・ 子どもが書いた振り返りカードが、五感を働かせたものになっている。</li> <li>・ QRコードが他社より若干大きく、教科書の端にあり、QRコードを読み取りやすい。</li> <li>・ 野菜の断面写真が鮮明で見やすい。</li> <li>・ 安全に関するイラストが小さく大まかで、読み取りにくい(上巻p.22)</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	・ 1年生と2年生で紙質が異なるため、紙質によって写真の発色がよくないところがある。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下巻p.50のSDGsの点やp.43理科へのまどのコーナーがあり、次の学年への見通しがもてる。</li> <li>・ 「はっけんロード」で思考の流れを示そうとしているが、ページのまとめ方に一貫性、統一感が欠けており、逆に分かりにくくなっている。</li> <li>・ 「まなびポケット」のページ構成上の位置がよくない。</li> <li>・ 見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの活動が見えにくい。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		信州教育出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ある特定の地域の実態や季節の行事を中心とした内容構成になっている。</li> <li>・ 教科の目標達成に結びつく内容というよりは、道徳(徳育)的な内容となっている。</li> <li>・ 見出し(タイトル)が子どもの思いであったり、場所の思いであったり、施設名であったり、一貫性がない。</li> <li>・ 飼育不可能な動物(ヤギなど)がある。</li> <li>・ 領域の内容に偏りが見られる。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見開きページが多く、様々な様子が表現されている。</li> <li>・ 内容の構成や展開が、季節の行事中心となっていて、子どもの思いをつなぐ単元のつながりになっていない。</li> <li>・ 各領域の内容バランスが不十分で、調和に欠けている。</li> <li>・ 子どもの問いがあまり示されておらず、地域の実態にもあっていない。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分量は、適切である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発展的な学習内容かどうか明示されておらず、区別が曖昧である。</li> <li>・ 子どもの書いた振り返りカードが少なく、参考になりづらい。</li> <li>・ 右開き、縦書きである。また、絵が多く、写真が小さい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大きさ(B5)はよい。</li> <li>・ 落ち着いた色合いの切り絵やイラストが中心で、子どもが親近感をもちにくい。</li> <li>・ 写真やイラストの色味が暗い。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ QRコードがなく、またタブレットなどを活用している場面が少ないため、情報機器を適切に活用することができる内容になっていない。</li> <li>・ 草花を食べる活動は、アレルギーへの配慮が必要である。</li> <li>・ 手を洗う等、身支度に関する内容が少ない。</li> <li>・ 本市の実態に合っておらず、自分と地域の人々、社会及び自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動になっていない。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		光村図書出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	・ 教科の目標に結び付く内容であり、発達の段階に適している。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りカードなど、発達段階に沿ったものになっている。</li> <li>・ 上下巻の「ひろがる せいかつ じてん」には、花や野菜の種類が多く、収穫までの課程も載っていて、充実している。</li> <li>・ 下巻p.48どうしたら動くか(「はじく」「ころがす」等)が言葉で示してあるので、子どもにとって試してみやすいものになっている。</li> <li>・ 文字や吹き出しが多く、子どもが具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができにくい。</li> <li>・ 子どもの思考を促す「こんなこともあるかもね」は、印刷の文字ではなく、絵本風の文字なので、親しみやすさはあるが、読みにくさもある。</li> <li>・ 伝え方、まとめ方、調べ方などの技能が取り上げられているが、子どもの思いや気付きの質が高まっていく構成になっていない。</li> <li>・ 下巻p.16の絵地図が立体的に人物を載せているが、煩雑になっており見にくい。</li> <li>・ QRコード(植物の成長の様子)が少なく、活用場面がほとんどない。</li> </ul>
	(3) 分量	・ 分量が多く、1ページ内の情報量が多い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ひろがるせいかつじてん」が別冊で取り外し可能になっている。植物の成長(つながらり)が見やすい。</li> <li>・ 写真は子どもの表情がよいものが多い。</li> <li>・ 下巻p.70に、ICTの具体的な活動が分かりやすい。</li> <li>・ 子どもの思いや願いが見えにくく、書くことに重きが置かれている傾向にある。また、振り返りカードの枠・囲みが印象が固いページがある。</li> <li>・ イラストが全面を占め、写真の取り扱いが小さく見えにくいページがある。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙質が弱く、本が重い。子どもが扱いにくい。</li> <li>・ 上巻「季節のなかまたち」のカラーページが厚すぎて使いにくい。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イラストが特徴的なので、教科書というより、絵本に見える。</li> <li>・ 活動の最後の振り返りのコーナー(教科書の右下)の吹き出しのセリフが、全て「～どんな気持ちになったかな。」という文末になっており、個々の思いを引き出しにくい。</li> <li>・ QRコードがついているが、とんだページの内容がそれほど効果的でないものもある。</li> <li>・ イラストと子どもの活動が合っていない。また、イラストに活動が引っ張られる恐れがある。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		啓林館
観点		
各教科 共通の 選定の 観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標達成に結びつく内容になっており、発達の段階に適応している。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「すたあと ぶっく」が巻頭に付いており、保幼小の関連を意識した内容になっている。「あんぜんにすごそう」の中で、交通安全の動画が充実している。</li> <li>・ 「できるかな できたかな？」のコーナーで、単元の振り返りに結びつく構成になっている。</li> <li>・ 栽培活動における花や野菜の種類が多く、個に応じた内容になっている。</li> <li>・ 下巻、おもちゃづくりの単元が「うごくおもちゃ」から「世界で一つのわたしのおもちゃ」になり、教師によって「何を作ってもいい。」と勘違いされないか、単元のねらいが捉えにくい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各領域の内容バランスがよく、調和がとれている。</li> <li>・ 分量は、おおむね適切だが、少し情報量が多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リード文、吹き出し、写真などが、学習を進める上で、関連をもたせて用意され、学習の深まりに有効に働くように配慮されている。</li> <li>・ 上巻p.34・35では、1つの種子からいくつの種子がとれたかが視覚的に分かりやすい。</li> <li>・ 「わくわく」の部分を導入として、「いきいき」で具体的な活動内容、「ぐんぐん」の部分では全体で学んでまとめる、発展というようになっているので学習の見通しがもてて、分かりやすい。</li> <li>・ 板書がついているが、内容が指導書のようにになっている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小さなサイズで、ランドセルや引き出しに入れやすい。</li> <li>・ 写真や絵は色味がきれいで、見やすく、紙質もよい。</li> <li>・ イラスト(全体的なキャラクター)のタッチにやわらかさが欲しい。</li> </ul>
2 教科ごとの選定の観点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な表現方法を使った、子ども同士の交流の様子が掲載されており、授業づくりのヒントになる。</li> <li>・ 下巻p.41に北九州市立図書館のカード・北九州市立子ども図書館の建物の写真が掲載されており、北九州市の子どもにとって学習意欲が湧くものとなっている。</li> <li>・ 子ども自ら気付いたり、見付けたりしてほしいことが、吹き出しの中に記入しているため、見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの活動が見えにくい。</li> <li>・ 学習場面で「どことなくふうができるかな」という問いかけが、1年生には難しい。</li> <li>・ QRコードで「デジタルたんけんブック」が付いているが、情報量もあり、子どもにとってはやや使いにくい。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

令和六年度使用小学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会(音楽)

報告書

令和5年6月2 / 日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目(音楽科)

部長 酒井 理恵 

令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について(報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長 井上 裕穂里 

副部長 吉田 優子 

委員 中村 千恵 

委員 山口 裕貴 

委員 松井 丹花 

委員 光本 愛美 

委員 湯浅 香織 

委員 印

委員 印

委員 印

観 点	発行者名 教 育 出 版
1 各 教 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽が得意で専門性のある教員にとっては、児童の発想を大切に、題材の楽曲と手持ちの資料を組み合わせ、授業構成できる自由度がある。若年や音楽の専門的指導が苦手な教員にとっては、どのように教材研究をすればよいか分かりにくい。</li> <li>・ 音楽づくりでは、教材の楽曲と関連させているが、内容が難しく、音楽活動が広がり過ぎており、授業時数が増えることが懸念される。</li> <li>・ 「学習マップ」に、ねらいと活動が簡潔に示されている。</li> <li>・ 打楽器の持ち方と奏法が、題材の中や巻末にて写真で示されており、指導しやすい。</li> <li>・ 目次で「<b>我</b>共通教材」の表示があり、把握しやすい。</li> </ul>
共 通 の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻頭に、常時活動のアイデアが掲載されており、音楽を楽しみながら音楽を形づくっている要素を理解し、身につけることができる。</li> <li>・ 題材名に「音楽を形づくっている要素」が含まれており、その題材のねらいをとらえやすい。</li> <li>・ 想像力をかきたてる写真やイラストが掲載されている。</li> <li>・ 音楽活動の例は示されているが、そのねらいが把握しづらい。</li> <li>・ 歌唱共通教材において、ねらいが不明確で、対話的な学びが引き出しづらい。</li> <li>・ 「君が代」のページには、各地にあるさざれ石と国歌の大切さを感じさせるような写真が掲載されている。</li> <li>・ 3年生のリコーダーの学習において、指番号の記載が最初の「シ」にしかなく、児童にとって分かりづらい。</li> <li>・ 巻末のリコーダー運指表には、音名の記載がない。</li> <li>・ 総合的な学習の時間、外国語活動など、他教科との関連が図られている。</li> <li>・ 「さくらさくら」では、箏の楽譜の中に歌詞が載っており、演奏への意欲を高めやすい。</li> <li>・ リコーダーの曲の難易度が高い。児童の習熟に時間がかかることが懸念される。</li> <li>・ 鑑賞曲にスコアがあり、児童の実態にそぐわない。また、情報量が多い。</li> <li>・ 児童の興味・関心を喚起させるような楽曲が多く掲載されている。</li> <li>・ 二部合唱の低音パートの音がとりやすく、指導がしやすい。</li> </ul>
(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽曲の演奏時間が長いと、習得に時間がかかることが懸念される。</li> <li>・ 音楽づくりを丁寧にさせているが、授業時数が増える感がある。</li> </ul>
(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材によって、楽曲数に差があり、指導の見通しが立ちにくい。</li> <li>・ 符頭が小さく楽譜が見づらい。</li> <li>・ 休符の下に「うん」とあり、児童が読譜しやすい。</li> <li>・ 作詞家にふりがながふってある。</li> <li>・ 目次の書き方が教師向けであり、児童にとっては分かりづらい。</li> <li>・ 二次元コードを読み取るとワークシートをダウンロードできる。</li> <li>・ 教材に関する音源データがあるため、家庭学習でも活用できる。</li> <li>・ 歌唱共通教材の写真が美しく、挿絵とともに、一目で分かりやすい。</li> <li>・ 児童に音名を記載させるのであれば、楽譜が小さく、発達段階にそぐわない。</li> <li>・ 折込を広げた右側に楽譜があり、歌いづらい。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 折込のページは机上でスペースをとってしまうため、使いづらい。</li> <li>・ 二次元コードを読み込むと、動画での説明があり、指導しやすい。</li> <li>・ 鍵盤ハーモニカの写真正物が実物大に近い。</li> <li>・ 二次元コードが、指導内容に応じた位置に掲載されている。</li> <li>・ 縦書きの歌詞と楽譜、挿絵が見開き1ページにまとめてあるので、関連付けて指導しやすい。</li> <li>・ 鑑賞教材において、同じ旋律で、楽器の音色の違いを比較しやすい楽曲が選定されている。</li> <li>・ 巻末に「音楽を表すいろいろな言葉」があるので、児童の思いを言語化する際に役に立つ。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表紙がカラフルである。</li> <li>・ 情景写真が美しく、情景を想像しやすい。</li> <li>・ 一つの楽曲に対して写真やイラストが多すぎる。</li> <li>・ 製本は適切。</li> <li>・ インクによって、ざらつきがある部分がある。</li> <li>・ 色味がやわらかくて、美しく見やすい。</li> <li>・ 裏写りがあり、次のページの内容が透けている。</li> </ul>
2 教科 ご と の 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽づくりにおいて、即興表現をする活動が多いが、学びのヒントが少ないため、難易度が高い。</li> <li>・ 思考・判断・表現のよりどころである音楽を形づくっている要素が「おんがくのもと」として右上に表示されている。</li> <li>・ 発想できる児童にとっては、思いや意図をもって音楽的な表現ができるであろうが、特別な支援を要する児童や興味関心の薄い児童にとっては、段階を追って学習することが難しい。</li> <li>・ 歌唱共通教材のほかに、長い間親しまれてきた唱歌、わらべうたや民謡などが比較的少ない。</li> <li>・ リズムが原曲どおり示されている楽曲があり、該当学年の発達段階にはそぐわない内容がある。</li> <li>・ 共通事項を要として、各領域の関連が図られていない。</li> <li>・ 巻末の振り返りのイラスト等が知識理解に結び付きにくい。該当学年で何を学んだかが分かりづらい。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育芸術社
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若年や音楽の専門的指導が苦手な教員でも、教科書のガイドに沿って、授業構成ができる。</li> <li>・ それぞれの楽曲に「見つける」マークと活動指示があり、発問例として参考となるため、若年や音楽の専門的指導が苦手な教員でも、指導しやすい。</li> <li>・ 学習のヒントがたくさん掲載されている。また、段階をふんで音楽活動ができるように工夫されている。</li> <li>・ 発想することを苦手とする児童に対しても、発想の手がかりとなる挿絵があり、音楽活動がしやすい。</li> <li>・ 内容は、適切である。</li> <li>・ 「学習マップ」が、領域別に掲載されており、分かりやすい。</li> <li>・ 目次の左上に共通教材がまとめられているので、把握しやすい。</li> <li>・ 歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞とバランスよく網羅されている。</li> <li>・ 高学年では、冒頭部分に歌唱教材が集中して掲載されている。</li> <li>・ 一つの楽曲で、どのような活動を仕組んでいけばよいのかが明確になっているため、評価しやすい。</li> <li>・ ボイスアンサンブルは、唇や舌の使い方演奏するため、抵抗感なく取り組める。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌詞の内容に合ったイラストの掲載がある。</li> <li>・ 対話的な学びをするためのガイドが吹き出しに表れている。</li> <li>・ 音楽の専門的指導ができる教員でなくても指導しやすい。児童に伝えなければならぬことや、その題材のねらいが掲載されている。</li> <li>・ 系統性が明確で、既習内容を振り返りながら学習できる。</li> <li>・ 知的理解だけでなく、体を動かして実感できるような音楽活動も重視されている。</li> <li>・ リズムと拍の捉えが、分かりやすく掲載されている。</li> <li>・ 音程感覚を養うための、視覚的な工夫がなされている。</li> <li>・ 歌唱共通教材にも音楽を形づくっている要素が示されているため、児童の思考・判断・表現のよりどころとすることができ、教材研究をしやすい。</li> <li>・ 音楽活動の内容が、どの教材でも同じように書かれている。また、詳しく書かれているため、教材研究を深めやすい。</li> <li>・ リコーダーの学習において、音階譜と音名が近くに併記され、指番号もあり、学習しやすい。</li> <li>・ 「ごんぎつね」の楽曲では、国語科との関連が意識されている。</li> <li>・ 巻末の曲は、児童にとって興味・関心を喚起させるような楽曲が少ない。</li> <li>・ 符頭が大きくて見やすい。</li> <li>・ UD フォントの中でも、太字となっており、見やすい。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書だけで、教材研究と授業構成ができる。</li> <li>・ 4年生の1学期は、曲数と学習内容が多い。</li> <li>・ どの題材も、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞などを含んで3～4曲程度にそろっているため、指導の見通しがつきやすい。</li> </ul>

	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学習マップ」や目次の書き方が児童向けであり、どんなめあてをもって音楽活動をしていくのかがイメージしやすい。</li> <li>・ 各題材末に掲載されている振り返りとまとめの文があるため、学習評価をしにくい。</li> <li>・ 折り込んでいるページがないので使いやすい。</li> <li>・ それぞれのページの左側、上部、下部に題材ごとに色がつけてあり、学習が把握しやすい。</li> <li>・ 学びを深めるためのヒント等をキャラクターの吹き出しで記載しているため、児童が思考判断し、表現しやすい。</li> <li>・ 二次元コードが右上に統一されて掲載してあり、児童が読み取りやすい。音源を聴いて練習したり、グループ別学習をしたりする際に、使いやすい。</li> <li>・ 巻末の資料が充実していて、継続して学習に使える。</li> <li>・ 「とんび」では、原曲と異なる記譜になっており、読譜しやすい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学習マップ」の色合いが濃く、文字が見にくい。</li> <li>・ 写真に掲載されている文字が白抜きで見やすい。</li> <li>・ 折りたたむページがなく、使いやすい。</li> <li>・ 製本は適切。</li> <li>・ 楽譜や文字が適度に大きく、鮮明で読み取りやすい。</li> <li>・ イラストの色合いが、良くない。</li> <li>・ 書き込みやすい紙質で、裏写りが少ない。</li> <li>・ 「こいのぼり」は、実際の写真の方が実生活を想起しやすい。</li> <li>・ 「さくらさくら」「もみじ」の景色の写真が美しいので、掲示することにより情景を思い浮かべやすい。</li> </ul>
2 教科 ごと の 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習のヒントから、楽曲を分析し、音楽の見方・考え方を使って、自分の地域の文化を味わう学習へと広げることができる。</li> <li>・ 思考・判断・表現のよりどころである音楽を形づくっている要素が、右側にインデックスのように縦書きで表示されている。</li> <li>・ 二次元コードを読み取ると、タブレット上で音楽づくりができるため、児童が思いや意図に合った表現に向けて主体的に取り組むことができる。</li> <li>・ 「振り返りのページ」では、学習内容や共通事項を示している。教材を基に示しているので分かりやすい。また、見開きにポイントがまとめてあるので共通事項を要として学ぶことができる。</li> <li>・ リコーダー運指表が音名も併記されていて見やすい。また、リコーダーの学習過程がスモールステップで提示されており、本市の児童の実態に即している。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

令和六年度使用小学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会(図画工作)

報告書

令和5年6月19日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目(図画工作科)

部長 外小 典子 

令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について(報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長 寺田 幸哉 

副部長 伊東 保智 

委員 木野田 一馬 

委員 木部 佳乃 

委員 愛甲 レイ香 

委員 田中 健治 

委員 鋪田 直子 

委員 印

委員 印

委員 印

発行者名		開隆堂出版
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の児童の発達や目標に応じて系統的に編成されており、適切である。</li> <li>幼小の連携という視点で、低学年が楽しく活動できるような題材が設定されている。児童の主体的な活動を支える思いが大切にされている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めて学習する用具の使い方について、発達段階に応じた配慮が適切になされている。</li> <li>生活との関わりを感じられる題材があり、児童が自分の活動と地域が繋がっていることを意識できるようにされている。</li> <li>ICT活用について、他教科の単元で扱うマイコンボード等を用いた、教科横断的な題材が設定されている。</li> <li>ICTの活用内容が、難しすぎず、児童が無理なく取り組むことができる内容になっている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の題材数、教科用図書の分量(ページ数)は、児童の発達の段階に準じて適切なものになっている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>QRコードを用いて、導入の動画「はじめに」、参考作品、鑑賞カードなどが系統的に提示されている。また、用具の使い方を、動画を使って紹介している。</li> <li>巻頭に、1年間の活動内容を見通すことができるようにされている。また、表紙にある各学年の題名にちなんだ内容についてクリエイターの言葉などとともに取り上げられている。</li> <li>「合わせて学ぼう」では、他教科との横断的な学びが意識付けされている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルフォントが使われていて、見やすい紙面になっている。</li> <li>教科書体と丸ゴシック体が使われていて、柔らかい印象がある。</li> <li>カラーユニバーサルに配慮されている。</li> <li>色合いが抑えめで、目に優しい。</li> </ul>
2 教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>工作の題材数と、絵や立体に表すことの題材数のバランスがよい。</li> <li>「つながる造形」が特設され、生活や社会の中の形や色などに関わる内容が提示されている。</li> <li>3観点について、キャラクターを使って、分かりやすく提示されている。言葉に色を付けたり、下線を付けたりされており、題材ごとに大切にしている部分が強調されている。(言語活動の充実)</li> <li>写真に、児童のいきいきとした表情が多く掲載されており、児童の興味関心を高め、意欲的な活動につなげることが狙われている。</li> <li>SDGsについては、5・6年上「地球まるごとたからばこ」などで、自然とともに生きることや世界・社会とつながることなどについて価値付けがされている。また、材料にも配慮され、ストローがプラスチック製から紙製になっていたり、造形遊びで使った材料を次の工作の材料になるような配列になっていたりする。</li> <li>5・6年下「ためして刷って広がる思い」では、スチレン版画に限定した活動にすることで、児童にとって表現の見通しを持ちやすい内容になっている。</li> <li>3・4年下の木版画では、初めて彫刻刀をもつ児童の発達段階に合った作品例を示している。</li> <li>粘土の題材では、各学年の発達段階に応じ、段階を追って、具体的なものから抽象的なものに移行していく内容になっている。技能的にも、系統的に編成されている。</li> <li>鑑賞の題材で、QRコードを用いて提示される作品は、鑑賞対象の作品ではなく、そこから発展的な活動で表された児童の作品であり、鑑賞対象の作品をタブレットで拡大してみることはできない。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		日本文教出版
観点		
1 教科 共通 の 選定 の 観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の児童の発達や目標に応じて系統的に編成されており、適切である。</li> <li>学年によっては発展的な作品例の掲載も見受けられた。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>3観点について、各題材の目標が書かれている。</li> <li>生活との関わりを感じられる題材があり、児童が自分の活動と地域が繋がっていることを意識できるようにされている。</li> <li>児童がどのような言語活動をどのように行えばよいかというヒントになるような内容が提示されている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の題材数、教科用図書の分量(ページ数)は、児童の発達の段階に準じて適切なものになっている。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>QRコードを通して、参考作品を360度回転させながら見ることができる。また、詳しく見たい部分を拡大して見ることができる。用具の使い方について、動画で紹介している。</li> <li>題材によっては、QRコードの情報が児童にとって多すぎる傾向にある。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルフォントが使われていて、見やすい紙面になっている。</li> <li>カラーユニバーサルデザインに配慮されているが、吹き出しの緑が濃く多く使われすぎているため、一度に目に飛び込んでくる情報量が多く感じられる。</li> <li>すべてにゴシック体が使われていて、紙面の印象が固い。</li> </ul>
2 教科 ごとの 選定 の 観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>工作の題材数と、絵や立体に表すことの題材数のバランスがよい。</li> <li>SDGsについては、3・4年下「資源を大切に作る心を育てる」のページで限られた資源を大切に使うことを価値づけている。また、6学年全体で、プラ材使用を70%削減している。片付けに関しても、ページに掲載することで、繰り返し材料を使うことを意識させている。</li> <li>3・4年下では、光を使った題材について、鑑賞から入り作品化するところまでを意識させる内容になっており発達段階にあっている。</li> <li>どのように学習を進めたらよいか分かりやすく提示されている。また、教師がもつべき視点について気付かされるような裏表紙になっている。</li> <li>5・6年上「光と場所のハーモニー」や「ICTでチャレンジ」では、プログラミングを使った表現が紹介されているなど、ICT活用が重視されている。</li> <li>のこぎりの使い方について、児童がポイントを押しえやすいように擬音語を使って表現するなどの工夫がされている。また、クランプと万力を並べて紹介するなど、用途に応じてどんな用具を活用すればよいか捉えやすい内容になっている。その他の用具についても、説明が分かりやすい。</li> <li>5・6年に、「思い出そう表し方の工夫」のコーナーを設定し、既習の表現を想起できるようにされている。</li> <li>各学年に「図工の見方」というページが設定され、色や形に目を向けて味わうことができるようになっている。学年に応じて、系統立てて見るときの視点を提示されている。</li> <li>「広がる図工」を特設しているが、題材の途中に出てくるので、扱いにくさを感じられる。</li> <li>釘打ちの題材では、立体に表す活動を個人で行うことで、釘打ちに慣れ親しみながら技能を身に付けられるよう配慮されているが、児童の発達段階を考えると、活動の意欲に個人差が出る可能性がある。</li> <li>3・4年下の木版画の題材では、初めてもつ彫刻刀で、面彫りを多用している作品も紹介されている。ただ、時間数を考慮すると、取扱が難しい。</li> <li>表紙の作品の取り扱いに一貫性がない。(題材のページに取り扱われていない学年もある。)</li> <li>5・6年上巻末の「ミニ・アートカード」は拡大できない。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

令和六年度使用小学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会(家庭)

報告書

令和5年6月2/ 日

北九州市教育委員会  
教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目( 家庭 )

部 長 中尾 みどり 

令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について(報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副 部 長 白井 由紀子 

副 部 長 大塚 京子 

委 員 岩 男 佳子 

委 員 隠 崎 亨子 

委 員 花 島 翠 

委 員 渡 辺 洋子 

委 員 印

委 員 印

委 員 印

委 員 印

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標達成を目指すために学習の流れが、全ての題材の初めに「1・2・3ステップ」で示されているので達成を目指しやすい。</li> <li>・ 児童の発達段階を考慮し、題材最初の導入写真が、児童の学習意欲を高められるものになっている。</li> <li>・ 「いつも確かめよう」の資料3「身支度の仕方」の写真については安全、衛生を十分に満たしている。</li> <li>・ 小学校教育課程では、P68に記載している「織ったり編んだり」の表記を太字にする必要はない。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科との関連を端的に示している。(表紙裏面)</li> <li>・ 全体的に学習課題、ねらいがぶれず、明確に把握させるための発問が工夫されている。</li> <li>・ 「成長の記録」が見開きで1ページあり、書き込み式になっているため自分の成長を自覚して、実践する喜びに気付くことができるようになっている。</li> <li>・ 「衛生・安全に気をつけて実践をしよう」が前面に掲載されていて、手の洗い方など写真付きで分かりやすい。</li> <li>・ アレルギーに対する安全・衛生面での配慮がある。</li> <li>・ 「ためた水で洗う」さらに「流水で洗う」など、丁寧に示されている。</li> <li>・ じゃがいもの皮むきや、芽の取り方の仕方は、写真が大きく示されており、見やすい。</li> <li>・ 「11 夏をすずしくさわやかに」「14 冬を明るく暖かく」の2つの題材が同一学年内で指導できるため、児童の思考が連続しやすい。</li> <li>・ 「整理・整とん」「掃除の仕方」を、同一題材で指導するため、児童の思考が連続しやすい。</li> <li>・ 作品例が魅力的で、児童が主体的に「作りたい」という意欲を持たせ、関心意欲を高めやすい。</li> <li>・ 写真と動画があり、右利き左利きもあるため、個に応じた指導に生かしやすい。</li> <li>・ 「青菜の茎がしんなりしたら」の表記があるが、茎のしんなりした状態は分かりにくい。</li> <li>・ 青菜のゆで時間の資料が明記されているが、ゆで時間が「2分」と明記するのは時間に惑わされ、状態を見る意識が低下しやすい。</li> <li>・ 児童の問題発見を促す問いかけが焦点化しすぎているため、児童自ら課題発見させる配慮が不足している部分もある。</li> <li>・ 「匂」や「色どり」「地産地消」などの説明大がきく取り上げられている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材を組み合わせるなどして、コンパクトな題材構成になっている。</li> <li>・ 1ページあたりの内容量が多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガイダンスが目次と一緒に見開きで確認できてわかりやすい。</li> <li>・ 安全・衛生など、巻頭近くに家庭科を学ぶ上でのポイント「いつも確かめよう」が載っていて学習が深まりやすい。</li> <li>・ ICTや防災、環境などの配慮事項がちりばめられており、家庭との違いに気付いたり、自ら発見しやすくなっていたりと、学習の深まりに有効になるよう配慮されている。</li> <li>・ デジタルコンテンツを大きく表示し、コンテンツ内容も明示しているため、指導者も児童も必要に応じたコンテンツを探しやすい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタルコンテンツが多く、学習が深まりやすい。</li> <li>・ 発展的な項目について、「発展マーク」の説明で、児童が学習しなくてもよい内容であると明示されているので、指導者が混乱しない配慮がされている。</li> <li>・ 「家庭科の窓」の枠が6つになっているが、見方・考え方が4つの視点であるため、わかりづらい。</li> <li>・ 日本語英語クイズは、指導すべき指導要領とは関係がない。</li> </ul>
(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙の質はつるつるして触り心地がよい。</li> <li>・ A4判になっているので取り扱いやすい。</li> <li>・ 資料ページの写真や挿絵がきれいで丁寧である。</li> <li>・ 安全面の注意など紙面にゆとりがあり、色使いがよいので目立ちやすい。</li> <li>・ 調理手順の写真では、「沸騰」の様子がわかりやすい。</li> <li>・ 紙面が白っぽく明るすぎる。</li> <li>・ 全体的にバラバラと色がついているので、学習の流れのまとまりが掴みにくい。</li> <li>・ 青菜をゆでた後のゆで汁の色が無色透明で不自然。</li> </ul>
2 教科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎ページのQRコードがよい。</li> <li>・ PDCAの学習の流れがサイクル表示になっており、「改善」からの「実践」に戻るイメージが持ちやすい。</li> <li>・ 「生活を変えるチャンス+」を大きく取り上げることで、「家庭での実践」につなげる意識を高めることができる。</li> <li>・ 防災の視点「地震が起こった時」があるのがよい。</li> <li>・ 題材の終わりに「成長の記録」に戻れるようP6・P7へのリンクをさせていることで、児童が自分の学びを振り返りやすい。</li> <li>・ 1本どり、2本どりの仕方や、説明が分かりやすい。</li> <li>・ 5年生のまとめがガイダンスと対応しているので学びが深まりやすい。</li> <li>・ 巻末資料にリンクをさせることで、写真等を活用して確認しやすい。</li> <li>・ 地下（根菜類）と地上（葉物）の野菜の育つ場所による違いが分かりにくい。</li> <li>・ 青菜のいためもの「ほうれんそう」を使う必要があるのか。シュウ酸を減らすためにゆでてから炒めるのがよいのでは。または、小松菜のみでもよいのでは。（P90）</li> <li>・ 調理学習での、広告等で作ったごみ箱を使用したごみ削減などのSDGsの観点が不足している。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		開 隆 堂 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	<p>(1) 内容の範囲及び程度</p> <p>(2) 内容に関する配慮事項</p> <p>(3) 分量</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持続可能な社会、SDGsの視点が巻頭に明示され、関連ページを示しているのわかりやすい。</li> <li>・ 目次が見開きになっているのわかりやすい。</li> <li>・ ソーイングの課題を最初のページに載せているのでよい。</li> <li>・ 整理・整とんと掃除が別の題材になっているため、より詳しく丁寧になっている。</li> <li>・ 整理・整とんの学習で、重いものは下に置くなど、より生活に即した防災の視点が明示してあり、学びが深まりやすい。</li> <li>・ SDGs17の目標が適宜題材に割り振られているが、指定されたページを開いた時に、目標が表示されておらず、意識を継続しにくい。</li> <li>・ 巻末の「安全と衛生に気を付けて実習しよう」は巻頭、または題材初めに挿入していると、指導で押さえやすい。</li> <li>・ 防災の視点が、小学校の指導範囲を超えている。</li> <li>・ 全体的に内容・補足が多く45分間での授業が難しい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 快適な住まい方の学習を5年生と6年生の2年間に分けて指導することで、児童の意識が持続しやすい。</li> <li>・ 学習の進め方では、主体的・自発的な学び方を大切にした提示の仕方をしており、子どもたち自ら課題発見をしたり学びを深めたりする仕組みになっているため、問題解決的な学習につながりやすい。</li> <li>・ 野菜の洗い方を写真付きで丁寧に示している。</li> <li>・ 材料の量感を捉えやすい。</li> <li>・ じゃがいもの取り扱いについて「日光が苦手であること」「保存方法の留意点」を写真付きで明記しており、安全・衛生面での配慮がある。</li> <li>・ ボタンのつけ方の手順を細やかに提示しており、児童が必要などころを見返すのに丁度よい。</li> <li>・ 題材の最初に提示している写真を順序良く見れば、学習の流れや課題を見付けるヒントが分かるものもある。</li> <li>・ 上糸を青、下糸を赤にするなど、ミシンの仕組みが視覚的に捉えやすく、一貫性を持ってユニバーサルデザインを意識している。</li> <li>・ 「旬」や「色どり」などの説明が、ステップ3(生かす・深める)に出ている。</li> <li>・ 今後の実生活で起こりうる諸問題について提示し、児童がより自分事として捉え、問題解決できるように配慮されている。</li> <li>・ 作品例が実寸大の写真で分かりやすく、児童がイメージを持ちやすく作りたくなるような工夫や配慮がされている。</li> <li>・ 各教科との関連を示したガイダンスが、イラスト中心になっており、場面が固定され、思考が広がりにくい。</li> <li>・ 学習の進め方が一方向に矢印で示されており、PDCAサイクルを意識しにくく、「評価」「改善」ではなく「振り返り」でとどまっている。</li> <li>・ 日本語英語クイズは、指導すべき指導要領とは関係がない。</li> <li>・ 裁縫の糸を引っ張るときの手と針の向きの写真は示されているが、安全への配慮が不足しているため明確に伝わりにくい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1ページあたりに記載する事項が多く、資料集のように分量が多い。</li> <li>・ 題材途中から次の課題として「考えよう」が出ていて内容が多すぎる。</li> </ul>

	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活の見方・考え方の4つの視点が四つ葉のクローバーの形になっていて視覚的にわかりやすい。</li> <li>・ 包丁の渡し方など題材に必要な技能や、安全面に対する配慮事項が、そのページに示されているため、指導に生かしやすい。</li> <li>・ 児童が考えて書き込みができる枠があり、指導しやすい。</li> <li>・ 発展的な項目について、「発展マーク」で児童が一律に学習するものではないと明示しているので、指導者が混乱しない配慮がされている。</li> <li>・ 国際理解への配慮がなされている。</li> <li>・ デジタルコンテンツが多い。触って動かす動作コンテンツが、学習活動の各要所に細かくあり、ダイレクトに確認しやすい。</li> <li>・ 全ページに「豆知識」が掲載されており、「なぜ実というのか」「なぜ、米を研ぐのか」「ほつれるとは」など、児童の興味関心が広がりやすい。</li> <li>・ 題材の数の多さを感じさせない紙面上の見やすさ、題材で使用する色の一貫性・構成の丁寧さがある。</li> <li>・ 巻末にある「用語」と「資料」の索引が便利である。</li> <li>・ 整理・整とんの学習では、活動後の写真が小さく、観点に気付きにくい。</li> <li>・ 「発展マーク」が青で枠囲み(P65)している箇所もあれば、していない箇所(P77)もあり、統一されていないために混乱を招きやすい。</li> <li>・ 日本語英語クイズは、指導すべき指導要領とは関係がない。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AB判からA4判に補正され、見やすくなった。</li> <li>・ レイアウトや配色が見やすいので、実習の流れがわかりやすい。</li> <li>・ 食品分類表が見やすく、製本の仕方の工夫がされている。</li> <li>・ 写真に児童が魅力を感じにくい。</li> <li>・ 人物のイラストのタッチに統一性がない。</li> <li>・ 再生紙なのか肌触りがザラザラしており、感覚過剰等の児童が集中できない可能性がある。</li> </ul>
2 教科 ご と の 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎ページのQRコードがよい。</li> <li>・ 青菜のおひたしは根元を切りすぎないように写真と言葉で丁寧に説明しており、環境の視点到十分に留意している。</li> <li>・ 地下(根菜類)と地上(葉物)の野菜の育つ場所による違いが分かるようになっている。</li> <li>・ 玉結び・玉止めを用いた作品例が多いのがよい。</li> <li>・ 生活の課題と実践例の具体例が多く、児童の実践意欲が高まりやすい。</li> <li>・ 生活の中のプログラミングの紹介がされている。</li> <li>・ 裏表紙に切り方と大きさの目安に物差しが目盛りがあるのはよい。</li> <li>・ 各題材の学習のめあてが具体的に3ステップ・4観点で示されている。</li> <li>・ キャラクター(クローバー)の位置づけは理解できるが、カラフルうさぎの位置づけが理解しにくい。</li> <li>・ 調理学習での、広告等で作ったごみ箱を使用したごみ削減などのSDGsの観点が不足している。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

令和六年度使用小学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会(保健)

報告書

令和5年6月21日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目( 体育 )

部長 三原 達也 

令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について(報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長 森田 元一郎 

副部長 浦橋 一将 

委員 小島 誠二 

委員 井田 勇貴 

委員 桑園 仁美 

委員 堀内 輝 

委員 梶原 毅裕 

委員 竹治 宏泰 

委員 印

委員 印

発行者名		東京書籍
観点		
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	○教科の目標達成に結び付く内容であり、学習指導要領の内容を不足なく網羅している。 ●書き込む内容が指導要領には結びついているものの、記入する内容のレベルがやや高い。(理由や考えを記述する設問が多く、児童の負担が大)
	(2) 内容に関する配慮事項	○課題提示の前に「気づく・見つける」段階の内容があるので、課題意識が高まる。 ○学習の進め方が4段階のステップでまとめられており、系統的・発展的な指導が充実できるように配慮されている。 ○「スキルマーク」により、日常生活へのつながりが意識されている。 ○SDGsとの関連性を明記しており、児童の興味・関心を生かしやすい。 ○書き込みできるページが多く、教科書のみで学習を進めることができる。 ○他教科、他学年の関連性が記載されている。 ●グラフや表の掲載が、やや少ない。
	(3) 分量	○ページ数は適切である。(5・6年生:77ページ、3・4年生:45ページ) ○全体の分量は適切であり、内容に偏りなく調和がとれている。 ●書き込み式が多く、一単位時間の中で書く活動が多く、児童の負担になる。 ●一単位時間に取り扱うページ数が多い。
	(4) 使用上の便宜	○章のはじめに学習の進め方が明記されており、学習の深まりに有効に働くように配置されている。 ○多様性のあるキャラクターを使用しており、ユニバーサルデザインや配色などにも配慮されている。 ○資料が多く掲載されており、発展的な学習へと活用しやすくなっている。 ○文節改行で文章が読み取りやすくなるよう配慮されている。 ●各学年の学習したことのとまとめるページがない。 ●随所にQRコードが配置されているが、学習内容を補完したり、深めたりするために有益なものになっていない。 ●目次に記載されている項目の数と配当時間に差異があり、使いづらさを感じる。
	(5) 印刷・製本等	○大切な言葉・用語が太字で強調されている。 ○印刷が鮮明であり、イラストの色も工夫されていて適切である。 ●QRコードがページの境目に配置されており、読み取りにくい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	○ステップ3「深める・伝える」によって意図的に主体的・対話的な学びを促す内容構成となっている。 ○身近な生活の例が多く取り上げられており、自身の健康・安全について考え行動する資質や能力を育成することに適している教材である。 ●中学年において学校給食に関する指導との関連が明確になっていない。 ●5年「不安やなやみへの対処」の軽い運動の解消例が一人で行う運動のみなので、複数人で対話しながらできる体ほぐしのねらいに資する運動の例示がない。 ●5年「けがの防止」、6年「生活習慣病の予防」では、2単位時間分が続けて表記されているため、指導しづらい。	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		大日本図書
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	○教科の目標達成に結び付く内容であり、程度は児童の発達段階に適している。 ○学習指導要領に示す内容及び内容の取扱いに関する事項が、適切に配置されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	○SDGsとの関連性を明記しており、児童の興味・関心を生かしやすい。 ○「つかもう」が児童の問いを引き出すような内容となっている。問題解決的な学習が重視されており、自主的・自発的な学習が促されるように配慮されている。 ○単元ごとに振り返りのページがあり、学習のまとめができる。 ○他教科、他学年の関連性が記載されている。
	(3) 分量	○ページ数は適切である。(5・6年生:69ページ、3・4年生:45ページ) ○見開きで内容が完結するので学習しやすい。
	(4) 使用上の便宜	○健康に関する課題を解決する学習活動が多く設定されており、学習の深まりに働くように配置されている。 ○学習の進め方が「つかもう」「話し合おう」「活かそう」の流れではっきり示されており、学習を深めやすい。 ●折り込み式のカードは、扱いづらさを感じる児童が多いと予想される。
	(5) 印刷・製本等	○文字が大きくて見やすい。 ●1つ1つのイラストが小さい。 ●大切な言葉・用語が下線、ゴシック等で強調されていない。 ●1ページあたりの紙が厚く、めくりにくい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	○5年「不安やなやみへの対処」の軽い運動の解消例が集団で行うものがあり、対話しながら活動できる例示がよい。 ○視覚的に学習させたい内容が、「ウェブ」として一つのQRコードでまとめられており、活用しやすい。 ○「課題をつかむ」、「話し合う」、「活かす」の流れで保健の学習内容を適切に網羅している。小学生がつまづきそうな単語に対して、丁寧な解説、説明がある点が良い。 ●5年「心の健康」「けがの防止」・6年「病気の予防」での「活かそう」の場面ではイラストがあるほうが想像しやすく、自分の考えを書きやすい。	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		大修館書店
観 点		
各 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	○教科の目標達成に結び付く内容構成で、授業時数に対して適切である。 ○学年児童の発達の段階に適応した指導展開になっている。
	(2) 内容に関する 配慮事項	○多様性・個性が尊重されるようなイラストが使用されている。 ○单元ごとに振り返りのページがあり、学習のまとめができる。 ○「課題をつかもう」では、身近な生活体験を例に、基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習が重視されている。 ○他教科、他学年との関連性が記載され、系統性や発展性がわかりやすい。 ●児童が書きこむ欄が少なく、ノートとして活用することは難しい。 ●個に応じた配慮がなされていない記述欄がある。
	(3) 分量	○ページ数は適切である。(5・6年生:73ページ、3・4年生:49ページ) ●図の挿入が多く、文章の量がやや少ない。
	(4) 使用上の便宜	○グラフや表(数)がわかりやすく表記されていて、データの比較がしやすい。 ○单元の最終ページにまとめクイズ(QR)が知識・技能の定着を図りやすい。 ○体に合った運動を紹介するページがあり、運動領域との関連を図ることができる。 ●学習の進め方「ステップ1・2・3」と学習活動「調べよう」「話し合おう」「考えよう」の表記が混在していて、使いにくい。
	(5) 印刷・製本等	○大切な言葉が太字などで強調されている。 ○写真が大きく豊富で、見やすい。 ○目次が大きく、学習の見通しがもちやすい。 ●フォント(字体・大きさ)が混同していて、読みづらい。
2 科 ご と の 選 定 の 観 点	<p>○学習内容は身近な生活における健康・安全について考えることから始まっており、自己の課題を見つけ、その解決に向けて思考し、判断する力を養う内容となっている教材である。</p> <p>○5年「心の健康」不安や悩みの対処方法③④は、「まずやってみる」→「学習」という学習の流れがあり、実習を重視し自己の課題解決に向けて思考し判断する学習活動ができるようになっている。</p> <p>○6年「禁煙の害」肺の資料だけでなく、歯や血液量の変化の写真もあり、分かりやすい。</p> <p>○6年「病気の予防」新型コロナウイルス感染症についての資料では、コロナウイルスの情報だけでなく、感染症に関する差別をなくすという視点も明記されている。</p> <p>●教科書だけの学習が難しく、別途評価のための学習プリントを用意する必要がある。</p> <p>●5年「不安や悩みへの対処」軽い運動での解消例が1人で行う運動のみなので、複数人で対話しながらできる体ほぐしのねらいに資する運動の例示がない。</p> <p>●6年「生活習慣病の予防①②」では、2単位時間分を6ページで記載されているため、指導しづらい。</p>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名 文 教 社
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	○教科の目標達成に結び付く内容であり、学習指導要領の内容を網羅している。
	(2) 内容に関する配慮事項	○体験、活動・実習などは、図や写真などで分かりやすく示されている。 ○单元ごとに「わたしの○○宣言」のページがあり、学習のまとめと自己目標設定ができる。 ●学習のめあてを提示する前に「つかむ」内容があれば、課題意識が高まる。 ●発展的な内容に関する記述が少ない。また、デジタルコンテンツが少ない。
	(3) 分量	●5・6年生のページ数が、多い。(5・6年生:83ページ、3・4年生:37ページ) ●資料の分量が一単位時間分にしては多い。 ●書き込み欄が少なく、資料のみのページもあることから、主体的に課題に取り組みにくい。
	(4) 使用上の便宜	●「mission」「stage」「episode」「もっと考えよう課」等の語句は、児童がとまどうことが想定される。 ●教科書の使い方がはっきり示されていない。 ●書き込める部分が少なく、自分の考えや学びを記録できない。
	(5) 印刷・製本等	○色合いは、鮮やかである。 ○文字が大きく、太字で要点が示されている点はよい。 ●写真(特に大きなサイズ)は、鮮明さに欠ける。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<p>○4年「体の発育・発達」においては、エクセルを用いて個々の身長伸びを計算できるようになっている。</p> <p>○5年「不安やなやみへの対処」の軽い運動での解消例が集団で行うものが掲載されており、対話しながら活動できる例示がよい。</p> <p>●学習指導要領の表記に準拠していない。(正→けがの手当、誤→けがの手当て)</p> <p>●内容は網羅しているが、学習の導入場面で、自分の課題としてとらえるための記入欄(書き込み欄)がないなど、予想して伝え合って答えを導き、再度、深めるという主体的、対話的で深い学びに向かう学習が行いにくい。</p> <p>●3年「けんこうによい生活かんきょう」で新型コロナウイルスの対策についての記載があるが、内容が現状に則していない。</p> <p>●6年「病気の予防」新型コロナウイルス感染症について記述されていない。</p>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名 光 文 書 院
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	○教科の目標達成に結び付く内容構成で、授業時数に対して適切である。 ○学習指導要領に示す内容及び内容の取扱いに関する事項が、適切に配置されている。
	(2) 内容に関する 配慮事項	○SDGsとの関連性を明記しており、児童の興味・関心を生かしやすい。 ○グラフや表の数が、豊富である。 ○他教科・他学年との関連を分かりやすく示しており、系統的・発展的な指導ができるよう配慮されている。 ○単元ごとに振り返りのページがあり、学習のまとめができる。 ○書き込み欄が豊富にあり、言語活動の充実について配慮されている。 ○5つのステップで自主的・自発的な学習を促す内容となっている。
	(3) 分量	○少ないページ数で、内容がまとめられている。(5・6年生:65ページ、3・4年生:41ページ) ○見開きで内容が完結するので、学習しやすい。
	(4) 使用上の便宜	○イラスト等がふんだんに使われており、親しみやすい。 ○章ごとに4コマ漫画が掲載されており、ねらいをつかませやすくなっている。 ○基本的に1単元が見開きでまとめられていて使いやすい ●デジタルコンテンツのQRコードにアクセス先の情報が明記されていない。また、アクセス先がコード毎に独立しておらず、活用しにくい。
	(5) 印刷・製本等	○文字や挿絵が鮮明で見やすい。 ○文章や写真等の資料との間が広めのスペースが確保されているため、見やすい ●文字や写真のサイズが小さい部分がある。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<p>○健康について自己の課題に気付かせ、解決に向けて思考できるように構成されている。また、「広げよう、深めよう」のコーナーで発展的な内容についても、学習内容と関連して活用できるように配慮されている。</p> <p>○3年「けんこうな1日の生活」のイラストなどで、ジェンダーバイアスに配慮がみられる。</p> <p>○4年「性についての悩み」に相談窓口へのQRコードが具体的に記載されている。</p> <p>○5年「心の健康」において、「自分と人との距離感」についても記載があるなど、より身近な生活に生かせる内容となっている。</p> <p>○6年「生活習慣病の予防」飲酒の量について、自分の考えを記入する欄があって学習に取り組みやすい。自分の考えを書く欄と理由を書く欄が分かれており、児童は書きやすく教師も評価しやすい。</p> <p>○6年「病気の予防」新型コロナウイルス感染症についての資料では、新型コロナウイルスの情報だけでなく、感染症に関する差別をなくすという視点も明記されている。</p> <p>●5年「不安やなやみへの対処」軽い運動で解消例が1人で行う運動のみなので、複数人で対話しながらできる体ほぐしのねらいに資する運動の例示がない。</p> <p>●5年「交通事故の防止」危険な状況を探す挿絵がもう少し大きいとさらに、課題意識をもたせることにつながる。</p>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		G a k k e n
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	○教科の目標達成に結び付く内容構成で、授業時数に対して適切である。 ○学年児童の発達の段階に適応した指導展開になっている。
	(2) 内容に関する 配慮事項	○学習の進め方が3段階のステップでまとめられており、系統的・発展的な指導が充実できるように配慮されている。 ○单元ごとに振り返りのページがあり、学習のまとめができる。 ○記述欄が豊富に設けてあり、言語活動の充実に配慮されている。 ○学習の流れ図示されており、学習の流れが分かりやすい。 ○1単位時間の内容が見開きでまとめられ、学習内容がとらえやすく、学習活動の流れがわかりやすい。思考した様子が残る記述欄があるので学習の足跡も残り、自ら学ぶ意欲や思考力が見え、評価しやすい。 ●他教科との発展が、章の扉部分にしか記載がない。 ●グラフや表の数がもう少しあればよい。
	(3) 分量	○書き込み欄が豊富であるため、他のワークシートを使わずに授業から評価まで行うことができる。 ●ページ数は若干多い。(5・6年:89ページ、3・4年:49ページ)
	(4) 使用上の便宜	○写真や図のサイズが大きく見やすい。 ○巻末にある安全な生活の仕方についてSNSの正しい使い方について詳しく触れており、実態に応じて活用しやすい ○適宜、資料が掲載されていて、参考資料を活用しながら学習を深めることができる。 ●イラストや写真等の資料が少なく、詳細が記載されていないため、教師側からの情報提供が必要な箇所がある。
	(5) 印刷・製本等	○フォントが統一されており、見やすい。 ○ユニバーサルデザインの配色について、より意識されている。 ●大切な言葉が強調されていない。太字で強調されている点が少ない。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	○「予想しよう」や「チェックしよう」で子どもの興味・関心を高め、学習を深めていくための配慮が行き届いている。 ○写真がコロナ対応のマスク姿のものが多く取り入れられている。 ○3年「1日の生活のしかた」運動、休養、睡眠の内容が充実しており、心身の健康の保持増進につながる。 ○4年「大人に近づく体」で発育の男女差について、イラストで表現しており配慮されている。 ○5年「不安や悩み」を記入する欄に(人に見せる必要はない)など、プライバシーに配慮した欄があり、個に応じた配慮がなされている。 ○5年「不安やなやみへの対処」の軽い運動の解消例がペアで行うものがあり、対話しながら活動できる例示がよい。 ○5年「心と体のつながり」「不安や悩みへの対処」の導入の写真は、あえて背後からの写真が掲載されており、学習課題が自分の課題としてとらえやすいものになっている。 ●4年「変化してきたわたしの体」で両親がそろった絵を使用している。家族の形も多様化している中で、配慮が少し必要だと感じる。	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

令和六年度使用小学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会（外国語）

報告書

令和5年6月 21日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目(外国語)

部長 緒方 真奈美



令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について(報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長 山田 百合子



副部長 大島 健太郎



委員 高崎 匠



委員 山口 耕平



委員 福田 峻也



委員 川本 麻美



委員 村木 閑



委員 高城 直子



委員 印

委員 印

観 点		発行者名 東京書籍
1 各 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領に示された内容項目について全て取り上げている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元名の後に「Our Goal」が設定されている等、言語活動の充実についての配慮がされている。</li> <li>系統的な指導ができる。</li> <li>「書くこと」の領域に重きが置かれている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>書く活動では、「書き込み」が多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>Picture Dictionaryが別冊になっており、使いやすい。</li> <li>Picture Dictionaryが1冊になっているため、既習事項を振り返りながら学習することができる。</li> <li>Picture Dictionaryは2年間で1冊であるため、紛失すると大変である。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書サイズ(A4)が大きい。</li> <li>ワークシートを兼ねた教科書編成になっている。</li> <li>薄いので、かさばらない。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<p>「話すこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数單元ごとに設定されている Check your Steps で、それまでに学んだことを生かした発表の活動が位置付けられている。ただし、配当が2時間となっていて、その時間で実施するのは難しい。</li> </ul> <p>「聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聞き取りのポイントが多すぎる。</li> </ul> <p>「読むこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読む活動が単元の最後に位置付けられているため、児童の言語習得の順序に沿っていない。</li> <li>5年生の「読む」活動については、1か所しか出てきていない。</li> </ul> <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書くこと自体が目的になる可能性があり、こなすだけの作業のような授業になりそうな印象がある。</li> </ul> <p>※ デジタル教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チャンツ、音付きディクショナリーで楽しく学ぶことができる。</li> <li>日本と世界のデジタルマップが用意されており、行きたい場所や紹介したいものを調べることを通して、国際理解を深めることができる。</li> </ul> <p>「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎単元の終わりに、日本で働く外国人のインタビューを聞く活動があり、日本における国際化や多様性についても併せて学ぶことができる。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		開隆堂出版
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領に示された内容を網羅している。</li> <li>ほぼ全ての学習活動において、目的が示されている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元のゴールや単元の進め方についてステップごとに細かく目標が設定されているため、児童も教師も分かりやすい。</li> <li>単元を通じて言語活動を行っている。</li> <li>各単元に、指導上の観点や他教科等との関連が記載されている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>適当である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての活動について、領域と評価の観点が記されている。</li> <li>教師用指導書の単元の流れが一目で分かるため、短時間で授業準備ができる。</li> <li>スモールトークの進め方例が毎時間あるため、参考にしやすい。</li> <li>単元で使用する言語材料が別冊 Word Book の何ページに掲載されているのか示されていて、参照しやすい。</li> <li>ワードブックが、学年ごとに分かれているので、児童にとって管理がしやすい。</li> <li>単元末に Let' s Check という項目があり、聞くこと・読むこと・書くことの評価につなげられる部分があるが、言語活動ではないため、テスト的要素が大きい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙質は、文字が書き込みやすいものとなっている。</li> <li>Word Book に日本語索引がついており、和英辞典として使用できる。児童の個別最適な学習にも適している。</li> <li>A4サイズでやや大きく、1ページの情報量が多い。</li> <li>余白が少なく、どの情報に着目すればよいか分かりにくい。</li> <li>字は大きめだが、行間がつまりすぎており、字がやや読みづらい。</li> </ul>
2 教科ごとの選定の観点	<p>「話すこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思考力・判断力・表現力につながる目的・場面・状況の設定が常に意識できるような、活動提示文になっている。</li> </ul> <p>「聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Let' s Listen の英語の量が適切であり、話す活動につながるものとなっている。</li> <li>どのような状況で話されるかが明記されており、学習者がどのような目的で聞くのか明確である。</li> </ul> <p>「読むこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の最後に Story Time がある。単元で学習した単語が使用されており、外国語科の学習経験と合わせて少しずつ読む量が増え、適切である。一方で物語のような読み物となっていない。</li> </ul> <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習の進行に合わせてスモールステップで少しずつ書く活動が取り入れられている。</li> <li>毎時間「聞く」「話す」活動を十分に行った後、最後に「書く」活動が設けられており、教科書に書き込めるようになっているので、授業形式についてよい意味でのパターン化が図られる。</li> </ul> <p>※デジタル教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワードブックのデジタル版は一貫性があり、タッチした単語の発音やスペルの確認をすることができ、児童が言いたい・表現したいことを表現しやすい。</li> </ul> <p>「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2～3単元ごとに「先生と話をしよう」というコンテンツが設けられており、パフォーマンステストの計画が立てやすい。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名 三省堂
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元によって学ぶ言語活動の偏りがあり、学習指導要領に示す事項を学ぶための効率が悪い。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物の言語活動例が児童に身近なものである。</li> <li>・ 巻末にプログラミング教育と関連付けたページがある。</li> <li>・ 単元のゴールが児童の意欲を引き立てるようなものになっていないものがある。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ picture dictionaryが別冊なのがよい。掲載量が多いが、文字は小さい。1冊なので2年間使用できるが紛失する恐れがある。</li> <li>・ 「書く」活動のワークシートが少ない。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A4サイズでやや大きく、1ページの情報量が多い。</li> <li>・ 全体的に文字が小さく、字体がUDフォントでないため、読みにくい。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<p>「話すこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表の活動では、児童にそのまま配付できそうなループリック表が用意されている。</li> </ul> <p>「聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Story Timeで、世界の童話が取り上げられている（名著、国語の教科書に載っているもの等）。</li> <li>・ Lessonのはじめの「聞く」活動が長い。</li> </ul> <p>「読む活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に取り上げられていない。</li> </ul> <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻末の付録カードを入れ替えて書く練習ができるため、語順や文構造の気付きにつながりやすい。</li> <li>・ 各ページ下部に「書くこと」に関するきまりやアドバイスが掲載されており、児童にとっても指導者にとっても「書くこと」の指導がしやすいよう配慮されている。</li> </ul> <p>※ デジタル教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタルコンテンツとして、各単元のロードマップが用意されている。</li> <li>・ 単元の導入時に、単元のゴールや見通しが細かく示されている。反面、学級の実態に応じて単元のゴールや学習計画を児童と考える際に余計な情報となる。</li> <li>・ 現時点ではチャンツのイラストが動かず、字幕の有無が選択できない。</li> </ul> <p>「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体構成について、「HOP STEP JUMP」「Lesson」「unit」等、複雑なため、理解しにくい。</li> <li>・ 単元によって構成が違うため、指導者の授業理解の手間がかかる。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観 点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較的易しい語彙が使われている。</li> <li>・ 全体的に言語材料が少なく、固定的になっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 系統的な指導ができている。</li> <li>・ 指導の順序が「聞く→話す→読む・書く」に固定化されている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適当である。</li> <li>・ 全体的に「聞くこと」の活動が多い。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元のゴールが示されている。</li> <li>・ 巻末のカードが品詞によって色分けされているため、語順を意識しやすい。</li> <li>・ 単元名が英語表記のみになっている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イラストと文字の比率が適当で見やすい。</li> <li>・ 文字がやや小さくなっている。</li> </ul>
2 教科ごとの選定の観点	<p>「話すこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ やり取り・発表の会話例に番号がついており、台詞を覚える形式になっている。</li> </ul> <p>「聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6年生「Let' s be friends.」の導入で聞くこと分量が増え、多すぎる。</li> </ul> <p>「読むこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読むについては、「書くこと」と「読むこと」でセットになっている。</li> </ul> <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アルファベットを学習する順序が直線→カーブ等簡単なものになっている。</li> <li>・ 5年生は途中から「書くこと」が出てくる。</li> <li>・ 4線の幅が、等間隔に近くなり、中学校での書く活動につなげやすい。</li> <li>・ 巻末のワークシートは、一文の最初が固定化されており、児童が目的に応じて書く内容を再構成する等、思考・判断することができない。</li> </ul> <p>※ デジタル教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Let' s action の動画例は目的・場面・状況に応じた内容になっていない。</li> <li>・ Let' s say it together のリズムが悪く、繰り返しの練習がしづらい。</li> </ul> <p>「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGs の視点を意識したページがある。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		光村図書出版
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	・ 学習指導要領に示す内容について、過不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	・ 登場人物が児童の身近な生活に即した例を示しているため、児童が自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を行うことができる。
	(3) 分量	・ 適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻頭にCAN-DOリストがあり、自己評価も書き込めるようになっている。また、「いつもたいせつ」のページにコミュニケーションポイントが分かりやすく示されている。</li> <li>・ 単元目標に「目的・場面・状況」が示されており、具体的で分かりやすい。</li> <li>・ 絵辞書が別冊になっていて、使いやすい。</li> <li>・ 巻末に、2年間で学ぶ表現等がまとめられており、既習を想起することができる。また、「Response」が付録されており、児童が会話を続けるための英語に、慣れ親しむことができる。</li> <li>・ 帯活動である、Small Talk のトピックが、教科書にも示されている。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印刷は鮮明であり、フォントが見やすく、文字の大きさも適切である。</li> <li>・ 紙が薄く、丈夫でない。</li> </ul>
2 教科ごとの選定の観点	「話すこと」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動ごとに、話すときのポイントが示されている。</li> <li>・ 発表の単元において、伝える順序を入れ替える等、目的に応じて思考・判断することができる。</li> <li>・ 発表場面では、書いた原稿を読んでいる姿が記されており、適切でない。</li> </ul>
	「聞くこと」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Let's Watch等の活動は、イラストではなく、実在の人物のスピーチとなっており、場面や状況を推測しながら聞くことができる内容となっている。</li> </ul>
	「読むこと」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読むについては、「書くこと」と「読むこと」でセットになっている。</li> <li>・ 短めの物語教材が学年に一つずつしかない。</li> </ul>
	「書くこと」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ピリオドや文字の間隔、4線に着色されている等書くときの説明や色分け等の配慮がある。</li> <li>・ 日本語や英語、中国語等、さまざまな言語の語順の違いに気付くことができる。</li> </ul>
	※ デジタル教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あらゆる単元で、ICT端末を活用したコミュニケーションについて紹介している。</li> <li>・ 全ページにQRコードが掲載されていて、関連するデジタルコンテンツに素早くアクセスできる。</li> <li>・ 学習者が、音声のスピード（8段階）、文字の大きさやルビ、色等を変更することができる。</li> <li>・ 児童が自分でフラッシュカードを作成する機能等があり、自ら考え、学ぶことができる。</li> <li>・ チャンツの動画では、歌詞の文字が大きく表示され、歌っている部分がハイライトで示されるので「読むこと」につなげることができる。</li> <li>・ デジタル教材が充実している分、「話す」活動が「聞く」活動に置き換えられる可能性がある。</li> </ul>
	「その他」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「言葉について考えよう」のコラムで、日本語と英語の共通点・相違点を取り上げることで、言語に対する興味・関心を高めたり、英語を学ぶ意義を考えたりすることができる。</li> <li>・ 単元の構成が、聞く→（外国語活動的な）やり取り→話す（言語活動）の繰り返しとなっており、自分の考えや気持ちを伝える活動が単元の終末にしかない。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」

及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		啓 林 館
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	・ 比較的易しい表現や言語材料が使われている。
	(2) 内容に関する配慮事項	・ 他国の文化やSDGsに関する写真や資料が豊富であり、自国の文化と比べ、外国語科の見方・考え方を働かせることができる内容である。
	(3) 分量	・ 学習活動の掲載がやや少ない。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巻末に、Unit ごとのCAN-DOリストがあり、児童が自分の学習を自分でふり返り、調整することができる。</li> <li>・ Word listの単語が豊富である。</li> <li>・ 巻末に「会話を楽しむフレーズ集」が付録されており、児童が会話を続けるための英語に、慣れ親しむことができる。</li> <li>・ 絵カードが小さく、数も多い。管理が煩雑である。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イラストは多いが、日本語、英語共に、全体的に文字が小さい。</li> <li>・ ページの大きさに対して文字が小さい。</li> <li>・ カードを貼るActivityのページが少ない。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<p>「話すこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Activityの量が少ない。</li> </ul> <p>「聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞く活動が多い。</li> <li>・ 最初から聞かせる量が多い。</li> </ul> <p>「読むこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読む活動がほとんどない。</li> </ul> <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第5学年では、書き写しの量が少ない。一方で第6学年では単元の終末に、一度に書かせる活動の設定になっており、書く分量が多い。</li> </ul> <p>※ デジタル教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Watch and Sceneの動画が長い。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

令和六年度使用小学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会（道德）

報告書

令和5年6月19日

北九州市教育委員会  
教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目( 道徳科 )

部長 西村直美 

令和6年度使用小学校教科用図書の調査研究について(報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長 島 利弘 

副部長 有吉 淳 

委員 長濱 正洋 

委員 島田 貴代美 

委員 森 麻惟子 

委員 今永 美香 

委員 福永 健悟 

委員 小林 史典 

委員 印

委員 印

観 点		発行者名	東京書籍
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げられている。</li> <li>・ 学年の発達段階に適した内容になっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「つながる・広がる」のコラム（1学年10～12か所）が設けてあり、情報リテラシーやSDGsなど現代的な課題について取り上げてあることで、発展的な学習や他教科等の関連でも活用できる。（全学年：情報モラル・2、5、6年：SDGs）</li> <li>・ 「問題を見つけて考えよう」や「演じて考えよう」があり、問題解決的な学習や体験的な学習ができるようになっている。</li> <li>・ 教材の後ろにある「つながる・広がる」では、本の紹介がされているものもあり、家庭や地域で活用することが可能になっている。（各学年1～4教材程度）</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材数（35）・一教材の分量ともに適切である。</li> <li>・ 一教材が長いものが多いため、教材理解に時間がかかる。（高学年）</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての教材にQRコードがあり、教材文の朗読や紙芝居、デジタルノートなどが充実しており、活用の幅が広がる。また、字幕があるので、視覚的にもわかりやすい。</li> <li>・ 心情円盤（4～6年）が付録でついているので、授業ですぐに活用できる。</li> <li>・ 表紙の短い言葉と表紙裏の詩が道徳開きのオリエンテーションに活用しやすくなっている。</li> <li>・ 目次で、SDGs やいじめ等に関する教材を探しにくい。</li> <li>・ 文字が小さく、行間が少しせまく読みにくい。（高学年）</li> <li>・ 教材のはじめにリード文がないので、教材に興味・関心をもたせにくい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印刷が鮮明であり、字体等が適切である。</li> <li>・ 奇数ページから始まっている教材があり、右側の教材文が目に入り、使いにくい。</li> </ul>
2	教科ごとの選定の観点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡県出身「中村哲」さんを取り上げた教材がある。郷土の偉人を取り上げることでシビックプライドの醸成につなげることができる。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教育出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げられている。</li> <li>学年の発達段階に適した内容になっている。</li> <li>5年生の「B 人との関わりに関すること」の教材が少ない。(5項目で6教材)</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻末の「資料」は、学年の発達段階に応じた内容になっており、教材からつないだり、他教科との関連を図ったりするなど、発展的な学習ができる。</li> <li>「学習内容一覧」では、SDGs との関連等が示されているので、SDGs を意識した指導ができる。</li> <li>教材末には「考えよう」「深めよう」「つなげよう」があり、「つなげよう」は、生活を振り返ったり、学習後の活動につなげたりすることができる発問になっている。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材数(35)・一教材の分量ともに適切である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材名の横や下に主題名やリード文があるので、教材に興味・関心をもたせやすい。</li> <li>体験的な活動(役割演技)や問題解決的な学習の学び方が各学年に入っているので多様な学び方ができる。</li> <li>「いじめ」「情報」「いのち」に関する教材が各学年に位置づけられ、色付けされ分かりやすくユニットが組まれている。</li> <li>GIGA 端末の活用の仕方が明記されているが、道徳科としては内容が薄い。</li> <li>教材のはじめにあるQRコードは、あらすじや補足説明が書かれてあるだけなので、活用しづらい。</li> <li>自然愛護に関するページなどイラストが小さく、活用しづらいページがある。</li> <li>目次の数字が小さく、教材名から離れているためわかりづらい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>奇数ページから始まっている教材があり、右側の教材文が目に入り、使いにくい。</li> <li>すべての教材名がフォントの形や色がバラバラなため、4つの視点の色と混乱する。</li> <li>上下の空白部分や挿絵が切れている部分があり、イラスト掲載に一貫性がない。(例：1年生かぼちゃのつるやはしのうえのおおかみ)。</li> <li>教材ごとに文字の大きさが異なり、違和感があるものもある。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材毎に「学びチェック」があり、毎時間の道徳科の振り返りができる。しかし、巻末の「学習を振り返ろう」のページでは、児童が記述式の振り返りを書く回数が少ないので、自己の成長を実感しづらい。</li> <li>福岡県出身「中村哲」さんを取り上げた教材がある。郷土の偉人を取り上げることでシビックプライドの醸成につなげることができる。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	光 村 図 書 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領に示されたすべての内容項目が取り上げられている。</li> <li>・ 学年の発達段階に適した内容になっている。</li> <li>・ 5年生では、「C主として集団や社会との関わりに関すること」の教材が少ない。(7項目で9教材)</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年最初の教材は、QRコードで動画が閲覧でき、道徳で学ぶ内容項目について詳しく説明してある。学年に応じた紹介の仕方がしてある。</li> <li>・ 3～6年生では、2つ目の教材で「道徳の学び方」が示されており、児童や若年教員も使いやすい。</li> <li>・ 主題名がわかりにくく道徳的価値への方向付けに生かしくい。本書が示す「とびら」と主題名との違いがわかりにくい。(巻末の一覧表には主題名が書かれている)</li> <li>・ 教材外の「考えるヒント」で多様な学び方を紹介しているが、内容が多く、活用しづらい。</li> <li>・ 4年「生きているしるし」の教材では、両親が誕生を喜ぶ場面が描写されている。様々な家庭の事情をもつ児童への配慮が必要である。</li> <li>・ 挿絵の中に、外国籍の児童も掲載がある。ダイバーシティの視点も取り入れられている。</li> <li>・ 教材の後ろにある「つなげよう」では、本の紹介がされているものもあり、家庭や地域で活用することが可能になっている。(2年生以上で2～7教材程度)</li> </ul>
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材数(35)・一教材の分量ともに適切である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材名の下にリード文があるので、教材に興味・関心をもたせやすい。</li> <li>・ どの教材も発問が4つ程度掲載されているため、若年の先生にとっては1単位時間の授業構成がしづらい。</li> <li>・ 写真は鮮明だが、挿絵が独特で児童の意識がそちらに向いてしまうものがある。</li> <li>・ ページがうすいので、めくりにくく、前ページの挿絵や文字が透けて見えるので使いづらい。</li> <li>・ QRコードで教材を音声で聞いたり、資料の補足説明が見られたりするが、すべての教材にあるわけではない。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奇数ページから始まっている教材があり、右側の教材文が目に入り、使いにくい。</li> <li>・ 写真等の資料が大きく、鮮明なので視覚的に配慮されている。</li> </ul>
2 教科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学びの記録」があり、児童がシールや一言感想で学習を振り返ることができたり、教師が児童の成長の姿を評価できたりするが、振り返りを書く場所が小さくて活用しづらい。</li> </ul>

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		日本文教出版
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領に示されたすべての内容項目が取り上げられている。</li> <li>・ 学年の発達段階に適した内容になっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ぐっと深める」では、問題解決的な学習や体験的な学習ができるようになっており、多様な学び方ができる。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の分量が適切であり、付録教材が3つついており、児童の実態に応じて選択することが可能である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材名の横や下に主題名とリード文があるので、教材に興味・関心をもたせやすい。</li> <li>・ 道徳ノートがあることで、書く活動に取り組ませやすい。また、発問が記載されていないことで、多様な場面で活用しやすい。しかし、若年には、発問の記載があったほうが授業で活用しやすい。</li> <li>・ 1年生のノートは、マス目になっているが、字数が制限されるので、罫線の方が自由に思いを書くことができると思われる。</li> <li>・ すべての教材にQRコードの掲載がある。それを読み込むと朗読やワークシート、関連動画があり、デジタルコンテンツが充実している。</li> <li>・ 教材によっては、教科書に書き込むページがあり、それをもとに議論しあえるように構成されている。</li> <li>・ すべての教材に、登場人物の紹介やあらすじが掲載されており、教材理解がしやすい。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印刷や字体等は、適切であると考ええる。</li> <li>・ すべての教材が偶数ページから始まっており、使いやすい。</li> <li>・ 写真やイラストが大きく、教材理解をさらに高めることができる。</li> </ul>
2 教科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材末に「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」の掲載があることで自己を見つめ、自己の生き方について考えやすい発問を設定しているので、授業展開しやすい構成になっている。</li> <li>・ 北九州市出身「藤田哲也」さんを取り上げた教材がある。郷土の偉人を取り上げることでシビックプライドの醸成につなげることができる。(北九州道徳郷土資料掲載の作品が引用されている。)</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		光文書院
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領に示された内容項目をすべて取り上げている。</li> <li>・ 学年の発達段階に適した内容になっている。</li> </ul>
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「へこんでもたちなおる」のページでは、レジリエンスコラムを設け、児童自身が自分の「心の力」について考えられるように工夫されている。</li> <li>・ 「みんなでつくる」のページでは、全学年で、SDGsを取り上げている。</li> <li>・ 体験的な学習ができるページが1教材あるが、問題解決的な学習のページがないため、他社に比べ多様な学習に取り組みづらい。</li> <li>・ いくつかの教材では、QRコードからインタビュー動画や教材を補足する動画が閲覧でき、教材に興味・関心をもたせやすい。</li> <li>・ 3年「安藤百福」4年「バスの停留所」など漫画で構成しているので親しみやすい。しかし、範読しづらく、必ずしも読みやすさが、児童の教材理解につながっているとは言えない。</li> </ul>
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の分量が適切であり、付録教材が5つついており、児童の実態に応じて選択することが可能である。</li> </ul>
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材名の横や下に主題名とリード文があるので、教材に興味・関心をもたせやすい。</li> <li>・ どの教材も発問が4つ程度掲載されているため、若年の先生にとっては1単位時間の授業構成がしづらい。</li> <li>・ 全学年の巻頭では、フローチャートやウェビングなど絵や図を使って考える方法やノートの使い方を紹介しているので学習に活用しやすい。</li> <li>・ 目次が二段になっており、数字が重なって見づらい。</li> <li>・ 他社に比べ、「内容項目教材一覧」の他教科との関連が少ない。</li> </ul>
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての教材が偶数ページから始まっており、使いやすい。</li> </ul>
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北九州市にある教会での取組を取り上げた教材や福岡県出身の「中村哲」さんを取り上げた教材、「田中久重」さんを取り上げた教材を掲載しており、シビックプライドの醸成につなげることができる。</li> <li>・ 「学びのあしあと」は、児童の自己評価や教師が児童の成長の姿を評価することにも活用できる。</li> </ul>	

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	G a k k e n
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。</li> <li>・ 学年の発達段階に適した内容になっている。</li> </ul>	
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「心のパスポート」や「深めよう」のページが設けてあり、体験的な学習や問題解決的な学習もでき、発展的な学習や他教科との関連で様々な活用ができる。</li> <li>・ 挿絵の中に、外国籍の児童や職業の性差の偏りがないように配慮された教材もある。</li> </ul>	
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材数（35）・一教材の分量ともに適切である。</li> </ul>	
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材名の下に現代的課題を示すマークが示されており、身の回りの課題とつなげやすくなっている。</li> <li>・ 主題名が、各教材の始めに明記されていない。</li> <li>・ リード文が掲載されている教材はあるが、そのリード文の意味が分かりにくく、児童に興味関心をもたせにくい。</li> <li>・ QRコードのデジタルコンテンツが他社に比べて少ない。</li> <li>・ 教材によっては、イラストが小さいものもあり、授業で活用しづらい。</li> </ul>	
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印刷や字体等は、適切であると考ええる。</li> <li>・ すべての教材が偶数ページから始まっており、使いやすい。</li> </ul>	
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材末に「考えよう」の掲載があることで自己を見つめ、自己の生き方について考えやすい発問を設定しているので、授業展開しやすい構成になっている。</li> <li>・ テーマ別のマークが多すぎて分かりにくい。</li> <li>・ 巻末の「つなげよう広げよう」のページでは、記入欄が少ないため、児童の振り返りや教師の評価につなげにくい。</li> </ul>		

※ 「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。